336

特210
546

勞働用語集

大阪市社會部調査課

昭和六年第一四四號

0037481000

0037481-000

特２１０－５４６

労働用語集

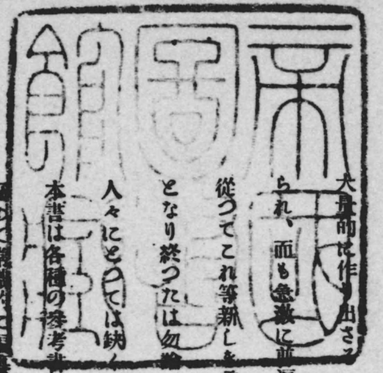
大阪市社会部調査課

昭和６

AGF

特210
546

はしがき



晩近社會の顯著なる發達に伴ひ、また新しき文化の大衆化と專門的科學の常識化と相俟つて所謂新しき言葉が大量的に作り出され、而も急激に普遍化せられて日常座談の間にも盛に使用せられつゝある現狀にある。とり分け勞働問題・思想問題の領域に於いては嶄新なる用語が續々と創出せられ、從つてこれ等新しき言葉のある程度までの知識は今日のあらゆる社會事象の正しき理解のために必要なるものとなり終つたは勿論、近代人の一資格として要請せられつゝある現狀にあり、殊に社會的な仕事に關係ある人々にとつては缺くべからざるものとなつてゐる。

本書は各種の參考書より主として勞働運動に關する新語を蒐錄し、これに簡單なる說明を附したものであつて、極めて常識的に編纂せられ、ただ一般社會人に利用せられ樣ことを意圖してつくられたものなるが故に、專門的に見て到底不備・不徹底たるを免れ得ないであろう。併しこの種文獻のしきりに要望せられてゐる折柄、本書が幾分でもこの目的のために寄與するところがあれば幸甚である。

凡例

一　項目の配列はまづＡＢＣ順に區分したものをアイウエオ順に整理し清音を濁音のさきにおいた。

二　發音讀方は文法に拘泥せず普通の呼稱に從ひもつぱら見やすいやうにつとめた。

三　人名は主として外國の實際運動家の中より採錄することゝしわが國のそれは除外した。

四　特種の無產政黨・勞働組合は項目の中に加へたが他は一覽表として巻末にかゝげた。

五　書き洩した項目で校正中に氣づいたものはなるべく巻末に附加へるようにした。

目次

A

アイアン・ロー……一
アイコノクラズム……一
アイスネル……一
アイゼナッハ綱領……一
アイ・ダブリュー・ダブリュ……一
アイ・テイー・エフ……一
アイドル……一
アイドル・システム……一
アイロニー……二
アウフヘーベン……二
青線……二
青田買賞……二
青テーブル……二
赤字問題……二
赤大根……二
赤電……二
赤旗事件……二
アカバイ……二
アクション・プログラム……三
アクセリロード……三
アグレマン……三
アーケード……三
アーゲント……三
アジ……三
アジア勞働組合會議……三
アジテーション……三
アジテート・ポイント……三
アジト……三
アジ・プロ……四
與へよ病……四
アダルト・エデュケーション……四
アッピール……四
アー・デー・ゲー・ベー……四
アド……四
アドレス……四
アドレル……四
ア　ナ……四
アナクロニズム……四
アナルコ・サンヂカリズム……四
アバンガルト……四
アパツシュ……四
アヒムサ主義……五
甘柏事件……五
天降り式……五
アムステルダム・インタナショナル……五
アラデイン……五
ア・ラ・モード……五
アリストクラシー……五
アリバイ……五
アール・エス……五
アール・エス・エフ・エス・アール……五
アルヒーフ……六
アンゲータ……六
安全辨……六
安息日……六
アンチ・ミリタリズム……六

アンフアンタン……六

B

ヴアルガ……六
ヴアンガード……六
ヴアンデルヴエルト……七
ヴアンパイアー……七
倍加運動……七
賣文社……七
バクーニン……七
暴露戰術……七
バス・コントロール……七
バリケード……七
萬人最高の完成……七
ヴイダールニキ……八
ヒー・シー……八
ブ・カ・ブ……八
ヴスタフ……八
ブハーリン……八
歩增し……八
ブラック・コート……八
ブラック・リスト……八
ブラックレツグ……八
ブキンキー……八
ブランキーズム……八
ブルジヨア……九
文藝戰線……九
文書會議……九
文　戰……九
ペドニアーク……九
ベーベル……九
ベルンシユタイン……九
便衣隊……九
歸證法……一〇
歸證法的唯物論……一〇
ボイコット……一〇
ボオクス……一〇
ボグダノフ……一〇
ボス……一〇
ボードビル……一一
ボーナス制度……一一
ボナパルテイズム……一一
ボヘミアン……一一
ボル……一一
ボルシエヴイキー……一一
ボルシエヴイキー・インタナシヨナル……一一
ボルシエヴイズム……一一
ボロヂン……一一
ボンダレフ主義……一二

C

治安警察法……一二
チエツカ……一二
チエルヲネツツ……一二
チエーン・ストア……一三
地下運動……一三
地下團體……一三
地下本部……一三
チ　ク……一三
治警第十七條……一三
チチエリン……一三
血の日曜日……一三
チヤーチスト運動……一三
中間階級……一三
中間階級運動……一三
中間派……一三
中國共產黨……一四
中人……一四
擔軍……一四
賃銀基金說……一四
賃銀鐵則……一四
陳獨秀……一四
陳友仁……一五

D

第一インタナシヨナル……一五
大逆事件……一五
第三インタナシヨナル……一六
第三階級……一六
第四インタナシヨナル……一六
第四階級……一六
ダイナマイテイズム……一六
第二インタナシヨナル……一六
第二半インタナシヨナル……一七
大日本地主協會……一七
大日本生產黨……一七
ダーク・サイド……一七
ダーク・ホース……一八
ダラ幹……一八
ダリバンク……一八
團結權……一八
ダンピンク……一八
ダイアレクテイーク……一八
ディーツゲン……一八
ディレクト・アクション……一九
デツド・ロツク……一九
デ・フリー說……一九
デマ……一九
デマゴーグ……一九
デモ……一九
デモンストレーション……一九
デユアリズム……一九
デユーリング……一九
傳單……一九
ドイツ革命……一九
ドイツ共產黨……二〇
ドウズ案……二〇
ドグマ……二〇
土着候補……二〇
堂々廻り……二〇
土幕……二〇
ドンキホーテイズム……二〇
ドンドン……二一

E

エー・アール・シー・テイー・ユー……二一
英雄病……二一
エー・エフ・エル……二一
エシエリツヒ……二一
エージエント……二二

エス・エス……二三
エス・エス・エス・エル……二三
エス・エフ・エス・エス……二三
エス・エム・ユー……二三
エス・エル……二三
エス語同盟……二三
エス・デイー……二三
エツカリウス……二三
エトランゼ……二三
エス・エス……二三
エー・ビー・シー……二三
エー・ビー……二三
エフ・エス……二三
エープリル・フール……二三
エーベルト……二三
エポツク・メーキング……二三
エルガトクラシー……二三
エル・ゲー・イー……二三
エルフルト綱領……二三
エンゲルス……二三
エンゲルス・ガール……二三
闇錫山……二四
袁世凱……二四
煙突男……二四

F

ファスシチ……二五
フェビアン協會……二五
フエミニズム……二五
フオイエルバツハ……二五
福本イズム……二五
不在地主……二六
懐手ストライキ……二六
不拂勞働……二六
フラクシヨン……二六
フラクシヨン運動……二六
フーリエ……二六
フリーメーソンリー……二六
フリー・ランサー……二六
フロム・ハンド・ツ・マウス……二七

G

外廓……二七
街頭細胞……二七
街頭分子……二七
學生社會科學聯合會……二七
學聯……二七
がさ……二七
がつちり……二七
ガンヂー……二七
ガンヂイズム……二八
議會主義……二八
ギヤツプ……二八
ギルド社會主義……二八
グリーン……二八
グリーン・ルーム……二八
グレシヤム法則……二八
グレーブ・コンセクエンス……二八
軍國主義……二八
軍事教練……二八
藝術社會主義……二九
ゲエ・ペー・ウー……二九
げら刷……二九
ゲルリツツ綱領……二九
現實主義……二九
ゲンブラン……二九
五ケ年計畫……二九
五權憲法……三〇
五卅事件……三〇
五四運動……三〇
ゴシツプ……三〇
ゴスプラン……三〇
ゴータ綱領……三一
ゴドウイン……三一
合同組合……三一
五法案要求運動……三一
ゴム判支部……三一
ゴールキイ……三一
ゴンパース……三一

H

排貨運動……三二
背教者……三二
ハインドマン……三二
白書……三二
白色……三二
白色テロ……三二
白表……三二
ハーゼ……三二
ハーデイ……三二
ハンガー・ストライキ……三三
半國家……三三
ハンザ同盟……三三
汎太平洋勞働組合會議……三三
半ダラ……三四
反帝……三四
反帝國主義運動……三四
反帝同盟……三四
ハンド・オフ・チヤイナ……三四
ハンド・バツク・ボーイ……三四
反動主義……三四
飯場……三四
罷業權……三五
罷業保險……三五
罷市……三五
日比谷座……三五
百パーセント……三五
日和見主義……三五
ヒルファーデイング……三五
フイジオクラシー……三五
フオード・システム……三六
フユーダリズム……三六
平服隊……三六
平民社……三六
ヘゲモニー……三六
ヘンダーソン……三六
保境安民……三六
封建制度……三六
ホワイト・スレーブ……三六

ホワイト・リスト……三七

I

イスクラ……三七
イズヴエスチヤ……三七
一揆托生……三七
イット……三七
イデオロギー……三七
移動本部……三七
イニシアチーブ……三七
イン・ザ・ネーム・オブ・ピープルス……三八
インスト……三八
インタナショナル……三八
インストラクション……三九
インダストリアル・コンビネーション……三九
インダストアリル・デモクラシー……三九
インダストアル・レボリユーシヨン……三九
インテリ……三九
インテリゲンチア……三九
インパルシズム……三九
インフレーシヨン……三九
インプレコール……三九
インペリアリズム……三九

J

示威運動……四〇
ジノヴイエフ……四〇
ジノヴイエフ書簡事件……四〇
事故なしデー……四〇
實質賃銀……四〇
自主的工場委員會……四〇
ジックザック……四〇
弱小民族……四一
ジヤコビニズム……四一
ジヤーナリスト……四一
十一月革命……四一
十月革命……四一
從業員組合主義……四一
十五ヶ年計畫……四一
自由出漁……四一
從斷組合……四一
柔盜……四一
ジユラ同盟……四二
自由聯合主義……四二
十六ミリ……四二
上部構造……四二
剩餘價値……四二
ジョーレス……四二
人權宣言……四二
人口論……四三
人民委員會……四三

K

カー……四三
階級……四三
階級意識……四三
階級闘爭……四三
解消派……四四
會審衙門……四四
カイゼリズム……四四
開店休業銀行……四四
解放運動犧牲者救援會……四四
解放聯盟……四四
改良主義……四四
カウツキー……四四
カカンニ……四五
科學的管理法……四五
科學的社會主義……四五
華僑……四五
擴大執行委員會……四五
家計調査……四五
影候補……四五
カザン大學……四五
カシヤン……四六
方階級……四六
滑準貨銀制度……四六
カツプ革命……四六
カテゴリー……四六
火田……四六
カード階級……四六
カナイスト……四七
可變資本……四七
カペー……四七
壁新聞……四七
カー・ペー……四七
カムフラージ……四七
カーメネフ……四七
カラハン……四八
カリニン……四八
カルテル……四八
カルナボリスト……四八
カール・ローザ・デー……四八
棺桶團體……四八
カン切り……四八
カンヂダーツ……四八
感情的社會主義……四八
罐詰……四八
カンパニーヤ……四九
官吏國庫納付金……四九
官僚幹部……四九
飢餓貨銀……四九
騎墻派……四九
貴族的組合……四九
狐狩り……四九
キム……四九
キヤピタリズム……四九
キヤンベル事件……四九
糾察隊……四九
共產主義……五〇
共產主義インタナショナル……五〇
共產黨事件……五〇
共產黨宣言……五〇
共產土曜日……五〇
京大事件……五〇
協調會……五〇
協調主義……五一
協同戰線……五一

切札……三一
切米……三一
錦旗革命……三一
キングスレー……三一
金肥……三一
金融寡頭政治……三一
ク・クラックス・クラン……三一
クーゲルマン……三二
空想的社會主義……三二
クック……三二
クーデター……三二
クートベー……三二
クーポン……三二
組合合同主義……三二
クラーク……三二
クラス・ストラグル……三三
クラッシン……三三
クラルテ……三三
クリウエル……三三
クリヤリング・セール……三三
クルプスカヤ……三三
黒シャツ黨……三三
クローズ・アップ……三三
クローズト・キャンプ……三三
クローズト・シヨップ……三四
クロポトキン……三四
鍬の筋……三四
契……三四
鍵鋼工業……三四
啓蒙運動……三四
ケー・ケー・ケー……三四
ケー・ツー・ケー……三四
潔癖派……三四
ケルン……三四
ケレンスキー……三四
建國祭……三四
檢束者同盟……三四
黄鴨……三四
黒化……三四
國家社會主義……三四
胡漢民……三五
國際運輸勞働組合聯盟……三五
國際決濟銀行……三五
國際社會黨……三五
國際水平運動……三五
國際補助語……三五
國際勞働組合聯合……三五
國際勞働者協會……三五
國際勞働デー……三五
黒表……三五
脊血制度……三七
耕作禁止……三七
耕作權……三七
公式社會主義……三七
黄色……三七
黄色組合……三七
工人會……三七
工場委員會……三七
工場代表者……三七
コスモポリタニズム……三七
工代……三七
講壇社會主義……三七
高等游牧民……三八
コードン……三八
衡平運動……三八
コーペレーション……三八
黄埔軍官學校……三八
コミサール……三八
込米……三八
交民巷……三九
コムソモール……三九
コムニスト……三九
コムレード……三九
コルホーズ……三九
コレツクテイヴイズム……三九
コロニー……三九
コロンタイ……三九
康有爲……三九
コンツエルン……三九
コンドルセー……三九
コンミユン……三九
コンミユン主義……六〇
コンミンテルン……六〇

M

マーカンテイリズム……六〇
マキシマリスト……六〇
マキヤベリズム……六〇
マクドナルド……六一
マタギ米……六一
マチネー……六一
マラソン・ダンス……六一
マルクス……六一
マルクス・デー……六一
マルクス・ボーイ……六一
マルサス……六一
マルトフ……六一
マン……六一
マン・ステイール・ウーマン・セル……六二
マンダート……六二
マンネリズム……六二
未組織大衆……六二
三菱村……六二
ミツドル・クラス……六二
ミツドル・クラス・ムーブメント……六二
未來派……六二
ミリタリズム……六二
ミリタント……六二
ミル……六二
ミルラン……六二
民生主義……六二
無新……六二
無政府主義……六二
ムツソリニ……六二
茗溪派……六二
ミカニカル……六四
メダカ支部……六四
メーデー……六四
メトーデ……六四

メモ……六四
メンシエヴイキー……六四
メンバー……六四
モーア……六四
目的意識性……六四
もぐら戦術……六四
モスコー・インタナショナル……六四
モダーニズム……六四
モップ……六四
モップル……六四
モップル事件……六五
モビリゼーション……六五
モメント……六五
モラトリアム……六五
モロトフ……六五
モンタージュ……六五

N

ナショナリズム……六五
ナップ……六五
ナロドニキ……六五
南京路事件……六六
ナンセンス・ボーイ……六六
二月事件……六六
二個半合同運動……六六
日常闘争……六六
二重組合主義……六六
二重貨銀制度……六六
二・二〇事件……六六
ニヒリズム……六六
日本共産党……六六
日本フエビアン協会……六七
日本プロレタリア藝術團體協議會……六七
日本勞働組合全國協議會……六七
日本勞働クラブ……六八
二枚羽織……六八
ネオ・マルサス主義……六八
鼠……六八
鼠工場……六八
ネップ……六八
ネップ・マン……六八
ノスケ……六九
ノーベル賞……六九

O

オーエン……六九
オー・ケー……六九
大御所……六九
オスボーン判決……六九
王正廷……七〇
小樽事件……七〇
横斷組合……七〇
汪兆銘……七〇
オートクラシー……七〇
オナー・システム……七一
オーバラップ……七一
オー・ヒー……七一
オブライエン……七一
オプラート演説……七一
オープン・ショップ……七一
大部屋……七一
オポジション……七一
オポチュニズム……七一
親方……七一
おらが内閣……七一
オルガナイザー……七二
オルグ……七二
オール・スター・キヤスト……七二
温情主義……七二
オンパレード……七二

P

パリアメンタリズム……七二
パリ・インタナショナル……七三
パリ・コンミューン……七三
パルチザン……七三
班……七三
パンカースト……七三
ピー・エヌ……七三
ピオニール……七三
ピオネル・オツリヤード……七三
ピケ……七三
ピケツチング……七三
ピース・ウオーク……七三
ピー・デイー……七三
ピー・ピー……七三
ブチブル……七三
ブチ・ブルジョア……七三
白丁……七三
ヒヤタレチカ……七三
ヒヤチズネーフカ……七三
ブラウダ……七四
ブラットフオーム……七四
ブルードン……七四
プレシヂユーム……七四
プレハノフ……七四
プレヌム……七四
プロキノ……七四
プログラム……七四
プロット……七四
プロテス……七五
プロビー・シー……七五
プロフイル……七五
プロフインテルン……七五
プロポリカルト……七五
プロレタリア……七五
プロレタリア獨裁……七五
プロレツトカルト……七五
ポリカルト……七五
ポリシー……七五
ポリバー……七五

R

ライト・ウイング……七六
ラサール……七六
ラシヨナリズム……七六
ラツテイング……七六
ラット……七六
ラット工場……七六

ラディカリズム……七六
ラファルグ……七六
ラブコル……七六
ランク・アンド・ファイル運動……七六
リアリズム……七七
臨金税……七七
リーフレット……七七
李大釗……七七
米勢米價……七七
リープクネヒト……七七
リベラリズム……七八
リヤザノフ……七八
両班……七八
綠色組合……七八
廖仲愷……七八
理論闘爭……七八
リング・リーダー……七八
ルイコフ……七八
ルクセンブルグ……七九
ルナチャルスキー……七九
ルンペン……七九
ルンペン・インテリゲンチア……七九
ルンペン・プロレタリアート……七九
レヴィジョニスト……七九
レヂデント……七九
レッド・プレス……七九
レニニズム……七九
レニン……八〇
レニン研究所……八〇
レニン・コーナー……八〇
レファレンダム……八〇
レフト……八〇
レフト・ウイング……八〇
レーボラ……八一
レボリューション……八一
レポ……八一
連續生産制……八一
ロシア革命……八一
ロシア革命デー……八二
ロシヤ共産黨……八二
ロック・アウト……八二
勞働科學……八二
勞働價値說……八二
勞働カルテル……八三
勞働貴族……八三
勞働組合主義……八三
勞働權……八三
勞働祭……八三
勞働者管理工場……八三
勞働デー……八四
勞働ブローカー……八四
勞働保險……八四
勞兵會……八四
ロボット……八四
ローマンデイシズム……八四
S
最惠國條款……八四
蔡元培……八五
最小抵抗線……八五
最底賃銀法……八五
細胞……八五
細胞組織……八五
再掠奪……八五
舍音……八六
搾取率……八六
サボ……八六
サボタージュ……八六
左翼小兒病……八六
サラリーメンス・ユニオン……八六
三・一運動記念日……八六
三・一五事件……八六
三益主義……八六
三エム政策……八七
三角同盟……八七
三月革命……八七
産業革命……八七
産業組合……八七
産業自治……八七
産業黨事件……八八
産業の合理化……八八
産業別組合……八八
産業別國際聯合……八八
産業民主主義……八八
産業豫備軍……八八
三ケー……八八
サンケイ報告……八八
散樣……八九
サン・シモン……八九
三制整理……八九
サンヂカリズム……八九
三ばん……八九
三八主義……八九
撒票……八九
三民主義……八九
三ロ主義……九〇
シオン運動……九〇
シー・ジー・アイー……九〇
シー・ジー・テイー・ユー……九〇
システム……九〇
自然生長性……九〇
思想エー・ビー・シー……九〇
シーソー・ゲーム……九〇
下からの攻撃……九〇
シナリオ……九〇
四八主義……九一
シー・ビー……九一
資本家インタナショナル……九一
市民層……九一
シヤイデマン……九一
社會革命……九一
社會契約說……九一
社會紐帶……九一
社會政策……九二
社會民主々義……九二
借區料……九二
上海假政府……九二
集產主義……九二
集成財……九二

修正派社會主義……九三
宗派主義……九三
宗派的分裂主義……九三
止揚……九三
ショウ……九三
蔣介石……九三
職場……九三
小兒病……九四
小兒病インタナショナル……九四
小數派運動……九四
證票契約……九四
ショービニズム……九四
小ブルジョア……九四
シー・ワイ……九四
新組合主義……九四
新經濟政策……九四
新々經濟政策……九五
新人會……九五
眞正マルクス主義……九五
滲透政策……九五
シンパ……九五
シンパサイザー……九五
新マルサス主義……九五
水平社運動……九五
睡眠銀行……九五
スウエテイング・システム……九六
スキヤプ……九六
スターリン……九六
スチエンガゼータ……九六
ストツページ……九六
ストライキ……九六
ストライキ・ブリーカー……九六
ストライキマン……九六
ストラテージ……九六
スナツプ・シヨット……九七
スノーデン……九七
スパイ……九七
スパルゴー……九七
スパルタクス團……九七
スペエツ……九七
スペンス……九七
スポーツ・インタナショナル……九八
スポーツインテルン……九八
スミス……九八
スミチカ……九八
スラム街……九八
スローガン……九八
スワラジー運動……九八
坐り込み……九八
清算……九八
清算派……九八
清黨……九八
青踏派……九八
正統派社會主義……九九
青年共產黨インタナショナル……九九
セカンド・ハンド……九九
赤衞軍……九九
赤軍……九九
赤色救援會事件……九九
赤色文書事件……九九
赤色勞働組合インタナショナル……九九
世紀末……一〇〇
セクション……一〇〇
セクト……一〇〇
セコハン……一〇〇
セツルメント……一〇〇
セミ・プロレタリア……一〇〇
赤化運動……一〇〇
赤化防止團……一〇〇
戰旗……一〇〇
戰線異狀なし……一〇〇
戰鬪的組合……一〇〇
セントラリスト……一〇一
セントラリゼーション……一〇一
相愛會……一〇一
ソヴイエト……一〇一
ソヴナルコム……一〇一
側面結婚……一〇一
總工會……一〇一
相互扶助論……一〇一
ソシアル・エデユケーション……一〇三
ソシアル・ソリダリテイー……一〇三
ソシアル・デモクラシー……一〇三
葬式組合……一〇三
組織勞働者……一〇三
蘇兆徵……一〇三
外からの攻撃……一〇三
ソプホーズ……一〇三
孫文……一〇三
總聯合運動……一〇三

T

大衆派……一〇三
大衆パン……一〇三
對蹠的……一〇三
對立分離主義……一〇四
タクチカ……一〇四
タクチック……一〇四
堵配當……一〇四
立入禁止……一〇四
立藥……一〇四
立毛差押……一〇四
タックル……一〇四
タツス通信社……一〇四
棚上げ……一〇四
ターニング・ポイント……一〇五
種蒔き社……一〇五
タワリシチ……一〇五
譚平山……一〇五
ツアーリズム……一〇五
ツンフト……一〇五
ツンフト的……一〇五
低回趣味……一〇五
帝國主義……一〇五
テーゼ……一〇六
テロ……一〇六
テロリズム……一〇六
テロル……一〇六
豚鼠……一〇六
テンポ……一〇六

闘争主義……一〇六
突變説……一〇六
トムスキー……一〇七
トラスト……一〇七
虎ノ門事件……一〇七
トルグラム……一〇七
トロツキー……一〇七
トンネル會社……一〇七

U

ウキーン・インタナショナル……一〇八
ウェツプ……一〇八
ヴ・カ・ペ……一〇八
薄張り……一〇八
内からの攻撃……一〇八
ウツイク……一〇八
馬なき人……一〇八
ウルトラ派……一〇八
ウルトラ・リンケン……一〇八

W

ワイ・シー・アイ……一〇九
ワンサ・ガール……一〇九
ワンパス・ガール……一〇九

Y

ヤカベ……一〇九
ヤチエイカ……一〇九
雇止め……一〇九
山宣追悼記念日……一〇九
闇の金曜日……一〇九
ヤンキー……一一〇
ヤング案……一一〇
唯物史觀……一一〇
唯物的辯證法……一一〇
唯物論……一一〇
ユー・エス・エス・エル……一一〇
有閑階級……一一〇
ユースメンバー……一一一
ユートピアン・ソシアリズム……一一一
ユニオン・レーベル……一一一
揚棄……一一一
四・一〇事件……一一一
ヨロケ……一一一

Z

ザツコ・ヴアンゼッチ事件……一一一
暫定綱領……一一二
ゼツコ……一一二
ゼネスト……一一二
ゼネバ・インタナショナル……一一二
前衛……一一二
全協……一一二
全協不安……一一三
全日本無産者藝術團體協議會……一一三
全露人民委員會……一一三
象牙の塔……一一三
ゾーン……一一三
ゾンバルト……一一三

追加

朝顔文士……一一四
アナ……一一四
部分的闘争……一一四
ブルジョア革命……一一四
第三期……一一四
第三史觀……一一四
打倒帝國主義……一一四
永小作……一一四
エス・オー・エス……一一五
ゴンパース主義……一一五
八・一闘争……一一五
反宗教運動……一一五
ハンスト……一一五
反戰カンパニア……一一五
反ソ戰線……一一五
法廷指令……一一五
幟幅上奏權……一一五
意識闘争……一一五
從業員組合主義……一一五
壁小説……一一六
官許デモ……一一六
關税政策……一一六
共同耕作……一一六
クレスト・インテルン……一一六
經濟的危機……一一六
經濟的暴露……一一六
經濟闘争……一一六
建國大綱……一一七
建國方略……一一七
國際赤色デー……一一七
國際無産青年デー……一一七
國際反戰デー……一一七
國際勞働會議……一一七
國際勞働事務局……一一七
耕地返還……一一七
公判闘争……一一七
コント……一一八
マス・ストライキ……一一八
無産階級革命……一一八
無産者モラトリアム……一一八
メッセージ……一一八
桃色インタナショナル……一一八
日常闘争……一一八
能的態度……一一八
大立物……一一八
オール……一一八
オールマイテイ……一一九
ピー・ピー……一一九
プロレタリア革命……一一九
プロレタリア・ヘロイズム……一一九
綠色インタナショナル……一一九
勞藝……一一九
勞働の攻勢……一一九
勞働者農民の政府……一一九
勞農團結……一一九
サンヂカリスト・インタナショナル……一二〇
資本主義の一般的危機……一二〇

資本の攻勢……一一〇
社會ファシスト……一一〇
社會民主主義……一一〇
宗教十字軍……一一〇
職業的革命家……一一〇
新共產黨宣言……一一〇
侵略社會主義……一一一
ステートメント……一一一
政治的危機……一一一
政治的罷業……一一一
政治鬪爭……一一一
赤色自衞團……一一一
赤色スポーツ……一一一
總同盟罷業……一一一
帝國主義戰爭……一一二
敵本主義……一一二
特權階級……一一二
トラ……一一二
寄合世帶主義……一一二
前衞……一一三
前線……一一三
全體的鬪爭……一一三
全協內刷新同盟……一一三

A

アイアン・ロー（Iron Law of Wages）
賃銀鐵則、その項參照。

アイコノクラズム（Iconoclasm）
偶像破壞、現在では一切の古い因襲や傳統を打破する意味に用ひられてゐる。

アイスネル（Eisner, Kurt. 1867—1919）ドイツ人
青年時代から社會主義運動に關與し、一九一八年のドイツ革命後はバイエルン共和國の首相と外相とを兼攝してゐた。後選ばれて同國の大統領となつたが一九年二月、反動主義者のために暗殺された。

アイゼナツハ綱領（Eisenacher Programm）
ドイツ社會民主黨の前身社會民主勞働黨（Sozialdemokratische Arbeiterpartei）が一八六九年アイゼナッハで組織されたときに採用した同黨の綱領である。

アイ・ダブリユ・ダブリユ（I・W・W）
世界產業勞働同盟（Industrial Workers of the World）の略、米國に於ける一大勞働團體で戰鬪的直接行動を主張してゐるが、大戰當時當局の彈壓のため相當大きな打擊をうけた。

アイ・テイ・エフ（I・T・F）
國際運輸勞働組合聯盟の略稱。本部はアムステルダムにある。近く極東地方にアジア書記局が配置される筈定である。極東でこれに加盟してゐる主な團體は北支那鐵道從業員組合、全インド鐵道從業員聯盟、インド海員組合等で、わが國では日本海員組合が加盟してゐる。

アイドル（Idol）
偶像、金、石、土、木等で造つた生物の形像を謂ふのであるが、思想上に轉用されると傳統的な先入謬見を意味する。

アイドル・システム（Idle System）
無割振り制度、操業短縮の一種。もと〳〵材料、天候等の都合で作業を繼續することが出來ない場合に一定額の勞賃を支給して職工を退場せしむる制度であるが近時經濟界不況の結果アイドル・システムがよく用ひられる樣になつた。最近には全然出社せず日給の六割五分を支給した實例もある。こんなのは一名歸休制度ともいはれてゐる。

アイロニー（Irony）
皮肉、諷刺の意。

アウフヘーベン（Aufheben）
揚棄、止揚と譯す。ヘーゲルの辯證法に用ひられる言葉で、對立物の鬪爭によつて低級から高級に押揚げられることをアウフヘーベンするといふ。例へば資本主義をアウフヘーベンすると言へば、對立物はプルジョアとプロレタリアであつて、この兩階級の階級鬪爭によつて、プロレタリアもプルジョアも廢棄され、階級のない新しい社會を作り出すことを意味する。

青線
勞働者のこと。

青田賣買
農夫が穀物の收獲前に穀物の出來榮えを見越して買手と賣買契約を締結すること。

青テーブル
高等官を意味する隱語、役所の高等官のテーブル掛けが大抵青ラシャを用ひてある所から出た語である。

赤字問題
昭和五年度決算に於いて、歲入不足のために約六千萬圓の赤字が出た、この赤字埋めの一策として官吏の減俸を斷行し約八・九百萬圓（六年度八百二十三萬圓、平年度九百八十八萬圓）を浮かしてこれにふりむけることゝなつた。
アメリカ、ドイツ等でも矢張り赤字問題が起り、殊にドイツでは增稅、減俸を斷行し重大問題となつてゐる。

赤大根
表面は過激な左翼らしい事を言ひ乍ら、內實はその行動が右翼的であるもの。もとは餓かプロ作家の嘲稱であつた、皮のみ赤く內部白き譬喩である。

赤電
外國電報のこと、受信紙が赤いのでこの名がある。

赤旗事件
明治四十一年七月、東京神田の錦輝館で開かれた社會主義者の出獄歡迎會の歸途、急進派の一團が赤旗を押し立てて示威運動を行つたゝめ、警官と衝突し堺、山川、大杉等が收監されるに至つた我が國の社會主義運動史上有名な事件である。

アカバイ
警視廳の追跡用オートバイのこと。赤色に塗つてあるからである。

アクション・プログラム（Action Program）
行動綱領、暫定的の行動の目標。

アクセリロード（Axelrod, P. B. 1850—1928）—ロシア人、青年時代はバクーニンの無政府主義に共鳴してゐたが、次いでナロドニキー運動に參加し後スキスに亡命して一八八三年プレハノフ等と共に勞働解放團を創設し又「イスクラ」の編纂に參與してゐた。一九〇三年メンシエビキー派を形成してこれが領袖となり、次いで淸算派の領袖となつた。一七年のロシア革命後はソヴイエト權力に反對し、第二インタナショナルに屬してゐる。

アグレマン（Agrement）
大公使を派遣するに先立ち相手國の承認を求むることになつてゐる、この外交形式をアグレマンといふ、先年小幡公使のアグレマンを中華民國が拒絕したので議會で問題になつたことがある。

アーケード（Arcade）
聯合販賣の商店街や市場のこと。

アーゲント（獨）
密偵、ソヴイエト・ロシアの共產黨に屬し在外官吏及びその他在外國民の監視をその任務としてゐる。

アジ
アジテーションの略、その項參照。

アジア勞働組合會議
第二インタナショナル系の太平洋沿岸諸國の勞働團體が國際勞働機關との了解の下に開催する會議で、右翼勞働組合が汎太平洋勞働組合會議に對抗するために組織したものである。

アジテーション（Agitation）
煽動、誘動と譯し略してアジともいひ、アギタチオンといふのはドイツ語である。一つの思想を大衆に注入して階級的の潛在意識を大衆的に引き出すことである。煽動のために用ゆるビラ（多くは撒布用の小型のビラ）をアヂビラといひ、煽動することをアヂをかける、アヂる等といふ。

アジテート・ポイント（Agitate Point）
アジテートするために用ゆる集會場、アヂの本營、隱れ場所、祕密移動本部等の意。

アジト
アジテート・ポイントの略、その項參照。

アジ・プロ
アジテーションとプロパガンダの略、大體に於いてアジテーションは一定の思想を大衆に注入するを意味し、プロパガンダは諸種の思想を或る特定の個人に注入するを意味する。

臭へよ病
「……を臭へよ」と何等の自覺もなく只流行的、雷同的に要求するを冷罵した言葉である。

アダルト・エデュケーション（Adult Education）
成人教育。

アッピール（Appeal）
訴、檄等と譯す、ある行動や協力を要求するためにアジテートする事、及びその文書をいふ。

アー・デー・ゲー・ベー（A·D·G·B）
ドイツ勞働組合總同盟（Allgemeiner Deutscher Gewerkschaftsbund）の頭字の略稱、ドイツ最大の勞働組合で、ドイツ社會民主黨を支持してゐる。

アド
Advertisementの略で廣告のこと、アドマン（Adman）は廣告配り、ビラまき、アド・マネキンは廣告人形のこと。

アドレス（Address）
通信先のことであるが、思想運動においては同志との祕密通信の連絡先をいふ。略してアドともいふ。

アドレル（Adler, Friedrich. 1879—）オーストリー人
オーストリー社會民主黨の鬪士である、大戰勃發前極力非戰論を唱へ、政府が議會の召集を拒絶したので時の首相スツルケを暗殺した、一八年革命が起つて釋放せられ第二インタナショナルの指導者となつた。

アナ
アナーキズムの略で無政府主義のこと、その項參照。

アナクロニズム（Anachronism）
時代錯誤のこと、略してアナクロともいふ。

アナルコ・サンヂカリズム（Anarco-Syndicalism）
サンヂカリズムの内、無政府主義的立場から政治否定と、組合の自由聯合とを主張する主義。

アバアン・ガルト（Avant-garde）
前衛の意、またフランスの前衛映畫のこと。

アパッシュ（Apache）
パリの惡漢團の名であるが、俠客の意にも轉用されてゐる。

アヒムサ主義（印）
非暴力主義、受動的抵抗主義のことでガンヂーが唱導してゐる主義である。

甘粕事件
大正十二年九月、關東大震災に際し當時帝都警備の任にあつた憲兵大尉甘粕正彥が無政府主義者大杉榮夫妻を殺害した事件である。

天降り式
一人又は少數首腦者間で專斷しこれが施行を強ひるやり方をいふ。

アムステルダム・インタナショナル
（Amsterdam International）
アムステルダムに本部を置く國際勞働組合聯合（International Federation of Trade Union）で黃色インタナショナルともいはれる、一九〇一年國際勞働組合書記局としてコペンハーゲンで組織され、一九一三年國際勞働組合同盟と改めた。大戰のため解體したが一九一九年七月十四ケ國の組合代表に依つて再組織されたその指導原理は社會民主主義、議會主義である。

アラヂイン（Aladyin, Alexis. 1873—）ロシア人
ロシアの有名な革命運動家である。貧農の家に生れ、勞者になるつもりでカザン大學に入つたが過激な演說をしたゝめに放校された、この頃から勞働組合の組織に努力し、間もなく官憲に追はれて國外に逃れ各地を轉々としてゐた。一九〇五年の大赦によつて歸國し、農民から推されて第一議會（一九〇六年）に入り勞働議員の首領となり大いに活躍した。

ア・ラ・モード（a la mode）
當世流行の、新流行型等の意。

アリストクラシー（Aristocracy）
貴族社會、貴族主義又は高踏主義のこと。

アリバイ（Alibi）
犯罪現場不在證明のこと。

アール・エス（R·S）
讀書會、Reading Societyの略。

アール・エス・エフ・エス・アール（R·S·F·S·R）
ロシア・ソヴイエト聯邦社會主義共和國（Russian Socialist Federal Soviet Republic）の略稱、ユー・エス・エス・アールの項參照。

アルヒーフ（Archiv）
文庫のこと。

アンゲータ（露）
聽取書、履歷書、入露國の際に於ける陳情書。

安全辨
機械の安全裝置のことであるが、轉じて大衆の不平を洩す機會を作つて、その不平の爆發を豫防する設備、方法をいふ。

安息日
キリスト教徒が宗教的儀式を擧ぐる日であるが、近時は漸次社會主義的色彩を帶び一週六日間勞働制を認められてゐない勞働者の週休要求となつてゐる。

アンチミリタリズム（Anti-militarism）
反帝國主義のこと、帝國主義の項參照。

アンファンタン（Enfantin, Barthelemy Prosper 1796—1864）フランス人
初め實業界に入つたがサン・シモンと相識つてからその說に厚く服し、各地に傳道し一時は多くの共鳴者を得たが、この一派の奇矯な行動が當局の忌憚にふれ、漸次衰退に赴いた。

B

ヴアルガ（Varga, Eugen）ハンガリー人
一九一九年ハンガリーに勞働共和國が成立したときに人民委員となり革命の建設に努めてゐたが後モスコーに亡命し、第三インタナショナルにあつて主要な活動をしてゐる、農業經濟、世界經濟に造詣が深い。

ヴアンガード（Vanguard）
前衞のこと、その項參照。日本勞働組合總聯合では「ヴアンガード方針書」を發した、それによると十名を以つて一分隊、三分隊で一小隊、二小隊で一中隊、二中隊で一大隊、二大隊を以つて一聯隊としてゐる。

無產運動者は警察のことを資本家の前衞といふ意味から「支配階級のヴアンガード」といつてゐる。

ヴアンデルヴエルト（Vandervelde, Emile 1866—）ベルギー人
ベルギーの社會主義政治家。一八九四年から代議士となり、ベルギー社會黨を指導し第二インタナショナルの大立物であつた。歐洲大戰の際、ベルギーこれに參戰と決するや非戰論を棄て聯立內閣に入閣した。

ヴアンパイアー（Vampire）
吸血鬼、極惡無道の者、又は搾取魔のこと。

倍加運動
社會運動に於いてある團體の加盟員はそれ〴〵必ず一名を勸誘加盟せしめ、その一名は又斯くの如くする、かくして加盟員の增大倍加を圖る方法をいふ。

賣文社
明治四十三年の大逆事件後、社會主義運動が一時跡を絕つて沈靜期に入つた際、堺利彥が四、五の同志と共に東京四ッ谷に創立したもので、文章の代作や著述を業とし、東京に於ける社會主義者の集る唯一の中心をなし、機關誌「へちまの花」（後に「新社會」と改題）を出してゐた。

バクーニン（Bakunin, Michael, 1814—1876）ロシア人
初めは砲兵士官であつたが一八四〇年頃から無產運動に從事した。一八五〇年暴動の指導者として死刑を宣告されたが、辛じて特赦によりシベリアに終身流刑となつた。一八六〇年、帆船で日本に脫走し英京に至り第一インタナショナルの成立に努力した。一八七二年マルクス派と分れこの頃から兩者の間にはげしい論爭が始まつた。一八七六年七月、スキスのベルンで死んだ。

暴露戰術
社會の制度、組織の欠陷を發き立て、民衆の注意を喚起する政策。又反對派の粉飾してゐる政策、傾向、隱蔽してゐる事件等を摘發し、それによつて反對派の下にある者を覺醒せしめ、延いてはこれを自己の傘下に引き込まうとするために用ひる政策である。

バス・コントロール（Birth Control）
產兒制限のこと。

バリケード（英）
防塞と譯す、銃彈を防ぐ堡壘、又防禦設備のこと。

萬人最高の完成

萬人を最もよく成功せしむること、即ち各人がその能力を遺憾なく發揮することが出來る樣にその機會を平等に與へよといふ社會生活に對する現代人の理想である。ドイツの經濟學者ブレンタノが高唱した。

ヴイダールニキ（露）
篤志勞働團、突擊隊のこと。「五ケ年計畫を四ケ年で」といふのが目下ロシア當局者間の標語となつてゐる。これがためには各操作業をスピード・アップせねばならぬ、當局はヴィダールニキなるものを編成して互にスピード・アップの競爭をさせてゐる。これは能率增進上は見るべきものがあるが、他方に於いては生產をあせるため粗製濫造の弊に陷り商品の聲價を墮してゐる。

ビー・シー（B・C）
Birth Control の頭文字をとつたもので產兒制限のこと。

ブ・カ・ブ（B・K・P）
全露聯邦共產黨の略稱、ロシア共產黨の項參照。

ヴスタフ（露）
規約のこと。

ブハーリン（Bucharin, Nikolai 1888—）ロシア人
一九〇六年社會民主黨に入黨す、ソヴイエト・ロシアきつてのマルクス學者で、ロシア共產黨の中央委員、全露中央執行委員、共產黨インタナショナルの執行委員等枢要の地位に在つて、スターリンと並稱せられてゐたが、かねてスターリン等の中間派と意合はず二九年終に失脚するに至つた。

歩增し
二重貨銀制度の項參照。

ブラツクコート（Black-coat）
洋服勞働者、洋服細民等といひ下級俸給者の冷稱。

ブラック・リスト（Black-list）
黑表、注意人物一覽表。歐洲大戰當時イギリスでドイツと取引關係のある商店を調査し、黑枠付のノートに記入したのに始る。

ブラックレツグ（Blackleg）
罷業破り、同盟罷工中の工場に臨時に雇はれる者。

ブランキー
（Blanqui, Louis Auguste 1805—1881）フランス人
パリで法律と醫術とを學んでゐたが、そのうち革命運動に興味を覺え一八二七年の暴動に加つて以來、パリのあらゆる暴動に參加し四十年餘を牢獄の中に送つた。彼は理論家ではなく、過激な革命家であり、行動の人であつて、組織ある小數者のクーデターに依る政權の奪取を革命の最高手段と考へてゐた。その理想實現のため政治團體を組織した。これをブランキー黨といつた。

ブランキーズム
前述のブランキー一派の革命主義で暴動的手段を以つて社會革命を遂行せむとする危險な主張である。

ブルジヨア（Bourgeois）
生產諸機關の所有者及び貸銀勞働者を雇傭するもの、階級であるが一般的には有產階級を指す。

文藝戰線
勞農藝術家聯盟の機關誌で金子洋文、青野季吉氏等が主宰してゐた。

文書會議
官憲の彈壓又は經濟上の事情等のため、組合會議を開き得ない場合に文書により相互の意見、方針等を協議決定する無產團體の會議をいふ。

文戰
勞農藝術家聯盟殘留派の機關誌である。脫退派は「前線」を出してゐる。

ペドニアーク（露）

貧農のこと。

ベーベル（Bebel, August. 1840—1913）ドイツ人
ドイツ勞働組合運動の指導者、又ドイツ社會民主黨や第二インタナショナルの創立者の一人であつて、純粹の勞働者出身である。一八六二年頃から勞働運動に携はり一八七一年ドイツ帝國第一回議會に代議士に選ばれた。一八九三年リープクネヒト等が代議士になるや相協力して議院から全國に社會主義を宣傳した。ドイツ式の典型的なプロレタリア革命家である。

ベルンシユタイン（Bernstein, Eduard. 1850—）ドイツ人
ドイツの修正派社會主義者として有名である。マルクス說をその儘信奉せず、その革命的傾向を除外しこれに修正を加へて進化說にかへた。一八七二年社會民主黨に參加して以來スキス・イギリス等を轉々してゐたが、一九〇二年以來國會に選出され、社會民主黨の指導者として活躍した。

便衣隊
支那革命軍の宣傳隊で、軍服を着けず平服の儘深く敵地に乘込んで偵察し、尙ほ更らに進んでは住民の煽動、鐵道の破壞などをして敵の背後に脅威を加へて本軍の

行動を援助するのである。國民革命軍が北伐のときガロンの献策を容れて採用したのが初めである。その後各軍とも盛にこれを用ふる様になつた。

辯證法

辯證法なる語は本來論辯によつて事物を論證することであるが、ヘーゲルに至つて獨特の新意義を有することゝなつた。即ちヘーゲルによれば、一の思想は必ずその反對思想を伏藏しこの伏在的思想が顯在的になると矛盾が生じ兩思想の對立を來し、更にこの兩思想より高級な一思想によつて綜合されこの矛盾は解決する。この三思想はその正反對の思想を自己の内から生み出して新たな綜合を促し、かくして更に高級な思想に上進して行くので、思想發展の常道は「正」―「反」―「合」の行程を經て發展するのであると、而してこの論理的意義は社會的發展の説明に應用され、マルクスの唯物史觀や階級闘爭説の基礎をなすに至つたものである。

辯證法的唯物論

唯物的辯證法に同じ、その項參照

ボイコット (Boycot)

賣買取引を絶つ同盟である。一八八〇年アイルランドの農場管理者ボイコットなる者がその小作人に對し常に苛酷なる處置を取つたゝめ、これに憤慨した者が一切彼との取引、交際を絶つ同盟を作つた事に始まる。その後轉じて否認の意に用ひられる事もある。

ボオクス (露)

ロシアの全聯邦對外文化聯絡協會のこと、一九二五年ロシアと外國との學術文化の聯絡親睦を圖るために創立されたもので會長はカメネフ夫人である。この會は先年左團次を招聘した。第三インタナショナル系に屬し文藝、學術の方面からの宣傳機關と見られてゐる。

ボグダノフ (Bogdanow, Alexander Aletandrowitsch 1873―1928) ロシア人

共産主義者で一八九〇年頃から革命運動に參加し、後ボルシェヴイキーに加はり一時その指導者の一人となつたがレニン等と意合はず、一九〇九年終に黨から除名された。爾來漸次運動から遠ざかり大戰の時は軍醫として參戰し革命後は專ら著述に從事してゐた。

ボス (Boss)

利權政治屋の領袖の呼稱、一般には親方即ち事業主から

ら仕事を請負ひ、自ら勞働者を傭入れてその間に利を得る者や、人夫の口入をやつて頭を刎ねる者を指すが、勞働運動では爭議等の際勞働者を資本家に賣りつけて勞働運動を喰物にする者を指してゐる。

ボードビル (Vaudeville)

踊りや唄のはいつてゐる輕い歌劇。

ボーナス制度

二重賃銀制度のこと、その項參照。

ボナパルテイズム (Bonapartism)

革命期に行はれる軍事獨裁主義のこと。

ボヘミアン (Bohemian)

流浪生活者のこと。

ボル

ボルシェヴイズムの略、その項參照。

ボルシエヴイキー (Bolschewiki)

ボルシェヴイズムの項參照。

ボルシエヴイキー・インタナショナル

(Bolschewiki International)

第三インタナショナルのこと、その項參照。

ボルシエヴイズム (Bolschevism)

レニンの革命的理論に基いて社會革命を實現せんとする主義で、無産階級による中央集權、獨裁的政治を高唱し議會制度、勞働組合運動に基く漸進的社會改革を排し政治的直接行動を以つて一擧に理想を實現せんとする急進主義。單に語義の上からいふとボルシェヴイキー(多數派)から出たものであるが、それは一九〇三年ロンドンで開かれた第二回露國社會民主勞働黨大會の際、黨の組織上のことに就いて急進派(レニン派)と漸進派(プレハノフ派)とに分れ、レニンを首領とする急進派多數なりしためこの派の者を多數派即ちボルシェヴイキーと呼びその奉ずる主義をボルシェヴイズムといつたのである。ボルシェヴイキーは一九一七年三月ケレンスキー革命の後、その運動を進め遂に所謂プロレタリア革命(十一月革命)によつてケレンスキー政府を倒し、無産階級獨裁によるソヴイエト共和國を樹立して共産主義をその指導原理とし、一九一八年三月黨名をロシア共産黨と改めた。

ボロヂン (Borodin, Michael, 1892―) ロシア人

ロシヤ共産黨員、第三インタナショナルの代表者として諸國に派遣せられ盛んに怪腕を振るつた。一九二三

年中國國民黨の政治顧問となり、孫文の厚き信任を得た。廣東の黃埔軍官學校（後の中央軍事政治學校）は彼の献策によつて創設されたものである。國民革命軍のために大いに努力してゐたが、一九二七年武漢派破れ共產黨の掃蕩が宣言さるゝや隱退した。

ボンダレフ主義

勞働第一主義、ロシアのボンダレフが强調した「吾人は額に汗してパンを得るため勞働に從事することが何よりも先づ爲すべき義務である」といふ主義。

C

治安警察法

保安條例が明治三十一年廢止され、又集會及び政社法の改正の必要も生じたので、三十三年三月國家及び公共團體に對する危險防止を目的として治安警察法が公布された。この法律には結社、集會、演說、多衆運動その他公安を害する虞ある行爲を取締る規定が設けられてある。

チェツカ（露）

全露非常委員會の略稱で、ロシアの高等警察部である。絶大な權限のほか兵力をも有してゐたが、反革命運動の終熄、新經濟政策の實行等によつて國狀が比較的安定するに及び、ゲエ・ペー・ウーに引きつがれた。

チエルワネツツ（露）

ロシアの貨幣單位で我が國の約十圓に當る、その十分の一をルーブルといふ。

チエーン・ストア（Chain Store）

連鎖店のこと。近時百貨店が異常な進出をとげるや、これが對抗策としてチエーン・ストアが增加し漸く世の視聽を惹く樣になつた。

地下運動

祕密運動又は非合法運動のこと。

地下團體

祕密結社、非合法團體のこと。

地下本部

祕密本部のこと、アウトに當る。

チーク（露）

ソヴイエト聯邦の中央執行委員會の略稱、ソヴイエトの項參照。

治警第十七條

治安警察法第十七條の略稱で、この條項は勞働爭議に直接關係があるので一部の間にはよく論議の種となつたが大正十五年七月一日廢止された。

チチエリン（Tschitscherin, 1872—）ロシア人

ロシア共產黨の闘將、政府の中心人物である。貴族の出身で、一九〇四年まで外交官をしてゐたが、革命運動に志してからは辛苦をなめ各地を漂泊してゐた、一九一七年革命の成就と共に故國人の要望を負ふて陸選し、レニンの起用をうけて外務人民委員長となり、今や世界的の外交官として名高い。

血の日曜日

一九〇五年一月廿二日の日曜日にペテルスブルグに於いて約十萬の勞働者がガポン僧正に導かれて、集會、結社の自由、その他經濟上の要求總計十三ケ條の嘆願書をツアーに提出せんとし冬宮に向ひ、示威運動を行つたゝめ、軍隊はこれに發砲し多數の死傷者を出した事件で、ロシヤ革命の導火線となつた。

チヤーチスト運動（Chartists Movement）

一八三八年—一八四〇年の間イギリスに起つた急進的な選擧權獲得運動である。チアーチスト若くはチヤチズムの原語は勞働者階級の議會政治參與の要求宣言たる人民憲章 "People's Charter" に發してゐる。

中間階級

資本家と勞働者との中間層に位する者の總稱で手工業者、小商人等が大體これに屬する。

中間階級運動

社會運動の急進派にも相當の理解がありまた保守反動派の主張をも斟酌する中間階級に屬する者が兩極の軋轢を緩和して中正な社會改造を促進せんとする運動。

中間派

社會民主主義系統に屬する者の總稱である、共產主義者等はこれを日和見主義と罵倒して居る。大戰の際、祖國擁護に名を藉りて第二インタナショナルから愛國

社會主義に早變りした者が多かつた、め、一時議論の中心となつて居た。

中國共產黨

一九二二年北京大學の文學部長陳獨秀、ロシア人ボタポック等によつて初めて中國共產黨が組織されたが、大正十二年第三インタナショナル及び國民黨に加入して以來その勢力頗る偉大となつた、後國民黨と分離するの止むなきに至つたが尙多くのものが殘留し黨內の左派と結んで國民黨を左傾せしめんとしてゐる。

中國共產黨の組織は中國共產黨(C・P・C)と共產主義青年黨(C・Y・C)とがあり各々中央執行委員會を設けその下に支部・細胞を有してゐる。

中人(リヤンハン)**兩班**(チヤン)**の項參照。**

擔軍(タン)

朝鮮の荷物運搬夫のことで、所謂チゲを荷つて物を運びその月收は概して六・七圓位のものである。

賃銀鐵則

一定の時、一定の國民經濟に於いて賃銀に差向けられる資本の部分は豫め一定して居るから賃銀の高低はこの基金の量と勞働者の數とによつて決定されるといふ學說である。アダム・スミスが初めてこれを說き、ミルこれに體系を付けたが、ブレンタノ等によつて根底から覆され、現今ではこれを信奉する者は稀少である。

賃銀鐵則 (Iron Law of Wages)

賃銀制定に關する名高い學說でリカルドが「勞働者の賃銀は、勞働者及びその家族が生計を維持するに必要な最低生活費に一致するものである、即ち賃銀が昂騰して最低生活費以上になれば生活に餘裕が出來、早婚を促し從つて產兒が增加する結果賃銀は下落する、これに反し最低生活費よりも下れば勞働者の生活は困難となり結婚難、營養の不足を來し、從つて產兒は少くなり人口の減少を來し、その結果勞働者の供給を減少せしめるから、賃銀は自然と上騰する」とて賃銀は常に最低生活費を中心に循環的に上下するものであると唱導した。ラッサーレがこれを賃銀の鐵則と名付けた。併し今日では社會主義者の大衆煽動用語としては役立つが經濟學上では殆んど問題にされてゐない。

陳獨秀

安徽の人、日本に留學し正則英語學校に學んでゐたが

後フランスに渡つた。第二革命後も一時我が國に亡命してゐたが、一九一七年招かれて北京大學の教授となり中國の文藝復古に努力し、他方マルクス主義者として學生運動を指導した、五・四運動後は上海に至り中國共產黨を創立して自らこれが執行委員長となり、その機關誌「嚮導」を主宰してゐる。夙に令名高く中國のレニンと稱せられてゐる。

陳友仁

廣東の人、母は南米人でキューバで生れた、一九一二年の唐紹儀內閣の時法律顧問となる、その後日支交涉(一九一七年)、ヴェルサイユの平和會議等に關與し、二〇年廣東政府の外交顧問となり、次いで國民黨の中央執行委員、二六年外交部長代理に歷任し、外交上の根本方針を定めた、後武漢政府の外交部長となつたが、その沒落後は宋慶齡(孫文の未亡人)と共にモスコーに去つた。本年五月廣東新政府の樹立に際しては大いに畫策し、その成立と共に外交部長となり重要な役割を演じてゐる。

D

第一インタナショナル (First International)

一八六四年ロンドンに於いて創立された國際勞働者協會(International Workingmen's Association)の謂であつて、その目的は全勞働階級の勢力を叫合してこれに革命的訓練を與へ共同戰線を張らんとするにあつた、勞働者階級の解放は勞働者自身の力によつて行はねばならぬことを教へた。

滿九年存續したが一八七二年に至り中央集權主義を採るマルクス派と、自由聯合主義を奉ずるバクーニン派との間に爭が起り、漸次衰滅に赴き、遂に一八七六年正式に解散するに至つた。

大逆事件

明治四十三年幸德秋水外二十五名の社會主義者が帝國臣民たるの本分を忘れ、前古未曾有の兇逆を企てたが、

中途で發覺し、翌年判決確定して幸德以下十二名は死刑に、他の十二名は無期に、二名は有期懲役に處せられた事件である。

第三インタナショナル（Third International）

ロシア共產黨が中心となつて一九一九年に組織したもので、共產主義インタナショナル（Communist Internationale）又は略してコンミンテルン（Commintern）ともいふ。世界各國の共產黨から成る國際的共產黨でプルジョア政權の顚覆、プロレタリア獨裁政治の樹立を目的とし、世界革命運動を支持するもので、第二インタナショナルから脫退した急進左翼分子はロシア革命の成功に氣勢をあげ、一九一九年モスコーに創立大會を開催した。その主張は政治的には內は、峻嚴な中央集權的無產階級獨裁國家を樹立し、あらゆる權力と武力とを用ひてプルジョアの絕滅を期し、外は各國の無產階級と結んで世界的社會革命を起し、資本主義國家の覆滅を圖り、經濟的には、一切の生產を無產階級の手に集中し土地・資本・工場・銀行等は悉くこれを社會の所有に移し、國民は總て國家に對し勞働の義務を負ひ、國家は正確な調査と、統計とに基いて中央集權的に總ての生產、分配を管理するといふにある。近時は世界の革命運動、植民地の解放運動に主力を注いでゐる。

第三階級

有產階級のこと、產業革命前歐洲では第一階級は王、第二階級は貴族、僧侶で、第三階級は市民、第四階級は奴隸とされてゐた。階級の項參照。

第四インタナショナル（Fourth International）

極左急進分子はロシアの新經濟政策を非とし眞のプロレタリアのインタナショナルを組織するとて、第三インタナショナルから脫退し一九二一年、第四インタナショナルを組織したがその勢力は微弱である。

第四階級

貴族、僧侶、市民の外に產業革命後所謂プロレタリアを生じ、一生涯その境遇を脫することの出來ぬ一つの階級を生んだのでこれを第四階級と呼ぶこと、なつた。階級の項參照。

ダイナマイティズム（Dynamitism）

一種の急激な革命主義のこと。

第二インタナショナル（Second International）

第一インタナショナルの解體後マルクス主義を指導原

理として成立した國際社會黨（International Socialist Party）で、一八八九年フランス革命百年祭を期してパリに國際會議を開いた。

一九〇〇年の大會では生產機關、交通機關の社會化、勞働者の國際的聯盟及び國際運動、社會主義者の政權獲得、階級鬪爭を基礎とする一切の組合組織、政治運動議會政策の是認等が決議されたが、大戰勃發の時加盟團體の大部分は、一九〇七年のスットガルトの非戰決議を反古にして愛國主義に變り祖國防禦の口實の下に主戰論に與したので第二インタナショナルは瓦解した。その後再興の議起り、一九二〇年英國勞働黨、ドイツ民主黨、フランス社會黨等がゼネバ大會でこれを復活し一九二三年には第二半インタナショナルと合同して今日の勞働者社會主義者インタナショナル（Labour and Socialist International）に至つたが、第三インタナショナルのために少なからぬ勢力を奪はれた。

第二半インタナショナル（2½ International 又は International Working Union of Socialist Parties）

ウキーンで開催されたので一名ウキーン・インタナショナルともいふ、第二インタナショナルから脫退した中間分子が一九二一年ウキーンで大會を開いて組織したもので、第二インタナショナルの如くデモクラシーに偏倚せず又第三インタナショナル程無產者の革命、プロレタリアの獨裁政治のみを主張せず、專ら經濟的の階級鬪爭によつてプロレタリアの要求を實現すべしとなすものであつたが、勢力振はず一九二三年ハンブルグの合同大會で第二インタナショナルと合同してしまつた。

大日本地主協會

大正十四年大阪で創立された全國的な地主の團體で、農民組合に對抗して小作爭議の防止、鎭壓を目的として居る。

大日本生產黨

內田良平、頭山滿氏等が中心となつて昭和六年六月二十八日、大阪で結黨式をあげたわが國最初の國粹無產黨で、內田良平氏が總裁、頭山滿氏が顧問である。その結黨趣旨は「現今のいはゆる無產黨はわが國建國の精神や大和民族の立場を忘却した歐米の直譯的のもので、この點にあきたらずわれ〳〵は大日本主義による勞働黨を結成せんとするものである」とし、黨今後の

方針については「議會や府縣會に代表者を出すよりも、有權者そのものを獲得することを主眼とし、全國有權者多數の入黨により、自然に既成政黨の淨化をはからんとするものである」と稱してゐる。

ダーク・サイド (Dark Side)
社會の暗黑面のこと。

ダーク・ホース (Dark Horse)
本來は競馬用語で、力量の未だ知られてゐない馬のことをいつたが、轉じて無名の勇士のこと。世人の氣付かぬ人が彗星の如くあらはれ出づることをダーク・ホース出づなど、いふ。

ダラ幹
階級的に墮落してゐる幹部のことで右傾幹部の罵稱である、又中堅分子のときは半ダラ等といつてゐる。

ダリバンク (露)
ロシアの極東銀行のこと。

■ 結 權
貸銀勞働者が勞働生活、主として雇傭條件の維持、改善を圖るために團體を作る自由をいふ。

ダンピング (Dumping)
海外投資。海外市場の獨占又は新市場の開拓等のために組織的、計畫的に行ふ投資である。即ち自國內では高率な關稅によつて外國品を驅逐し、充分に利益があがる樣に高く賣り、外國では生產費を無視した投資をするのである。

我が國には不當廉賣審査委員會の議を經て、ダンピング防止のために關稅を特設し得る法規が大正九年に制定されたが、未だ適用されたことがない。

社會主義經濟組織を立て、ゐるソヴイエト政府商業部の小夥、木材、石油等のダンピングは諸他國のとは著しく趣を異にし、その影響の及ぶ所頗る廣汎に亘り、世界不況の一原因はロシアのダンピングに在りとまで言はれ、各國ともこれが對策に苦心してゐる。

ディアレクティーク (Dialektik)
辯證法のこと、その項參照。

ディーツゲン (Dietzgen, Joseph 1828—1888) ドイツ人
皮革業を本職とし一八四八年頃から革命運動に參加し、かたはら哲學を學び終に唯物論的辯證法に立脚する無產階級の哲學を樹立した。マルクスは彼を「吾黨第一の哲學者」とほめてゐる。

ディレクト・アクション (Direct Action)
直接行動のこと。

デッド・ロック (Dead Lock)
死工場。罷業或はその他の事情で休止してゐる工場。

デ・フリー說
突變說のこと、その項參照。

デ マ
デマゴーグの略。

デマゴーグ (Demagogue)
惡宣傳家又は遊宣傳家。デマる、デマをとばすとは惡宣傳を放つことを意味する。

デ モ
デモンストレーションの略。

デモンストレーション (Demonstration)
示威運動、大衆行進。本來は自己の威力を誇示して敵を長恰し一定の目的を明示するために行ふ行動。昔から戰爭等の場合にはよく用ひられてゐたが、近時は階級鬪爭の一手段として常用されてゐる。從つて本來の目的以外にかゝる行動を通して大衆を組織化し、これに統制を與へ、團結力を强め、團體的訓練を與へるといふ目的をも兼ねるに至つた。

デュアリズム (Dualism)
二重組合主義のこと、その項參照。

デューリング (Dühring, Eugen, Karl, 1833—1921) ドイツ人
初めは法律學を修めてゐたが失明してからは哲學と經濟學の研究に從ひ博學を以つて有名であつた。「反デューリング論」はエンゲルスが彼の哲學、經濟學、社會主義の全範圍を批評、論駁したものである。

傳 單
小型ポスター、宣傳ビラのこと。一九二五年頃、中國國民軍が大型のポスターは携帶、撒布に不便なので小型のポスターを用ひたに初る。本來は貼付用、撒布用のものを總稱するが我が國では主として貼付用の小型ポスターを傳單といつてゐる。

ドイツ革命
一九一八年十一月九日の革命をいふ。これによつてドイツ帝國は亡び社會民主黨を中心とする民主共和國が成立した。

ドイツ革命は政治革命に了り、經濟革命とプロレタア

の獨滅とを主張したスパルタクス團は革命政府の組織にも除外されたので暴動を起したゝめ翌年一月その指導者カール・リープクネヒト、ローザ・ルクセンブルグ等は假政府派のものに暗殺された。

ドイツ共產黨（Die Kommunistische Partei Deutschland）一九一七年獨立社會黨が創立されるとスパルタカス團はこれに加つたが、革命後黨内の右翼派と意見を異にし十二月末脫退し、翌年一月ドイツ共產黨を創設した。間もなく指導者リープクネヒト、ルクセンブルグを失つて一時は不振に陷つたが一九年十月その基礎ほゞ定まり二〇年二月異分子を除名して結束を固めた。次いで獨立社會民主黨の左翼派が脫黨してドイツ共產黨に來り合するに及び、こゝに合同共產黨成り一躍勢力を擴大したが、その後屢々内紛起り二四年の前半を頂上として漸次劣へだしたが、最近に至つては賠償問題に關聯して黨勢大いに振ひ、三〇年九月の總選擧には五十四名から七十六名に增加した。Rote Fahne をその機關紙としてゐる。

ドウズ案（Dawes Plan）

米國の副大統領ドウズを委員長とする賠償專門委員會が作成したドイツの賠償金支拂計畫で、一九二四年四月に報告書を作成し、ロンドンの賠償會議で採用された。この案は通貨の安定、豫算の均衡の二點をその根本的原則としてゐた。

ドグマ（Dogma）

獨斷、教義のこと。

土着候補

その土地の出身者が鄉里から立候補したものをいひ、輸入候補に對する語である。

堂々廻り

議會で賛否の決をとるとき一人一人議長席の前に行つて投票すること。

土　幕

朝鮮で行はれてゐる簡易な穴居樣式である。即ちその多くは長方形の土地一坪半ばかりを數尺の深さに掘り下げ、古蓆等で屋根を作り、内部は居間と炊事場とを兼ねた頗る原始的なものである。土幕生活者を土幕民といふ。

ドンキホーテイズム

實力の伴はぬ空想的な、向ふ見ずの計畫をいふ。スペインの有名な諧謔小說「ドンキホーテ」から出た語である。

ドンドン

勞働爭議の戰術の一つ。深夜五分置き位に社長、重役等の家の戸、塀等を叩き、家族を徹宵安眠せしめず、結局重役等に我を折らす策戰である。

E

エー・アール・シー・テイー・ユー（A・R・C・T・U）

全露勞働組合中央評議會（All-Russian Central Council of Trade Union）の略、ロシア勞働組合運動界の最高機關で、全露大會の招集、組合運動の統制、產業、生產の統制等をその任務としてゐる。二十三の產業組合からなり六百萬の會員を有してゐる、會長はトムスキーであつた。

英雄病

英雄主義にかられ世間的の盛名に憧憬し、俗衆の喝采を博することによつて自己滿足を感ずる者を冷評した語である。

エー・エフ・エル（A・F・L）

米國勞働聯合會（American Federation of Labour）の略稱、典型的な職業別組合でよくI・W・Wと對比される。一八八六年十二月他の全國的、地方的組合を結合して現在の形態に組織された穩健な右翼組合で、加盟組合數、組合員數共に世界最大の組合の一つである。一九二八年には會員三百三十萬を超ね、その勞働條件改善の要求は著々實現されてゐる。

エシエリツヒ（獨）

ドイツ反動團體の秘密結社で反國家的社會運動の撲滅帝政の復活を目的とし、これが達成のためには暗殺、陰謀、煽動等凡ゆる手段を用ひんとするものである。

エージエント（Agent）

代理者の義であるが、思想運動に於いては主腦部の指令によつて宣傳、煽動等に從事するものをいふ。

エス・エス（S・S）
各學校の社會科學研究會即ち俗にいふ Social Science の頭文字をとつたものである。

エス・エス・エル（S・S・R 黨 C・C・C・P）
ソヴィエト社會主義共和國聯邦の略稱。

エス・エフ・エス・エス（S・F・S・S）
學生社會科學聯合會の略稱。

エス・エム・ユー（S・M・U）
俸給生活者組合（Salary Men's Union）の略稱。

エス・エル（黨）
ロシアの社會革命黨員の頭字をとつた略語、社會革命黨はナロドニキの思想をうけつぎ、その上にマルクス主義を加味した社會主義政黨で一九〇一年國外で創立され、爾來恐怖手段をとつて盛に活動し、一九一七年三月革命後に於いては最も有力な政黨であり、ケレンスキーもこの黨員であつた。十月革命後分裂した爲めにあまり振はず、一時は農民の支持もあつたが現在では全く影をひそめてしまつた。

エス語同盟
日本プロレタリア・エスペラント同盟の略でプロエス講習會（プロレタリア・エスペラント講習會の略）を開催してゐる。

エス・デイー（S・D）
ソシヤル・デモクラシーの略稱、社會民主主義のこと、その項參照。

エツカリウス
（Eccarius, Johann Georg 1818—）ドイツ人
裁縫師であつたが一八四八—九年の革命期にドイツ共産主義運動に參加し、ロンドンに赴いてマルクスに師事し、第一インタナショナルが成立されるや久しくその書記長をつとめ、機關誌コンモンウエルスの經營に當つてゐた、文筆家として又マルキシズムの祖述者として有名である。

エトランゼ（Etranger）
外國人、見馴れぬ人、轉じて轉入學生、新入社員。

エヌ・エス（N・S）
新人會の略稱、その項參照。

エー・ビー・シー（A・B・C）
物事の初步、入門を意味する。

エー・ピー（A・P）
アジテーションとプロパガンダの事、各その頭文字をとつて略稱したもの。アジ・プロの項參照。

エフ・エス（F・S）
フェビアン協會（Febian Society）の略稱、その項參照。

エープリル・フール（April Fool）
四月馬鹿、四月一日は虚言御免の日となつてゐる。

エーベルト（Ebert, Friedrich. 1871—1925）ドイツ人
ドイツ社會民主黨員、馬具工出身で後新聞記者から社會民主黨執行部の一員となり一九一〇年代議士となり、大戰勃發するや所謂愛國社會主義者となつた。一九一七年內閣に入り後シヤイデマン、ノスケ等と共に假政府を組織して首相となり、一九一九年には大統領に選ばれ死に至るまでその職に在つた。

エポツク・メーキング（Epoch Making）
劃期的な、新紀元を開くこと。

エルガトクラシー（Ergatocracy）
勞働者支配、勞働者政治、無產者獨裁時代の政治等の義で、デモクラシーに對する新しい語である。

エル・ゲー・イー（R・G・I）
赤色勞働組合インタナショナル（Rote Gewerkschafts-International）の略稱で、プロフインテルンのこと。

エルフルト綱領（Erfurter Programm）
一八九一年ドイツ社會民主黨がエルフルトの大會で決定した綱領。理論と實際とに亘つて無產階級運動の眞髓を示したもので、當のドイツ社會民主黨が三十餘年間黨是として服膺し來つたのは勿論、他の無產政黨もそのテーゼは殆んど本綱領に範をとつたものであるといへる。

エンゲルス（Engels, Friedrich. 1820—1895）ドイツ人
有名な社會主義者。マルクスと親交があつた。一八四五年「イギリスに於ける勞働階級の狀態」（科學的社會主義の最初の文獻である）を著し、ついでマルクスと共に「共產黨宣言」を起草して科學的社會主義を高唱した。マルクスとは文筆の上に於いては勿論、運動の上に於いても二人の仕事は實質的には全然共同的のものであつた。一八八三年マルクスの死後は遺稿を整理して資本論第二卷第三卷を公けにした。

エンゲルス・ガール
社會主義かぶれした女の罵稱でマルクス・ボーイに對して出來た言葉。

閻錫山

山西の人、第一革命後山西都督となり、爾來最近まで山西モンロー主義を守り内治の見るべきもの多く、山西王と稱されてゐた。後國民革命軍に參加して奉天軍を敗り、ついに中央政界に乘りだしたが陰謀と術數に弄ばれ、いくばくもなくして不遇に陷つた。

袁世凱

河南の人、曾國藩、李鴻章と共に三雄と稱せられた人である。一八八五年朝鮮公使となるや日清戰爭を誘發した。康有爲等を中心とする清朝の大改革に際しては時の非なるを見て急に變節し、西太后の厚い信任を得一躍その中心人物となつた。西太后の薨後醇親王攝政となるに及び、退けられたが武漢革命の進展と共に迎へられて革命軍の征討を命ぜられたのを奇貨となし、却つて革命軍と妥協して清帝の退位をせまり、中華民國樹立に力を致した。間もなく第一次民國の大總統となつたが專横の振舞多くために民心を失ひ、帝制を再擡して自ら帝位に即かんとするや、西南の諸省各々獨立を宣し形勢日に不利となり、一九一六年六月四日、四面楚歌の裡に長逝した。

煙突男

爭議の解決を促進するための新戰術の一つで、爭議の際工場の煙突に登つて大空から同志の士氣を鼓舞し、解決するまで降りるのを肯んぜず、資本家、官憲を手古摺らして解決を有利に導かんとする戰術である。昨年富士紡の爭議の際川崎工場に出現したのが初めで、滯空時間は百三十時間、昭和六年五月第二の煙突男が淺草の染絖會社に現れ三百十六時間滯空した。

F

ファスシチ (Fascii)

イタリーの熱烈な國粹主義者ムッソリニー等を中心とし、社會主義者との抗爭を目的として、一九一九年成立した愛國的團體で、一九二二年遂にイタリーの政權を掌握するに至つた、黨旗として黑旗を用ひ制服には黑襯衣を用ひて居る。又極右或は反動の意に轉用されることもある。

フェビアン協會 (Fabian Society)

一八八九年英國で創立され、社會主義の理論と實際とを眞面目に研究し、機會ある毎にこれを宣傳せんとする團體である。即ち革命による無產者の獨裁を非とし、徐々に且つ正確に資本主義を社會主義化するを目的とし、これがため現在資本主義社會の實情を綿細に調査し、その結果を平易簡單なパンフレットとして弘く頒布するの方法をとつてゐる。この團體の首腦者はシドニー・ウェップ夫妻 (Sidney & Beatrice Webb) バーナード・ショウ (Bernard Shaw) 等で、會員は數千人を出でないがその勢力は相當大きいものがある。フェビアンといふ名稱は古のカルタゴの勇將フェビアス (ローマ執政官) がハンニバルの攻撃に對し功を急がず注意深く用意を整へ、油斷をみて猛烈な逆襲を加へてこれを粉碎した故事に因んだものである。

フェミニズム (Feminism)

男女同權主義、女權主義等の意味であつて、一定の體系立つた目標はなく、あらゆる方面に於ける婦人の地位向上、改善に關する一切の思想を包括したものである。

フオイエルバツハ

(Feuerbach, Ludwig 1804—1872) ドイツ人

有名な唯物論者で、ヘーゲルの門下生であつたが獨自の唯物論を唱へた。マルクス、エンゲルス等も一時は大へん心醉したものであつた。「基督教の本質」は彼の名著である。

福本イズム

福本和夫が主張した主義、理論をいふ、その要點は、一、結合前の分離、二、方向轉換、三、理論鬪爭の三點に歸する。果敢な理論鬪爭によつてマルクス主義を無產者に浸透、展開せしめ、眞のマルクス主義の分子だけを分離結合せしめ、組合主義的政治鬪爭から社會主義的政治鬪爭へ方向を轉換しなければならぬと云ふのである。この說は大正十五年頃から一時わが國の勞働運動界を風靡し、ために各無產團體の分裂抗爭を惹起して、未曾有の無產階級戰線の混亂を招いたが、昭和二年五月第三インタナショナルは日本に關するテーゼに於いて、これに對し宗派的分裂主義の刻印を押してそ

の誤謬を指摘した、以來頓に勢力を失ひ遂に自然消滅の態となつた。

不在地主
自己所有の耕地や農場の所在地に繼續的に住んで居らぬ地主のことで、土地問題の喧しい折柄農民や無産者の攻撃の的となつて居る。

値手ストライキ
サボタージュの一種で腕組ストライキともいふ。サボタージュの項參照。

不拂勞働
勞働者が提供した勞働はこれに對して支拂はれる賃銀以上の價値を生産するために行はれた勞働であるから、この勞銀の支拂を受けてゐない部分の勞働といふ意、即ち餘剩勞働のことである。

フラクション (Fraction)
分派と譯す、黨中の黨をいふ。例へば右翼的保守的團體へ左翼團體からオルガナイザーを派して大衆の一部分を獲得して教育し、左翼の統制の下に活動せしめる、かくて出來た團體内の活動分子をフラクションといふ。又略して單にフラクともいふ。

フラクション運動
他の團體に潜入して班を作り、その團體を自派の支配下に引き入れんとする思想運動の一つである。

フーリエ (Fourier, Francois Charles Marie, 1772—1837) フランス人
有名な空想的社會主義者である、資本主義の撤廢を期し、一八二二年にはベルサイユに理想の共產團體を試みに作つたが失敗に終つた。

フリーメーソンリー (Freemasonry)
國際的性質を帶びる祕密結社で、互助共濟を目的とし、平和人道主義、祕密主義、象徴主義を特性とし、會員の出資に依る基本金を有し、共濟組織をなし慈善事業に從ふてゐるとの事で、各國の名士が多數會員となつてゐる。併し近來はこの結社を目して社會的變動を目的とする陰謀團體なりとなす者が多い樣であるが、その實體は未だ判明しない。

フリー・ランサー (Free Lancer)
映畫俳優、新聞記者等によく用ひられる語である。即ち長期の契約をしないで、その時々必要に應じて雇はれる非專屬者である。

G

外廓
細胞の周圍にあつてその指令をうけて活動するもので、未だ正式に團體員たらざるものをいふ。

街頭細胞
工場の細胞に對して工場以外の地域の細胞をいふ。

街頭分子
一定の工場、職場等に足場をもたない自由勞働者を主として指稱する。

フロム・ハンド・ツ・マウス (From hand to mouth)
口より手への生活である、即ち低級勞働者の生活狀況を表した語である。

學生社會科學聯合會
各大學、專門學校等の社會科學研究會の全國的の聯合團體で、大正十三年九月組織せられ、會員約千五百名に達したことがある。

學聯
學生社會科學聯合會の略稱、その項參照。

がさ
家宅捜索の隱語。

がつちり
本來はしつかりの意であるが轉じてけちん坊、しみつたれの意に用ひられる。

ガンヂー (Gandhi, Mohandas Karamanchand 1869—) インド人
十九歲のときロンドンに渡つて法律を修め、ついで南亞に赴き、移住インド人の自由獲得のためにつくし、一九一四年ほゞその目的を達したので故國にかへり、インドの自治運動と相提携して、インド民族解放の國民運動を興し、他方インドの經濟的獨立を促進するために外貨の排斥をなしてゐる。彼一流の無抵抗主義は南亞時代に造り上げられたものである。

ガンヂイズム（Gandhism）
インド民族解放運動者ガンヂーの主義で、獨立運動に非武力的抗爭による鬪爭手段を用ひむとする主義。

議會主義
議會に多數の代議士を送り、立法手段によつて勞働者階級の地位の向上を圖らんとする主義。

ギャップ（Gap）
すきま、みぞ、又軋轢の意味にも用ひられる。

ギルド社會主義（Guild Socialism）
イギリスに發生した社會主義の一分派である。產業の管理を消費者の代表者たる國家と、生產者の代表者たるギルドとに分擔せしめ、この兩者の協調によつて理想社會を實現せんとするもの、即ち生產機關は公有としその管理をギルドに一任せんとするものである。

グリーン（Green, William, 1872—）アメリカ人
鐵夫の出身である、一九一四年A・F・L・の中央執行委員となり、ゴンパースの死後は衆望を負ふてアメリカ勞働組合聯合會々長に推された。穩和な組合主義者である。

グリーン・ルーム（Green Room）
樂屋のこと。

グレシャム法則（Greshami's Law）
品位、量目を異にする同一額の貨幣が相並んで市場に流通するときは、品質の劣れる惡貨のみが市場に殘り、良質のものは地金等に使用されて影をひそめるといふ經濟學上の原則である。

グレープ・コンセクエンス（Grave Consequence）
重大なる結果と譯されてゐる、アメでリカで排日案が上程された時埴原大使が發表したステートメントの中にこの句があり、一時物議を醸した事がある。

軍國主義
國家の統治權を主として軍隊の力によつて維持、擴充せんとし、從つて國家の第一義的施政方針を軍隊組織の完成、統制におく主義である。國家が權力關係にその根底をおくときには軍國主義は增大するが、併しそれはながく政治の原理となり得べきものではないと云はれてゐる。

軍事敎練
軍敎とも略稱する。加藤內閣の時岡田文相の發案で文部、陸軍(宇垣陸相)兩者協議の結果中等・專門諸學校・各大學に大正十四年七月一日から實施されたもので、その目的は「國家觀念を明徵にし、現代國民公民に特に必要な紀律、節制、協同、團結の精德を涵養し」といふにあつた。これは草案の時分から一部の反對があつたが十月、小樽事件が起るに及び一時は大變不評判であつた。

藝術的社會主義
ラスキン、モーリス、カーペンター等の藝術家が提唱した主義で、資本主義經濟の旺盛な社會では藝術も一個の商品として取扱はれ有閑階級の玩弄物とならうとしてゐる、この藝術の俗惡化を救ふには資本主義組織を破壞せなければならぬといふ主義である。

ゲエ・ペー・ウー（露）
勞農露國の國家保安部の略稱、主として政治犯の取締に任と反革命運動の取締に關しては絕大の權力を附與されて居り、勞農政府の樞要な役目を務めてゐる。

げら刷
校正刷のこと。

ゲルリツツ綱領（Goerlitz Programm）
ドイツ社會民主黨は一九二一年ゲルリツツに大會を開き、エルフルト綱領を廢止しベルンシュタインが起草した新綱領を採用した。これをゲルリツツ綱領といふ。この綱領は議會主義を指導原理とした右翼的なものである。

現實主義
理想主義に對するもので、徒に現實とかけ離れてゐる空論を排し、現在の實情に立脚して行かうとする主張である。社會運動に於いて用ひらる、時は目下の社會狀勢からみて、直ちに實現不可能な理論、行動を排する右翼分子の主張である。これに對し左翼分子は無產階級解放運動の指導精神を捨てたる御都合日和見主義なりと罵倒してゐる。

ゲンプラン（露）
ゲネラルヌイ・プランの略で總計畫、全計畫の意である。ロシアが一九三三年九月から着手する社會主義建設計畫、即ち所謂十五ケ年計畫のことである。

五ケ年計畫
一九二八年十月一日から一九三三年十二月三十一日に至る五ケ年間に約八百億余ルーブルの豫算を以つて、農業の集團化・機械化・近代工業の建設・分配機關の組

織の完成・文化施設の充實を圖らんとする計畫で、その總指揮者（國家計畫委員會議長といふ）はクイビシェフ氏である。この計畫はロシヤ產業の基礎工事ともいふ可きもので、この次には十五ケ年計畫と云ふものが企てられてゐる。

五ケ年計畫もすでに二ケ年半を過ぎたが、その進展狀況についてはソヴイエト政府の發表する所と外國人の觀察との間に大きな差異があるが、この計畫の運命を決するものは今後の二ケ年半にあるもの、如くである。

五權憲法

三民主義と共に孫文の創定にかゝる中國國民黨の規範で、立法・司法・行政三院の外に監察・考試の二院を設け、各々その權限を獨立のものとし互ひに侵犯せぬ樣にしたものである。

五卅事件

邦人が上海で經營してゐる內外棉紡績會社に一九二五年五月罷業が起つた、これが導火線となつて上海全市の外人關係事業の總同盟罷業、總罷市となり、五月卅日に英兵が發砲するや遂いに全國に亘つて大罷業が行はれた。この機會に乘じ共產黨は大いに勢力の擴大を圖り、ために上海の勞働界は完全にその掌中に歸した。罷業の範圍が廣汎であつた、め外人の蒙つた損失は少なくなかつた、又他方反帝國主義運動が浸潤した、めに對外關係に大變化を來し、從來支那を壓迫輕視してゐた列國は爭ふてその歡心を得んとし、中國は勢ひに乘じて不平等條約撤廢に向つて進むに至つた。

五四運動

大正八年のパリ會議に於ける山東問題の外交的失敗に刺戟された北京の學生團は五月二日親日派の曹汝霖邸を燒打した。これより排日運動は上海、廣東、南京、武漢の各地に波及し全國的、繼續的な排日運動が行はれたこれを五四運動といふ。中華民國ではこれを紀念するため每年五月四日には日貨排斥をやつてゐる。

ゴシツプ（Gossip）

漫談、世事に關する輕い談話、又は記事。

ゴスプラン（Gosplan）

國家經濟計畫委員會のことで、一九二〇年レニンが召集したのがその初りである。本部をモスコーに置き約二百人の專門家が中央委員會を組織し、各地方に支部・

代理部を置き生產の向上、勞農階級の調和等に必要な資料の蒐集、計畫の發案等をなしてゐる。

ゴータ綱領（Gothaer Progamm）

全ドイツ勞働組合（Allgemeine Deutsche Arbeiterverein）即ちラサール派と、社會民主勞働黨（Sozialdemokratische Arbeiterpartei）即ちアイゼナッハ派とは、一八七五年のゴータ大會で兩派の合同が成りドイツ社會勞働黨（Sozialistische Arbeiterpartei Deutschlands）が成立した、この合同政黨の指針がゴータ綱領である。マルクス主義とラサール主義との折衷的なもので不徹底な所が多かつたが、一八九一年エルフルトの綱領に書きかへられた。

ゴドウイン（Godwin, William, 1756—1836）イギリス人無政府共產主義の創唱者といはれて居る。實踐的な運動には關與せず純理論家であつた。一七九三年に著した「政治的正義」は無政府共產主義の著書として有名である。情熱詩人シエレーは彼の女婿である。

合同組合

職業別組合を合同せる勞働組合のこと、各種職業を打つて一丸とせる產業別組合と同業組合との中間に位するものである。

五法實業奬勵

失業手當法、最低賃銀法、八時間勞働法、青少年勞働者保護法の制定、健康保險法改正の五法案の要求運動を通して無產大衆に指導、宣傳せんとする左翼の政治鬪爭戰術の一つ。

ゴム判支部

有名無實とも云ふべき弱小支部のこと。

ゴールキイ（Gorki, Maxim, 1868—）ロシア人

本名はアレクセイ・マクシモウキツチ・ペッシューフといひゴールキイはそのペンネームである。一九〇二年「どん底」を書してから有名となる。ロシアの革命運動に從事して居た、革命後は勞農ロシアを支持し、その文藝運動に協力してゐた。ながく伊國に出養生してゐたが最近モスコーに、歸り四月共產黨に加入した。

ゴンパース（Gompers, Samuel, 1850—1924）アメリカ人

米國勞働聯合會（A・F・L）の創立者で、久しくその會長として令名をはせた。靴工、煙草工などを經て一八七三年頃からマルクスの研究を初め、葉卷工全國組合を改造し、一八八一年にはA・F・Lを組織しその會長

となつた。「アメリカ労働運動の父」と呼ばれ、典型的な労資協調主義者であつた。

H

排貨運動
弱小國は強國の要求やその政策等に反感を持つてゐても實力では拒絶出來ないので、その強國の貨物を排斥し、經濟上の打撃を與へてこれに報いんとする國際的ボイコットの一つである。中國の日貨排斥、インドの英貨排斥等はその著しい例である。

背敎者
主義や教義に對する裏切者のこと、もとは教會の用語である。

ハインドマン (Hyndman, Henry Mayers, 1842—1921) イギリス人
一風異つた社會主義者でイギリス人には稀にみる激しい階級鬪爭の主張者で生涯を理論鬪爭におくつたとも言へる、一八八一年社會民主聯盟を作り活動的なアヂテーターとなつた、一九〇〇年第二インタナショナルの創立に參與し、一九一四年には國家社會黨を作り聯合政府の一翼となつた。

白書
國民に外交の大綱を知得せしむる目的でわが外務省が發行した外交要錄である。
近時各國は戰前の外交文書を續々と公表してゐる。即ちイギリスは青色、フランスは黃色、ドイツは白色、ロシアは橙色、オーストリーは赤色の用紙を用ひてゐるので夫々青書、黃書、白書、橙書、赤書と呼び、これ等を總稱して "Farbbecher" といつてゐる。各國の外交文書公表の動機は主として大戰物發に對し各々自國の責任なき所以を示さんとするに在る。

白色
反無產階級的或は反動的の意に用ひらる。

白色テロ

ホワイト・テロリズムのことで白色恐怖等といつてゐる。支配階級が無產者の反抗運動に加へる暴力的彈壓又は反動團體の暴力行爲をいふ。テロリズムの項參照。

白表
ホワイト・リストの譯語、その項參照。

ハーゼ (Haase, Hugo, 1863—1919) ドイツ人
社會主義者で獨立社會民主黨の創立者の一人である。辯護士を開業してゐたが社會民主黨に入り、一八九七年來代議士となり、ベーベル、エルベルト等と相協力して活躍した、一九一六年戰時豫算に反對してベルンシュタイン、カウツキー等と共に獨立社會民主黨を組織した、一八年の革命には指導者の一人となつたが一九年反對派のものに狙撃されて死亡した。

ハーディ (Hardie, J. Keir, 1856—1915) イギリス人
英國勞働組合の政治化に努力し、獨立勞働黨創設の中心人物でながくその首領をしてゐた。極貧の家に生れ、スコットランドの炭坑夫から身をおこし一八九二年には代議士となつた。この時から一九〇〇年まで獨立勞働黨の總理、一九〇六年から二年間勞働黨の首領となつた、大戰のときは非戰論をとなへた。

ハンガー・ストライキ (Hunger Strike)
斷食同盟、餓死同盟。拘擧されたものが官憲をてこずらす手段。イギリスで婦人參政權主張の婦人等が入獄中に斷食して放還を計つたのがその起りである。近時は勞働爭議等の場合にも繁用されてゐる、即ち籠城して一同斷食し事業主に我を折らして、爭議の解決を有利に導かんとする爭議戰術の一つである。

半國家
プロレタリア革命によつて國家の權力をプロレタリアの手に收め、過渡的に無產者獨裁の國家を樹立し、而して後國家を自滅せしめ、共產主義社會を建設するのが眞正のマルキシズムであるとレニンはいつてゐる、半國家とは過渡的のこの無產者獨裁國家のこと。

ハンザ同盟 (Hansabund)
十三世紀から十七世紀にかけて北ドイツの海岸及び內部都市の商業團が結合して、特に對外貿易に努力しその盛時には世界の貿易を殆ど獨占してゐた。而してこの同盟に參加した都市はその數實に百以上に上り、リューベック市がこれを統帥してゐた。

汎太平洋勞働組合會議

略して汎太ともいふ、太平洋沿岸諸國及び大平洋に植民地を領有する諸國のモスコー派に屬する勞働組合の國際的會議である。一九二七年に創立され、五月にその第一回會議を渋口で、二九年第二回會議をウラヴォで開催した、我が國からは全協系のものが出席した、この會議は我が國左翼組合運動上にエポックを劃したもので近時全協系の執拗な運動、巧妙な戰術はプロフィンテルンやこの汎太の指令によるものだと謂れてゐる。

半ダラ

階級的に墮落してゐる勞働組合の中堅分子の蔑稱、ダラ幹の項參照。

反　帝

反帝國主義のこと、帝國主義の項參照。

反帝國主義運動

帝國主義的政策に反對するプロレタリアの反抗運動を總稱する。即ち帝國主義的戰爭に對する鬪爭と、植民地及び半植民地の帝國主義的壓迫からの解放運動とがその重なものである。

反帝同盟

反帝國主義民族獨立支持同盟（League against Imperialism and for National Independence.）の略稱である。この同盟は一九二七年二月、ブラッセルで創立大會が擧げられた。

戰爭準備反對、植民地民族の獨立運動擁護、ソヴィエト同盟の防衛等をそのスローガンとし、各國に支部を置いてゐる。我が國でも昭和四年十一月に全協、ナップ等が日本支部を結成した。

ハンド・オフ・チャイナ（Hand on China）

對支非干涉。列强の支那出兵に反對して起つた國際的プロレタリア運動である。またレベリア出兵の際にもHand on Russia が叫ばれた。

ハンド・バツク・ボーイ（Hand Bag Boy）

不貞マダムに連れられて歩く男のこと。

反動主義

極端な保守主義。盲目的に過去の思想、制度等を維持擁護して一切の進歩、改革に反對しそのために極端な抑壓を加ふる主義。

飯　場

鑛夫、土工等の合宿所である。こゝに勞働者を收容し、各飯場には飯場頭又は納屋頭といふものが居て、所屬

勞働者に關する一切の取締に任じ、企業主との雇傭契約等もその一存によつて決し、給料の上前を刎ねて利益を貪る外、日用品、食事を給しその間にも多くの搾取をなすもので、特に鑛山の飯場制度は弊害甚しく、所謂監獄部屋としてやかましい問題となつてゐる。

罷　業　權

罷業の自由即ち罷業を合法として認め、且つこれを妨害する者は不法として罰することを要求するをいふ。我が國では大正十五年七月に、治安警察法第十七條同三十條が廢止せられたので、罷業權は消極的、默認的ではあるが認められてゐる。

罷業保險

資本家團が一定の金額を積み積立て、おき、罷業が起つた場合にはその資本家の損害を填補してやるのである、即ち罷業による損害高の共同負擔の仕組である。

罷　市（巾）

ボイコットのこと、その項參照。

日比谷座

帝國議會のこと。

百パーセント

即ち100 Percent. で充分、滿點、すばらしい等の意味である。活動寫眞で全發聲映畫を百パーセント・トーキーといひ、一部發聲映畫をパート・トーキーといつたのから流行した。

日和見主義

一定の主義、定見なく大勢順應、機會追隨によつて自己の立場を有利に展開せしめんとする主義である。又社會主義的な標語をかゝげ無產者的態度を裝ふもその行動は資本主義制度の埒外に一歩も踏出さぬ樣な卑怯や運動家の罵稱にも用ふる。

ヒルファーディング

（Hilferding, Rudolf, 1877—）ドイツ人

ドイツ社會黨の領袖として、又マルクス學者として有名である。大戰勃發のときは軍事費の支出に反對して平和主義の宣傳をした、一九二〇年社會黨が第三インタナショナルに加入と決するや、その一派と共につよくこれに反對した。二三年聯立內閣の藏相となつた。資本論以後の資本論と呼ばれてゐる名著「金融資本論」は彼の著である。

フイジオクラト（Physiocratie）

重農學派。十八世紀の中頃に起つた學派である、人類の社會には自然的秩序が存在するからこれに順應すればよい、徒らに法律を設け、干渉を加へたり、制度を設けたりするのは無用なりとし、經濟政策としては農業を第一位とし、生産物の源泉は土地即ち自然であつて、土地を除いては純生産物は得られない、故に社會に於ける農業階級以外の商工業者等は、凡て不生産的存在であるとした一派の學徒である。

フォード・システム（Ford System）
フォード會社がやつてゐる企業經營組織で、企業を出來るだけ機械化して大量生産を行ひ、これを廉價で提供し以つて販路の擴張に努めると共に、他方勞働者を厚遇してその購買力を旺盛にし、生産品の資行を良好にするといふやり方である。

フューダリズム（Feudalism）
封建制度のこと、その項參照。

平服隊（中）
便衣隊に同じ、その項參照。

平民社
明治三十六年萬朝報を退いた幸德秋水、堺利彥等が起した團體で、我が國最初の社會主義新聞たる週刊平民新聞を發行し、日露戰爭には非戰論を唱へて居たが、明治三十八年廢刊の止むなきに至り、次いで週刊「直言」を發行してゐたが、財政難と當局の彈壓のために解散した、一時は我が國社會主義運動の中心となり、世の注目を惹いてゐた。

ヘゲモニー（Hegemony）
覇權、指導權等と譯す。

ヘンダーソン（Henderson. Arthur 1863—）イギリス人
英國勞働黨の領袖、鑄造工の出身で、一九〇三年代議士となり、一九一六年ロイド・ジョージ內閣の無任所大臣、一九二四年には勞働黨內閣の內務大臣になつた。

保境安民
張作霖のか、げた政綱である、即ち東三省のみを護つて、他へ手を出さず、專ら東三省の省民を保護するといふのがその內容である。

封建制度
上下相貫の主從關係と、封土關係とを以つて組織する武家中心の統治制度で、郡縣制度に對する語である。

ホワイト・スレーブ（White Slave）
醜業婦のこと。

ホワイト・リスト（White List）
白表と譯す、ブラック・リストに對するもので勞働者側で作製する、即ち勞働組合を不當に壓迫したり、低惡な條件で勞働者を酷使する工場主、又は資本家の名を表にしたもの。

I

イスクラ（露）
講義は火花、一九〇一年レニン等によつてスキスで發行されてゐた社會民主勞働黨の機關紙で、革命的マルクス主義の宣傳に盡す所甚だ大であつた。

イズヴエースチヤ（露）
ロシアの新聞紙の名である。講義は通報、公報の意味である。一九一七年ロシアの三月革命の後モスコーで創刊された、ソヴイエット中央執行委員會の機關新聞で、發行部數はロシア第一位、官報的な特色を持つてゐる。ロシアでは言論機關、宣傳機關まで國家でやつてゐる。

一連托生
連帶責任一味のものが進退を共にするをいふ。

イット
性的魅力、色氣。先年イット女優クラ・ボウがエリナ・グリーンの作 "It" and Other Stories を主演してから流行し初めた語である。

イデオロギー（Ideologie）
觀念態又は觀念形態のこと、日常語としては何々型の考へといふ意味に使はれる場合が多い。フランス人ツラシー（Tracy）が造つた語であるが、マルクス、エンゲルスが頻用して以來マルクス主義者の間によく用ひられ、近時は一般の間にも弘く繁用されてゐる。

夢助本部
爭議等の場合、抑壓、切崩をおそれて、その本部の所在を刻々に移動せしめてゆく秘密本部。左翼分子がよく用ひる爭議戰術の一つ。

イニシアチーブ（Initiative）

發議權と評されてゐる、各種の運動を率先して提唱し、又はこれを指導することを「イニシアチーブをとる」等といふ。

イン・ザ・ネーム・オブ・ピープルス
(in the Name of Peoples.)
人民の名に於いてと譯されてゐる。一九二七年に締結された不戰條約の締結交中に在る旬で、これがため條約の批准に際して國論沸騰し、ために時の田中內閣は危地に陷つた。

インスト
インストラクションの略。

インタナショナル
プロレタリアートの國際的結合體の意味に用ひられてゐる。マルクス等の盡力により一八六四年にロンドンで國際勞働者協會（International Workingmen's Association）が組織された、これが所謂第一インタナショナルで、一八七六年に解散した。一八八九年には國際社會黨（International Socialist Party）が大きな規模の下に組織されたが、大戰の勃發と共に瓦解した。これが所謂第二インタナショナルである。一九一九年、モスコーでレニンが中心となつて、共產主義インタナショナル（Communist International 又はコンミンテルンともいふ）を組織した、所謂第三インタナショナルである。一九二一年にサンヂカリストが第四インタナショナルを組織した、この勢力は微弱である。

一方第二インタナショナルは一九二〇年に復活し、一九二一年には所謂第二半インタナショナル（International Workingmen's Union of Socialist Party）が成立した、前者は右翼、後者は中間的で、第三インタナショナルは左翼であるが、第二と第二半とは一九二三年に合同して勞働者社會主義者インタナショナル（Labour and Socialist International）を組織した。これが今日謂ふ所の第二インタナショナルである。

第二インタナショナル系には國際勞働組合聯合（International Federation of Trade Union 一名アムステルダム・インタナショナルともいふ）が一九〇一年に成立し第三インタナショナル系には赤色勞働組合インタナショナル（Red International of Trade Union. 一名モスコーインタナショナル又はプロフインテルンともいふ）が一九二〇年に組織され、今日では第二と第三と、

アムステルダム派とモスコー派と相對峙してゐる。

インストラクション（Instruction）
指令、個々の事柄に就いての時々刻々の命令。一般的、總括的な命令、方針はテーゼといつてゐる。

インダストリアル・コンビネーション
(Industrial Combination)
產業聯合のこと、その項參照。

インダストリアル・デモクラシー
(Industrial Democracy)
產業民主主義のこと、その項參照。

インダストリアル・レボリユーション
(Industrial Revolution)
產業革命、その項參照。

インテリ
インテリゲンチアの略。

インテリゲンチア（露）
知識階級、概ね相當の教養をうけ、純粹の筋肉勞働に從はず、大なり小なり精神的勞働に從事するもの。

インパルシズム（Impulsism）
無政府主義者が社會運動の方法として用ふる所のもので、漸め目的、計畫等を定めず、その時々の衝動のままに行動して行かうとする主張。

インフレーション（Inflation）
通貨膨脹、即ち流通貨幣が增大し、商品量の增加がこれに伴なはない時は物價の騰貴を生ずる、かゝる流通貨幣の增大をインフレーションといひ、これに反し通貨の收縮をデフレーションといふ。

インプレコール（Inprecor）
International Press Correspondence の縮語。第三インタナショナルの機關紙で、週二回發行し英・獨・佛・露語版がある。

インペリアリズム（Imperialism）
帝國主義のこと、その項參照。

J

示威運動
デモンストレーションのこと、その項參照。

ジノヴイエフ (Sinoviev, G. E. 1883—) ロシア人
一九〇一年社會民主黨に入黨し、一九〇五年に追放されてからは各國に流浪し、二月革命の後ロシアに歸り、ボルシエヴイキー革命の中心となつて大活躍をなし、勞農露國の大立物となつた。第三インタナショナルの成立と共にその執行委員長となり、世界赤化の中心人物として重きをなしてゐたが、農民問題に關し、共產黨員多數の反對を受け、二六年要職から退けられ、更らに二七年十二月には遂に黨から追放されたが後復黨した。レニンとの共著「逆流に抗して」その他著書が甚だ多い。

ジノヴイエフ書簡事件
赤色文書事件ともいふ、一九二五年のイギリスの總選擧に際し保守黨は、第三インタナショナルのジノヴイエフから英國共產黨に宛てた指令書を發き出し、勞働黨內閣がロシアに對して、寬大すぎることを攻擊した事件である。これがため勞働黨のうけた打擊は少なくなく、その後指令書は僞造だといふ事が發表された。

事故なしデー
「安全デー」ともいふ。勞働運動に於いてはサボタージュの一戰法として利用される。特に交通、運輸從業員その他公共事業の從業員が罷業をすると、社會民衆に影響する所頗る大なるがため、「規則勵行デー」「遵則運動デー」「工場安全週間」等と稱し、規定の一字一句に拘泥して殊更らに緩慢なる作業をなし、以つて事業上に支障を生ぜしめんとする戰法である。

實質賃銀
名目賃銀に對する語で、賃銀によつて得らるべき商品の相當量である。例へば賃銀が二割上つても物價が三割上つて居たら實質賃銀は下つたこと、なる。

自主的工場委員會
勞働者だけで組織してゐる工場の委員會で、勞資協調的な工場の委員會を自主的に改め樣とするのが左翼急進分子の主張である。

ジツグザツク (Zigzag)
波瀾曲折多き義

隋小民族
名目上のみの獨立國・殖民地・屬領・保護國等の諸民族のことで、被壓迫民族ともいふ、今日では國際水平運動即ち殖民地問題、反帝國主義運動、獨立運動等はやかましい問題になつてゐる。

ジヤコビニズム (Jacobinism)
フランス革命時代のジヤコビン黨から出た語で、專ら政府に反抗するを事とし、急激な變革を望むが如き氣風傾向をいふ。

ジヤーナリスト (Journalist)
新聞雜誌記者、通信記者のこと。

十一月革命
ロシア革命の項參照。

十月革命
ロシアの十一月革命は露曆で十月二十五日に當るので十月革命ともいふ、ロシア革命の項參照。

從業員組合主義
資本系統に從つて全從業員を一つの組合系統に組織せんとする勞働組合組織上の一つの型である。產業別組合の變型とも見られうる。

十五ケ年計畫
ロシアでは五ケ年計畫の情況を基礎として、次ぎの新しい計畫が國家經濟計畫委員會の手で樹立されてゐる。それは五ケ年計畫終了後の十五ケ年を大計畫期間とし、その間に世界一流の資本主義國を追ひ越し、他方國內には共產制社會を建設せんとする企である。未だ討議中ではあるがこれを十五ケ年計畫といつてゐる。

自由出漁
昭和六年の春沿海州漁業問題に關聯して起つたことであるが、許可なくして漁場に出帆し、漁業に從事することである。ロシア人以外は出帆、從業につき査證即ち漁業のために出帆する事を許可するといふ證明書を要することになつてゐる。

縱斷組合
勞働者を上から下まで縱に切つて、その工場の勞働者のみで組織する勞働組合をいふ。橫斷組合に對する組合。概して階級的利害よりも目前の利害に重きをおく。工場外との連絡が少ないから資本家側にとつては統御しやすい點がある。

柔盜
強盜をもちつた語である、即ち贈收賄、不正拂下等に

より不當の權利、利益をうけた者をいふ。

ジュラ聯盟（Jura-Federation）

バクーニン、ギョーム等をその指導者としスキス、フランス地方の時計工を中心として組織されたアナーキストの國際團體である。

自由聯合主義

無政府主義者の主張する所で資本家階級に對抗するため勞働階級の合同團結は、現存の各勞働組合の自主、自由を根性にせざる範圍に於いて相互の連絡、共同動作を容認するといふ主張。

十六ミリ

映畫フイルムの寸法である、一般興行映畫館のフイルムは三十二ミリであるが娯樂用、アマチュア用は多く十六ミリである。轉たて小さいといふ意に用ひらる、「あの人は十六ミリだ」とは背がひくいとの意である。

上部構造

マルクスが用ひた語。社會組織の基礎をなすものは經濟的な事情、就中生產關係で、この生產關係の如何によつて上部構造即ち、政治、經濟、法制並びに一定の社會的意識形態が築き上げられるのであるといつてゐる。

剩餘價値

マルクス資本論の眞髓で、商品の生產過程中勞働によつて投下資本に附加せらる、新價値、即ち勞働力が、生產過程中に生んだ全價値から勞銀に相當する價値を引いた剩餘の部分のこと。なほ勞働價値說の項參照。

ジョーレス（Jaurès, Jean, 1859—1914）フランス人

ツールの大學教授をしてゐたが、一八八五年代議士となり一九〇〇年頃から社會主義運動にたづさはり右翼の立場に在つた、大戰物發するや非戰論をとなへたので國粹漢員のため射殺された。

人權宣言

一七八九年フランス議會で發布された「人民及び公權宣言」の略稱でさる。

第一條に「人は出生及び生存に依つて自由、平等の權利を有す、社會的不平等は公共の利益の外にこれを作ることを得ず」と規定してある。社會主義者等はこれを以つてプルジョア的自由平等の原則の宣言だと言つてゐる。

人口論

マルサスの主唱した有名な學說で、人口は幾何級數的に增加するが食糧は算術級數的にしか增加せず、即ち人口と食糧との增加率が一致しない故に、社會的の弊害が生じて來るのである。故に道德的抑制によつて人口の增加を制限せねばならぬと主張した。その後幾多の修正說や反對說が出で、殊に統計學の進步と共に人口論に關する種々の論議が繰返されてゐるが、區々にして未だ一致する所がない。

人民委員會

ロシア政府中央執行委員會から任命された常任執行機關である。議長と十四人の人民委員（コムミッサル）からなつてゐる、これは全露、即ち社會主義ソヴイエト共和國聯盟（U·S·S·R）の一つであるロシア·ソヴイエト聯盟社會主義共和國（R·S·F·S·R）の人民委員會である。

全露の人民委員會は議長と十二人の人民委員からなつてゐる。全露人民委員會の項參照。

K

カー（K）

ドイツ語 Kommunist の頭文字で共產主義者のこと。

階級

マルキストが用ひる場合は生產關係に於いて同一の役割を演じ生產過程に於いて他の人々に對して同一の關係に立つ人々、從つて社會的の分配に於いて各種の分配の內、同一種類の分配に與るものを指して一つの階級（Klasse）といふのである。例へば地代の分配に與るものが地主の階級であり、利子を得るものが資本家階級で、利潤に對して企業家階級があり、勞賃に對して勞働者階級が存するが如き即ちこれである。通俗に用ひられてゐる場合は大いにその意味を異にし、概して身分關係を示す階級（Stand）の意である。

階級意識

自己の所屬する階級の共通利害と、他階級に對する反目とについての明確な自覺をいふ。

階級鬪爭

階級戰ともいふ。階級の利害のために惹起される階級間の闘爭で、マルクス主義の根本原理の一つである。

解消派

勞農黨内に起つた小岩井淨氏一派の運動で「現時の勞農黨は立黨の精神たる階級闘爭による無産者解放の眞髓を忘却し、マルキシズムに反すること多き故即時解散すべし」との純理論を以つて大山黨首に迫つた。その結果勞農黨は小岩井、細迫氏等及びその一派を除名することゝなつた。

會審衙門

中華民國の外國租界にある領事裁判所のこと。

カイゼリズム (Kaiserism)

前ドイツ皇帝の態度から出た語でお山の大將おれ一人といふ樣なひとり强がる風のあることをいふ。

閉店休業銀行

店は開けて居るが、事實上休業してゐる銀行のことである。一度閉店すると資金の調達、帳簿の整理等が捗らず、ために開店が遲れ勝ちになるので、この樣な變態的な休業をなすのである。

解放運動犧牲者救援會

ドイツの國際赤色救援會に倣つて解放運動に於ける犧牲者及びその家族の救援、慰安を目的として昭和三年に設立されたものである。昭和五年八月、モスコーのコンミンテルン大會で、純共產黨員のみを救援することに決議されたので、日本共產黨がこれを國際赤色救援會日本支部と改め、黨犧牲者並びにその家族を救濟し、一方革命運動に對しても、潛行的に積極的援助を爲してゐたが大阪で昭和六年一月には松田勝次、四月には中心人物小岩井淨が夫々檢擧された。これをモップル事件又は赤色救援會事件ともいつてゐる。

解放聯盟

大正十三年八月、全國水平社内の共產主義系に對抗するために組織せられた、無政府主義系の水平運動團體で、部落民の解放は部落民自身の手で爲さゞる可らずと主張し、政治運動を否定し階級闘爭主義を排撃してゐる。

改良主義

社會政策、社會的正義による法律の改正等によつて社會を改良せんとする主義、又保守、妥協、漸進主義を意味する場合もある。

カウツキー (Kautsky, Karl Johann 1854—) ドイツ人獨逸社會民主黨の長老。マルクス及びエンゲルスの直弟子で、眞正マルクス主義を唱へ、修正派のベルンシュタインと花々しい論戰をなし、又無產者獨裁に反對し、戰後レニンと大論戰を交へた。この論爭は世界的の理論闘爭であつた。エンゲルスの委囑をうけマルクスの資本論第四卷「剩餘價値學說」を編纂した外、多くの著書があり現代に於けるマルクス派社會主義の最大學者といはれてゐる。

カカンニ (Cacanny)

サボタージュの一種、徐々に進むの意、スコットランドの方言である。これをフランスのサンヂカリストが輸入してサボタージュと稱した。

科學的管理法

資本、一切の傳統を排し、凡ての點に亘つて科學を應用し「生產額を增大し、生產費を減少し、勞働賃銀を引き上げる」といふ產業の管理方法である。米人テーラが首唱したのでテーラー制度ともいはれてゐる。

科學的社會主義

マルクス、エングルスによつて代表せられる理論及び實踐の總稱で、マルキシズムと同じ義であると解してよい。マルクスが以前の社會主義を實現性のない空想なりとして空想的社會主義と名付け、自らの主義を科學的社會主義と唱へた。

華僑

海外にて營業せる中國人、殊に南洋地方に在住してゐるものを指す。

擴大執行委員會

執行委員と構成團體の代表者とを加へて會議を開く場合これを擴大委員會、二倍にするときは倍大委員會といふ。これが中央委員の時は擴大中央委員會、倍大中央委員會といふ。

家計調査

生計狀況の調査の謂であるが、改正米穀法に基づき昭和六年九月一日から翌年八月三十一日までを第一期として、國民の生計狀況、特にその支出の方面を繼續的に調査することゝなり、全國十都市を選び、調査員をおき、給料生活者、工場勞働者の各業態に亘り、二千世帶について調査することゝなつた。

影候補

供託金を納めてゐない候補者を出して、自黨派の投票を他黨派に奪はれぬ樣にする無產政黨の選擧戰術。

カザン大學

ロシアのカザンにある有名な大學で、レニンもこの大學に在學したことがある、革命後共產黨大學となり、レニンの名に因みレニン大學と改稱した。

カシャン（Cachin, Marcel, 1869—）フランス人

フランス共產黨の首領である。もとはボルドー大學の哲學教授であつたが一九一四年代議士となり、機關誌「リュマニテ」の主筆となり、大戰後訪露して共產黨に加入し活動をつゞけてゐる。

方階級

何某方といふ肩書付階級の意で、獨身の勤人、學生、主に一戶を構へ得ぬ二階借生活者を指す。

漸準賃銀制度（Sliding System）

勞働者との間に於いて生產物の標準價格と、標準賃銀とを定めておき、生產物の實際上の價格が標準價格を上下するに伴ふて支給賃銀を定める方法である。この方法は好況時代が繼續する間は勞働者にとつては有利であるが、不況時においては非常な困難に面すること、なる欠點をもつてゐる。

カップ革命

ドイツの反革命運動で、一九一九年カップ將軍が起したものである、この反革命は僅か七日間で鎭定されてしまつた、これより三日天下の意味にも用ひられる。

カテゴリー（Category）

範疇、哲學上では基本的の概念をいふが、通俗的には種別、部屬、部門の意に用ひられてゐる。

火田

朝鮮の山間部で行はれてゐる極めて粗笨的な一種の原始的耕作法で、一般には燒畑耕作といつてゐる。卽ち野生の立木、萱等を切り倒して後これに點火し、降雨をまつて播種し、數年間使用して地味が劣へると休耕又は廢耕して他に移耕する。この耕作法を行つてゐるものを火田民といひ、かねてからその弊特に森林火災に苦んでゐたが總督府は明治四十四年森林令を發布し、大正五年には內訓を發してこれが取締、整理に努めてゐるが、今尙は四十萬町步の火田と、百十六萬の火田民がおり、朝鮮治政上の一大癌腫となつてゐる。

カード陸織

方面委員のカードに記入される階級といふ意味で、救濟を要する人。昭和六年四月の調査によると、大阪市には八千四百世帶、三萬四千人もゐる。

カナイスト

前衞分子、共產黨の用語である。前衞の項參照。

可變資本

マルクスは資本を不變資本と可變資本とに二分し、勞働に充當する資本を可變資本といひ、原料、補助原料、勞働用具等の生產機關に投ずる資本を不變資本となし、勞働力に充當せらる、資本部分（賃銀）は生產過程に於いてその價値を增大し餘剩價値を發生せしむると說いた。

カーベー（Cabet, Etienne, 1788—1856）フランス人

空想的社會主義者で一八四二年有名な「イカリア航海記」（Voyage en Icarie）を著し共產主義思想普及に大なる貢獻をした。後その思想實現のため北米テキサス州とイリノイ州とに共產團體を作つたが、相前後してともに失敗に終つた。

壁新聞

工場、勞働者の合宿所又は集會場等の壁に新聞の切抜、ビラ、ポスターの類を貼付して告知板代用にしてゐるものをいふ。

カー・ペー（K·P）

ドイツ語 Kommunis Partei の頭文字をとつたもので共產黨のこと。

カムフラージ（Camouflage）

迷彩、對敵僞裝、轉用されて或る要求を出し、又は運動するに際して、相手方の攻擊を避けるために表面は極めて穩かにし、假面をかぶる方法をいふ。

カーメネフ（Kamenev 1883—）ロシア人

本名はレオン・ブゾヴイッチ・ロゼンスェルドといふ、共產主義者でジノヴイエフ、スターリンと共にレニン麾下の大立物として、第三インターナショナルの執行委員、人民委員となり大いに活躍してゐたが、後スターリンに退けられた。

カラハン（Karakhan, 1889—）ロシア人

共產黨員、印刷工の出身である、一九一七年全露中央執行委員會の組織に參與し、一九一八年外務參與官となり外交方面で活躍し、ロシアの代表者として北京註割の節は國民運動を指導し、又日露通商の主役者であ

つた、チチエリン幕下の三星の一人としてソヴイエトロシヤ外交部に重きをなしてゐる。

カリニン（Kalinin, M. Iwanovich. 1875—）ロシア人半農半工の勞働をつゞけてゐたが、一八九八年社會民黨の黨員となり、農民とボルシエヴイキーとを結びつけるのに努力した、農民の信賴を一身に集めてゐる、一七年の革命後は勞兵會の會長となり、一八年スエルドロフの逝去後、中央執行委員長—諸他國の大統領—となつた。

カルテル（Kartell）

諸企業が（その獨立性を失ふことなくして）相結合し、自由競爭を廢して市場を獨占すること、即ち獨占的利益協定をいふ。各加盟企業の獨立性が單に制限されるのみで、廢止されない點がトラストと異つてゐる。トラストの項參照。

カルナボリスト

炭燒黨と譯されてゐる、イタリーの共產主義者、急進主義者の結社で、暴力によつて帝政を覆へさんとの主張を持つてゐた、一八二〇年フランスにも同樣のものがバザールによつて組織されたがルイ十八世の時に、粉碎された。

カール・ローザ・テー

一九一九年一月十五日はドイツ社會民衆黨の急進反戰論者カール・リープクネヒト、ローザ・ルクセンブルグの兩名が反對派に殺害された日で、プロレタリア記念日の一つである。

棺桶團體

疾病、葬祭等の共濟事業に重きをおく組合を罵つた語。

カン切り

罐詰の項參照。

カンヂダーツ（露）

候補者、ロシア共產黨員たらんとする者は一定期間候補者として黨員に必要な教養をうけるのである。

感情的社會主義

空想的社會主義の別稱である。その項參照。

罐詰

罷業等の場合資本家側の切崩しを防ぐために罷業參加者を一定の場所に合宿せしめ、結束を固め、統制をはかり他方外部との交通を遮斷することがある。これをカン詰めにするといふ。尤も資本家側においても、從

業員の附和雷同、罷業の擴延を防ぐために從業員をカン詰めにすることがある。これ等カン詰を切開すことをカン切りといふ。

カンパニーヤ（佛）

戰鬪又は運動の意、その時、その場合に應ずる時々刻々の運動のことである。大衆的カンパニーヤ等とよく用ひられてゐる、略してカンパともいふ。

官吏恩給納付金

恩給法の規定に基き恩給の基金として、官吏が俸給をうくるに當つて、國庫に納むる金額をいふ。

官僚幹部

勞働組合や政黨等において、その中央集權制のために、中央部の力が增大して來るに從ひ、いつか一般の者の意志に反して命令し、行動する樣になり、終には崗を作り、その力によつて相互の地位を維持、擁護しやうとするやうになる。これ等の幹部を官僚幹部、又は勞働官僚といふ。

飢餓賃銀

飢死しそうな最低の賃銀といふ意。

騎馬派（中）

中華民國の日和見主義者のこと。

貴族的組合

熟練勞働者のみの組合で、未熟練勞働者の加入を歡迎せぬ組合。

狐狩り（Hunting Fox）

イギリス勞働者間の隱語で、ストライキに際しピケチングが禁止された場合は、種々の暴力手段を用ひて、裏切り者や、罷工破りを防ぐその秘密手段をいふ。

キム（Kim）

國際青年共產黨の略で Kommunistische Jugend International の頭文字をとつたもの。

キヤピタリズム（Capitalism）

資本主義のこと。

キヤンベル事件

一九二五年七月イギリスの共產主義者キヤンベルが、陸海軍軍人に對し過激な公開狀を發表したゝめ起訴されたところ、勞働黨の左翼分子が釋放運動を起し、時の首相マクドナルド氏がこれを嘉許したため、議會において司法權侵害なりとして攻擊をうけ、遂に議會を解散した事件。

紛擾隊（中）
爭議等の場合に於ける裏切者防止員のこと。

共產主義
生產機關は勿論、一切の財產を社會の共有にし、人々はその能力に應じて働き、必要に應じて消費する社會の實現を理想とする主義である。共產主義はマルクスが初めてこれに科學的基礎を與へ、これが實現に着手したのはレニンである。

共產主義インタナショナル（Communist International）
第三インタナショナルのこと、その項參照。

共產黨事件
日本共產黨が秘密結社を組織して檢擧された事件をいふ、主なものは
第一次共產黨事件　大正十二年六月五日
第二次共產黨事件　昭和三年三月一五日、三・一五事件
第二次殘黨狩　昭和四年四月一六日、四・一六事件
第三次共產黨事件　昭和五年二月中旬より約一年間
（この間に二月事件、二・二〇事件等があつた）
の四回である。日本共產黨の項參照。

共產黨宣言（Kommunistische Manifesto.）
一八四八年マルクス及びエンゲルスがブラッセルで發表した共產黨の理論上、實際上の綱領で、マルクス主義の金科玉條として遵奉せられて居る名高い文獻で、「萬國の勞働者團結せよ」の有名な標語はこの共產黨宣言の結尾の句である。

共產土曜日
ロシアでは土曜日を無報酬勞働日として、ソヴイエト繁榮のために働くこと、なつてゐる。これを共產土曜日とよんでゐる。

京大事件
京都帝大學生が組織してゐた京大社會科學研究會を中心とし、各地の大學、高等學校、專門學校の學生がマルキシズムの社會革命の思想宣傳、無產階級獨裁による共產主義社會の建設の實行方法等の實際運動に沒頭してゐることが發覺し、大正十五年一月十五日を期し、東京、大阪、京都、神戸、福岡、仙臺等の各地に於いて續々關係學生を檢擧しその數三十八名に達し、何れも有罪の判決を見、一世の視聽を驚てた事件。

協調會
大正八年、時の內相床次竹次郎氏が澁澤子等の資本家

と共に計畫し、資本家の寄附七百萬圓、政府からの補助金二百萬圓とで設立されたもので「社會政策に關する諸般の調査研究を爲し、竝にその實行を期し、進んで事業主と勞務者との協同調和を圖る」のをその目的としてゐる。

協調主義
階級協調主義、勞資協調主義であつて、即ち勞働者の權利の主張や、地位の向上を、資本家と勞働者との妥協によつて達成し、兩階級の利害を互ひにくみ合ひ、兩階級の共存共榮を圖らんとする主義で、內務省社會局の勞働政策はこの主義をとり、協調會はこの主義の實行機關である。

協同戰線
分立する無產者團體が協力して資本家に對して單一戰線を張ること、

切札
難問題等を解決する際の最後の裁定案のこと。本來はトランプ用語である。

切米
德川時代の旗本、御家人の俸祿米をいふ。

錦旗革命
軍閥、反動團體等が行ふ反動的な革命をいふ。

キングスレー（Kingsley, Charles. 1819—1875）
イギリス人もとは牧師、一八六〇年から劍橋大學の教授をしてゐた。キリスト教社會主義の創始者であつて、勞働階級の衞生的、道德的救濟事業に從事した。我が國社會運動の初期に發達したキングスレー館は、この派の傳導所であつた。

金肥
科學肥料、人造肥料のことで、然らざるものを人肥といふ。

金融寡頭政治
一國の全產業が二、三のトラストに結合され、それ等が又銀行によつて結びつけられ、從つて全產業は小數の銀行王とトラスト王の下におかれる、かゝる時には一國の政治も亦これ等少數金融資本家の獨裁となり、內閣はその指令の下に動く單なる執行委員會となる。かくの如きを金融寡頭政治といふ。

ク・クラックス・クラン（Ku Klux Klan）

南北戰爭後アメリカの南部諸洲に起つた祕密結社で、黑人・北部の强勢化及び平等思想等を嫌惡し、反動的色彩濃厚であつたが、一八七〇年頃を最盛時としその後暴徒の團體と化し漸次衰滅に向つた。

クーゲルマン（Kugelmann, Rudwig Wenzel, —1902）ドイツ人

もとは商人であつたが、一八四八年の革命運動に參加し、ついで國外に亡命してゐたが、のち歸國して醫を業としてゐた。マルクスと親交があり、その學殖もふかくマルクス自身も「ドイツに於ける最も敬愛する友の一人」といつてゐる。資本論が出版されるやその聲價をたかめるために多大の努力を惜しまなかつた。

空想的社會主義

社會主義は空想的、科學的の二種に大別される、空想的社會主義とは資本主義經濟組織に因る社會的弊害、勞働者の生活窮乏等に同情し、新しい平和な、幸福な社會を空想し、その理想を空想的に組立て、人間の道德心に訴へて社會の改造、理想社會の實現を圖らんとする非科學的社會主義のこと、なほ科學的社會主義の項參照。

クック（Cook, Arthur James, 1885—）イギリス人

十七歲の時バプテストの傳導師となつたが、後坑夫となり、一九〇五年獨立勞働黨に加入し、一九二一年には大英坑夫聯合會執行委員、ついで書記長を歷任した。一九二六年の大罷業のときはこれが指揮にあたつた、一九二九年には勞働組合會議（T・U・C）の總務委員になつた。

クーデター（Coup d'etat）

政治的變革を行ふため、武力による反對派撲滅の非常手段をいふ。

クートベー（露）

東洋勤勞者共產大學のロシア語の略稱である。一九二一年スターリンがモスコーに設立した學校で、修業年限は二ケ年である。その目的はアジア諸國の勞働者・殖民地・被壓迫民族解放のために、共產主義運動の指導者を養成し、これを各國に派して東洋諸國の共產黨のオルガナイザーたらしめんとするものである。この學校の卒業者は我が國人にも相當ある由である。

クーポン（Coupon）

割戻券、利札のこと。

組合合同主義

勞働組合の大合同團結によつて中央集權的統制の下に單一機關を組織し、資本家階級に對抗すべしとの主張。

クラーク（露）

ロシアの地主、富農で、スターリンの農業政策のため大打擊を蒙り近年は激減した。

クラス・ストラグル（Class Struggle）

階級鬪爭のこと、その項參照。

クラツシン（Krassin, 1870—）ロシア人

ブルジョア出身であるが一八九〇年頃から革命運動に加はり、以來逮捕と追放とをうけてゐたが一九一七年革命の成立と共にレニンの下に赴き、外國貿易委員長に起用せられ、一九二七年三月には英露通商條約を結び、ジュネーブの經濟會議では外務人民委員長のチチェリンを援けてソヴイエト・ロシアのために奮鬪しその名聲を昂げ、ついで英國大使となつた、雄辯を以つて知られ、現代ロシア政府の中樞人物の一人である。

クラルテ（Clarte）

光といふ意、共產主義的知識分子によつて大戰直後結成されたものでフランスを中心とし、各國に支部を置いて居り、第三インタナショナルを支持してゐる。

クリウエル（露）

傳書使。ロシアと同國の在外大公使館その他の機關との間を往復し、文書の傳達、その他の連絡に當る者。

クリヤリング・セール（Clearing-sale）

藏拂ひ、棚下しのこと。

クルプスカーヤ（Krupskaja, Nade Konstantinouna, 1869—）ロシア人

レニンの未亡人である、學生時代のレニンと結婚し、共產黨に加盟して活躍し、常にレニンと艱難を共にしてゐた。革命後は政治教育本部にあつて教育界につくした、二一年新經濟政策に反對してトロッキー等と共に除名されたが、二八年に復黨し、現に教育人民委員會に列してゐる。

黑シヤツ黨

イタリーのファシスト黨の異稱、黨員は皆黑シヤツを着用してゐるのでこの名がある。

クローズ・アップ（Close up）

活動寫眞の用語であつて、大寫しのことである。

クローズド・キャンプ（Closed Camp）

閉鎖住宅。雇主たる會社の所有地上にある勞働者の住宅又は社宅をいふ。ストライキ等の場合には交通を遮斷して來援者の入り込むのを防いだり、又立退きを命じて威嚇することが出來る。

クローズト・ショップ (Closed Shop)
締付工場。ある勞働組合と、その組合の組合員のみを雇入れると云ふ團體契約を結んでゐる工場。然らざるものをオープン・ショップといふ。

クロポトキン
(Kropotkine, Peter Alexeyevitch, 1842—1921) ロシア人有名な無政府主義者、ロシアの最高門地たる公爵家に生れ、軍籍に入つたが五年後轉じて自然科學の研究に耽り、一八七二年スキスに赴き、ジュラ同盟の人々と會見しバクーニンの說に共鳴し、遂に無政府主義運動の理論的、實際的指導者となつた「相互扶助論」「革命家の思出」等は最も有名な著書である。

獄の筋
百姓上りの成金、資產家等を惡稱したもの。

契
朝鮮に古からあるもので恰も我が國の產業組合の如きもの、數人又は數十人、數百人相合して契を作り互に金錢を據出して種々の事業を經營するものである。今日では契の數一萬九千、加入者八十一萬人、資產總額四百九十萬圓に達してゐる。

鍵鬪工業
Key Industry の譯語である。即ち製鐵、機械製作、造船等の生產機具を生產する工業を總稱したものである、この鍵鬪工業が資本主義經濟組織の基礎をなしてゐる。

啓蒙運動
萬般の生活現象に對し傳統的の迷信、强制、束縛に支配せられずして、科學的に合理的に公正なる判斷を下さんとする運動。

ケー・ケー・ケー (K・K・K)
ク・クラックス・クランの略稱、その項參照。

ケー・ジー・ケー (K・G・K)
解放運動犧牲者後援會のローマ字綴を略して用ひたるもの、その項參照

潔癖派
觀念論に拘泥して、主義、主張の純正を高唱するのみで、結局何等の實際運動をもなし得ない者に對する罵稱。

ケルン (Kern)
細胞、核、中心等の意。團體の中樞として統制、通信、宣傳等に當る分子をいふ。

ケレンスキー
(Kerensky, Alexander Feodorovich 1881—) ロシア人もと辯護士である。一九一三年代議士となり、ロシア社會革命黨に屬して居た。一九一七年三月のルブオフ公を首相とする第一次臨時內閣には社會革命黨を代表して司法大臣となり、七月首相のしりぞくや、その跡を襲ふたが十一月七日トロッキー、レニン等のクーデターに破ぶれイギリスに亡命、ついでアメリカに渡つた。

建國祭
大正十五年二月十一日永田秀次郎、丸山鶴吉氏等が我が國建國の理想を高唱して、剛健なる國民精神の作興を圖らんがため、紀元の佳節を以つて建國祭を擧行し、全國民的運動たらしめんとした。

檢束者同盟
急進的な運動を行ふ際覺め檢束を覺悟し、若し一人が檢束されると故意に他の者も多數に檢束され、留置場を滿員にして、官憲を手古摺らすといふ左翼分子の戰術である。

黃禍論
黃色人種の勃興が白色人種に與ふ可き脅威を誇張し、兩人種の爭覇的鬪爭を妄想するところの一部白人の所論である。

黑化
黑色はアナーキズムのシンボルであるから、黑く化することは、無政府主義傾向を帶ぶることを指す。

國家社會主義
廣義に於いては生產機關の國有を主張する一切の社會主義を指すが、普通はビスマルクの社會改良主義を指す、即ち現在の社會制度を維持し、階級鬪爭を認めず、只資本家の自由なる活動に制限を加へ、國權によつて生產の監督、指導をなし、上下兩階級の調和を計らんとするものである。學說の方ではロードベルツス (Karl Rodbertus) が國家社會主義の學理的開祖、ワグナー (Adolph Wagner) がこの完成者で、ラサール (Ferdinand Lassalle) これが實際運動に着手した。
ビスマルクは鐵道の國有、煙草の專賣、一八八一年に

は労働保險法の制定等を行つて急進派の贊仰を得たが、これ等はむしろ政略的に行はれたものと見るべきで學理的批判の價値は乏しい。

胡漢民

廣東の人、法政大學の出身で在日中に孫文と相識つた、武漢革命と共に廣東都督となり、孫文の秘書長となつて以來、つねに孫文と去就を共にしよく輔佐し、つぶさに先驅者の辛酸を共にした、二三年廣東省長となり、國民黨の改組に際して中央執行委員となり、孫文の帷幄の內に參劃した、孫文の死後は一時實權を握つたが蔣介石との間に隙あり、二五年ロシアに入り、二六年歸國した、二七年南京政府成立し、二八年に五院制實施せらるるや立法院院長となる。最近また蔣氏と合はず偶々廣東に打倒蔣介石の火の手あがるや、その動靜は內外の注目を惹いてゐる。

國際運輸勞働組合聯盟

I·T·Fのこと、その項參照。

國際決濟銀行（Bank for International Settlements）

本店をスキスのバーゼルにおき、資本金は五億フランである。ヤング案によつて創設された。その業務は當初はドイツの賠償金に關する仕事が主であるが、更らに進んでは資金の國際的移動に便宜を與へ、國際金融關係の助長機關、國際金融の淸算所たらしめんとするに在る。

國際社會黨（International Socialist Party）

第二インタナショナルのこと、その項參照。

國際水平運動

被壓迫民族解放運動のこと、弱小民族の項參照。

國際補助語

エスペラント語のこと。

國際勞働組合聯合

（International Federation of Trade Union）

アムステルダム·インタナショナルのこと、その項參照。

國際勞働者協會（International Workingmen's Association）

第一インタナショナルのこと、その項參照。

國際勞働デー

メーデーのこと、その項參照。

黑表

ブラック·リストのこと、その項參照。

靑血制度

勞働條件が極く惡い場合に用ひられてゐるが、本來は二重請負制度を意味してゐる。即ち一人が問屋から請負ひ、これを更に低廉な價格で下請負させて、中間請負者がその賴を儲ける制度をいふ。

耕作禁止

立入禁止に同じ、その項參照。

耕作權

小作人がその耕地を地主の所有權によつて濫りに脅威されることなく耕作し得る權利で、勿論成文法上の既成の權利でない。

公式社會主義者

マルクス等の章句を徒に羅列し、字義に抱泥し、眞にマルクス的方法を用ふることなしに問題を解決せんとする樣なものをいふ。

黃色

右翼、妥協的漸進派、改良派を象徵する色、黃色組合、黃色インタナショナル等と用ひられてゐる。

黃色組合

戰鬪的組合たる赤色組合に對し、階級協調を主張する組合の別稱に用ひられてゐる。

工人會

工會の別稱、中華民國の勞働組合。

工場委員會

工場の管理、經營、設備、勞働條件等を勞資双方の代表者からなる合同委員の協議によつて決定せんとするもので、更に進んでは勞働者側にも工場管理の發言權を認めしめんとする所謂產業民主主義運動の一形態である。

工場代表者

勞働者が自己階級の利益を保持改善するために各工場別に代表者を選び、日常鬪爭の機關たらしむるもの。

コスモポリタニズム（Cosmopolitanism）

世界主義のこと。

工代

工場代表者の略稱、その項參照。

國境社會主義

ロッシエル、シュモラー、ワグナー、ブレンタノ等ドイツ經濟學者が一八七三年に社會政策協會（Verein fuer Sozialpolitik）を設立し、著作物を頒布し、社會政策、

社會思想の指導團體として多大の貢献をなした。その立場は自由放任主義に極力反對し、國家はつねに不平等な富の分配に注意し、且つこれから派生する各種の弊害を防止するために、國法による干渉保護を必要とするといふにある。

主に諸大學の教授達が組織してゐたので講壇社會主義（Kathedersozialismus）と冷稱した。

後間もなく協會の中にワグナー一派の國家社會主義と、シューモラー一派の社會改良主義の二派が生じた。明治四十年十二月に創立された「日本社會政策學會」は前記の社會政策協會に倣つたものである。

高等遊牧民

カフェー、バー等を飲み廻る有産有閑の者。

コードン（Cordon）

非常線のこと。

衡平運動

內地の水平社運動と同性質のものである。朝鮮には四十萬の白丁（ピヤクチヨン）が居る、白丁は朝鮮社會の最下層に位する一種の奴隷階級であつて、他階級のものから宛然動物視され、凡ゆる苛酷な待遇をうけてゐたが、近來差別待遇の不合理を自覺し、內地の水平社運動につよく刺戟され、大正十二年四月、衡平社を創立し、人間禮讃、差別撤廢の運動を起すに至つた。

コーペレーション（Cooperation）

協同組合と譯す、生產組合、消費組合等相互扶助の趣旨の下に生產、消費、分配の平等及び共同利益の原則の上に立つ團體をいふ。

青埔軍官學校

中國國民黨が民國十三年、ボロヂンを顧問、廖仲愷を創立者、蔣介石を校長として、廣東に設立したものである。學生は黨員の中から選び、軍事教練の外三民主義、政治學等を教へ、その卒業生は國民軍の中堅となつてゐる、國民軍が南京に入ると共に、この學校を南京に移し、中央軍事政治學校と改稱した。

コミサール（露）

ソヴイエト聯邦人民委員會。人民委員會の項參照。

込米

差米とも稱し、年貢を納めるとき約定の小作料よりも多く支拂ふ差額米である。

交民港

北平の外國大公使館地域をいふ。

コムソモール（露）

ロシアの青年共產黨員、女子共產黨員はコムソモルカといふ。

コムニスト（露）

共產主義者、その項參照。

コムレード（Comrade）

仲間、同志のこと。

コルホーズ（露）

ロシアの共同農場、一時は農家の約半數が加入してゐたがその後相當減じた由である。

コレツクテイヴイズム（Collectivism）

集產主義のこと、その項參照。

コロニー（Colony）

殖民地のこと。

コロンタイ（Kollontai, A. M. 1872—）ロシア人

有名な女闘士でロシア共產黨員、夙に婦人勞働組合運動に盡してゐた。ロシア革命の際は大活躍をなし、一時は中央委員の要職にあり、一九二三年から外交界に入り、ノルウエー、メキシコ、再びノルウエーの公使に歷任し、婦人外交官としてその聲價をあげてゐる。十八ヶ國語に精通して居るといはれ、文學上の著書も多く、殊に戀愛觀に關する著作は有名である。

康有爲

廣東の人、清朝時代の戊戌政變の中心人物として、又第一流の學者として名高い、勤王の志極めて厚く、革命の後は各地に亡命し、一九一八年上海で死するまで復辟を斷念しなかつた。

コンツエルン（Konzern）

英語ではコンファレンス（Conference）といふ、企業の統一聯合體、即ち鑛山、船舶、商事、製鐵等各種の產業を縱橫に結合してゐる三井、三菱等の如きものをいふ。

コンドルセー（Condorcet, M. J. Antonine 1743—1794）フランス人

フランス大革命當時の思想家である。北佛の貴族の出身で數學にすぐれてゐた。革命のときはジロント黨に屬してゐたが遂に獄死した。彼の思想はサン・シモン、コント等に多大の暗示を與へた。

コンミユン（Commune）
自治團體、自治團體の政治機關を指す、ラテン語のコムミユニスから出た語、ローマ、中世の歐洲、殊にフランスには各地方にこの自治機關が存し、これをコンミユニス又はコンミユンといつてゐた。

コンミユン主義
コンミユンを政治的、社會的の中心機關とし、完全なる自治をこれに與へ中央政府はこれ等の單なる連絡機關たるに止め、中央集權的政治組織を廢止せんとする主義で、多くの無政府主義者、共產主義者の政治理想となつてゐる。一八七一年のパリ・コンミユンはかゝる理想の下に行はれたものである。

コンミンテルン（Comminern）
Communis International の縮語、共產主義インタナショナルのことで、一般には第三インタナショナルといはれてゐる。その項參照。

M

マーカンテイリズム（Mercantilism）
重商主義、十六世紀から十八世紀に亘つて西歐諸國に行はれた國家經濟政策である。國家經濟政策の基調を致富におき、海外貿易、貴金屬の吸集など國富の增進のためには國家權力を以つてこれに干涉を加へんする主義である。

マキシマリスト（Maximalist）
マキシム（極點の意）から出た語で、極端な立場を取る人のこと。又一九〇五年、ロシア革命の頃の社會革命黨內の極左分子をいふ。

マキヤベリズム（Machiavellism）
內治外交に權謀術數を用ふるをいふ。十五世紀頃イタリーの史家マキヤベリが、國家的利己主義即ち國家の利益のためには不倫理、不道德な行爲や、手段も許されねばならぬと主張したのに初る。現時では過去のものとして葬られつゝあるもの、如くである。

マクドナルド
（MacDonald, James, Ramsay. 1866—）イギリス人
スコツトランドの貧家に生る、獨學大いにつとめ、廿才のときロンドンに出で、勞働に從事した。一九〇六年初めて代議士に當選し、一九一一年にはケア・ハーディの跡を襲ふて勞働黨の首領となつた。大戰勃發の際非戰論を唱へたので非國民としていたく排斥をうけ、二度まで落選の憂き目をみたが、平和克復と共に信望將に復し、一九二二年再び院內に入り、一九二四年最初の勞働黨內閣の首相となり、一九二九年の總選擧の後、第一黨となるや、再度首相となり今日に及んでゐる。彼を一貫する思想は社會主義であるが、議會主義、言論自由主義を唱へ、暴力革命主義と獨裁主義とを極力排斥し、世界軍縮のために大いに力を致して居り、過日のロンドン會議はその第一成果である。

マタギ米
外米のこと、內外の混合米を島に與へると、島は先づ內地米のみを撰り喰ひし、外米は嫌つてまたいで行つてしまふところから出た名稱である。

マチネー（Matinee）
特別晝間興行、本來は朝、午前の意味である。

マラソン・ダンス（Marathon Dance）
競爭的に長時間踊りぬくダンスのこと。

マルクス（Marx, Karl Heinrich. 1818—1883）ドイツ人
科學的社會主義の創唱者、ボンヌ、ベルリン兩大學で哲學と法學とを研究し、後ライン新聞の主筆となつたのを始めとし、死に到るまで各地を轉々としながら筆硯を以つて革命運動に參加してゐた。
有名な「共產黨宣言」「經濟學批判」「資本論」のほか著書は頗る多い。

マルクス・デー（Marx Day）
一八一八年五月五日、カール・マルクスが生れた日を記念するためのプロレタリアの國際記念日。

マルクス・ボーイ
略してマボともいふ、マルクス主義にかぶれた青年の蔑稱で、女だとエンゲルス・ガールといふ

マルサス（Malthus, Thomas, Robert. 1766—1734）
イギリス人
僧侶の出身で、後東印度會社が設立した學校の教授になつた、一七九八年有名な「人口論」を著した。彼はスミス、リカルドと共に正統派經濟學派が持つた三大經濟學者であるといはれてゐる。

マルトフ（Martow, L. 1873—1923）ロシア人　社會民主勞働黨の元老である。レニンと共に勞働者解放闘爭同盟を組織し、プレハノフ等と共に「イスクラ」の同人となり黨の創立に協力した。黨分裂のときはメンシェビキーの指導者となり遂にソヴイエトの敵となつてドイツに移り反ソヴイエト運動をつゞけてゐた。

マン（Mann, Tom, 1856—）イギリス人　幼少の頃から炭坑で働いてゐた。一八八五年社會民主同盟に加入し、勞働組合の組織者として活躍し、殊にドック勞働者の組合組織に力をそゝぎ、一八八九年にはロンドンのドック大罷業に成功して新組合主義を樹立し、イギリスの勞働運動史上に一時代を劃した。その後各國を歴訪して社會主義運動を指導してゐたが、ロシア革命に刺戟されて赤色勞働組合の組織に努力し、又一時は武漢にあつて國民運動を援けてゐたこともある。

マン・スティール・ウーマン・セル　Man steal woman sell で貧困に陷ると男は盜みを働き、婦女子は醜業をなすといふ意味。

マンダート（Mandat）　委任狀、信任狀（外國使節が捧呈する）又入露許可證を意味する場合もある。

マンネリズム（Mannerism）　文藝作品等についてよく言はれる語で、千篇一律、不變調の意味に用ひられる。

未組織大衆　組合、政黨等に加入してゐない勞農大衆をいふ。

三峯村　東京丸ノ内一帶をいふ。この附近は三菱合資會社の所有地であるからである。

ミツドル・クラス（Middle Class）　中間階級、その項參照。

ミツドル・クラス・ムーブメント（Middle Class Movement）　中間階級運動、その項參照。

未來派　最近イタリーに起つた藝術上の新運動で「凡ゆる陳腐なものを排除して鋼鐵と自尊と活動と速力に依つて支配せらるゝ今後の時代の旋風的生活を表現す」といふのがその主張で、靜止、休息、沈默を排撃し、動亂を愛してゐる。

ミリタリズム（Militarism）　軍國主義のこと、その項參照。

ミリタント（Militant）　戰闘分子又は前衛分子のこと、前衛の項參照。

ミル（Mill, John Stuart, 1806—1873）イギリス人　ジエームス・ミルの子で、初めは熱心な功利主義者であつたが、一八三〇年頃から社會主義に深く同情をもつ樣になつた。一八四八年に著した「經濟學原理」は思想に於いても、理論に於いても過渡的な濃い色彩を有つてゐる。マルクスは彼を半ば目醒めたる經濟學者と評した。

ミルラン（Millerand, Alexandre, 1859—）フランス人　フランス社會黨の指導者で、一八八五年代議士となり專ら社會立法に努力した。一八九九年商務大臣としては入閣以來、左派の信望を失つたけれども、勞働行政には非常に功があつた。

民生主義　三民主義の項參照。

無産新聞　無産者新聞の略稱、大正十四年九月以來佐野學が主筆となつて發刊してゐたが、昭和三年十二月、共産黨と關聯あるものとして發行停止を命ぜられた。その後は「第二無産者新聞」といふものが非合法的に出版されてゐる由である。

無政府主義　個人の絶對的自由と、支配權力（政治權力）の否定の上に立つ說である。併し說く人によつてその內容を異にし、これが實現の手段についても種々の方法が論議されてゐる。

ムツソリニ（Mussolini, Benito, 1885—）イタリー人　ファシストの首領でイタリーの現首相、もとは熱心な社會主義者であつたが、大戰に際し急に主戰論を唱へ、イタリーが參戰するや、愛國主義を高唱し出征し、大戰後國狀極度の不安に陷り殆んど亡國の岐路に立つや、一九二二年敢然ファシチ團を率ひてクーデターを行ひ、ついで內閣組織の大命をうけ、獨裁官として國政を揮ひ、イタリーの隆盛を取り戻しつゝある。

茗溪派　東京高等師範學校の卒業者及びその關係者を指す。東京高師が小石川の茗荷谷に在るのでこの名がある。

メカニカル（Mechanical）
機械的と譯す。一切の事象を物質的法則によつて説明せんとするものに名づけられる。

メダカ支部
有名無實とも稱すべき程の小支部。

メーデー（May Day）
五月一日の國際的勞働祭日。一八八六年五月一日アメリカの各勞働團體が、八時間勞働制度實施運動の目的を達成せんがため、全國一齊に示威運動をなし、遂にその目的を達したので、その後勞働者階級の國際的記念日となり、勞働を休止して示威運動を行ふこと、なつた、我が國に於いても大正九年以降行はれてゐる。

メトーデ（Methode）
方法、手段。

メ　モ
メモランダムの略、覺書、備忘錄のこと。

メンシエヴイキー（Menchewiki）
語意は小數派。社會民主主義者を指す。

メンバー（Member）
會員、細胞員、黨員。

モーア（More. Sir Thomas. 1478—1535）イギリス人
空想的社會主義者として有名である。ヘンリー八世に厚い信任をうけてゐたが、英國々教に反對して死刑に處せられた。有名な「ユートピア」の著がある。

目的意識性
自然發生的や自然成長的でなく、一定の目的を達成することについて意識的なことをいふ、自然成長性の項參照。

もぐら戰術
鑛山などで行はれる勞働爭議の際の新戰術である。即ち結束して坑内ふかく籠城し、解決するまで出坑せぬのである。昭和六年五月福岡縣高雄炭坑の爭議の時に初めて行はれた。

モスコー・インタナショナル（Moscow International）
赤色勞働組合インタナショナルのこと、その項參照。

モダーニズム（Modernism）
近代主義、近代的思想。

モ　ッ　プ（Mob）
暴民、顏次馬のこと。

モツプル（露）
國際革命運動犧牲者救援會の略稱、第三インタナショナル系に屬し、國際的革命運動の犧牲者や、その家族を積極的に援助し、または何時でも世界革命に對し援助をなすことを目的としてゐる。各國に支部を置き、一極左分子と緊密な關係を結んでゐる、解放運動犧牲者救援會の項參照。

モツプル事件
解放運動犧牲者救援會の項參照。

モビリゼーション（Mobilization）
動員すること。

モメント（Moment）
機會、契機又は要素といふ意味に使用せられる。

モラトリアム（Moratorium）
支拂猶豫、支拂停止のこと、財界の危機に際し一定期間法律を以つて債務支拂の延期をなすことをいふ。

モロトフ（1890—）ロシア人
十六歳の頃からすでにボルシエヴイキーの黨員として革命運動に參加してゐた。一七年の三月革命、十月革命に大いに活躍し、以來スターリンの片腕となつて行政上に貢獻する所多く、昭和六年ルイコフが失脚するや、その跡を襲ふて全聯邦人民委員會議長の要職につき、ついで五ヶ年計畫實施監査委員會の議長を兼職するに至つた。

モンタージュ（Montage）
映畫フイルム編輯のこと。

N

ナシヨナリズム（Nationalism）
國家中心主義。

ナ　ッ　プ（Nap）
全日本無産者藝術家團體協議會の略、その項參照。

ナロドニキ（Narodniki）
民衆黨、一八七〇年代ロシアの智識階級がツアーの壓制政治に反抗して興した革命團體で、一八八一年アレ

キサンダー二世を暗殺した頃が活躍の最頂點であつた。

南京路事件
五卅事件の別稱、その項參照。

ナンセンス・ボーイ
深味なく、それでゐて常識のある、都會的なモダン・ボーイを指す、同樣にナンセンス・ガールもある。

二月事件
共產黨事件の項參照。

二個半合同運動
大衆黨、勞農黨及び社民黨の一部の合同運動のこと、三黨の合同問題は昭和六年に入つて殊に喧ましくなつたけれども、社民黨のみは幹部の大多數がこれに贊成せず、その一部が動いて居るのでこの名が生れた。

日常鬪爭
經濟鬪爭のこと。

二重組合主義
二重團體主義、又は「外からの攻撃」ともいひ、右翼勞働組合内の急進左翼分子が脫退して、對立的な組合を作り、外から母胎を攻撃して、その大衆を獲得しようとする左翼派の戰術である。我が國でも第三インタナショナルの成立や、福本イズムの刺戟をうけ、一時は左翼の唯一の戰術と思はれてゐたが、近時各國ともみな失敗に歸し、今日では「内からの攻撃」の方が効果的であるとされてゐる。

二重賃銀制度
ボーナス制度など、もいふ、一定の賃銀を定めておき標準時間以上働いたときに割增賃銀を與へる（歩をつける）制度である、これによると勞賃の切下げが容易に出來るので資本家側には割合に有利な制度である。

二・二〇事件
第三次共產黨事件のこと、共產黨事件の項參照。

ニヒリズム（Nihilism）
虚無主義。ロシア帝政時代にツアーの壓制に抗して與つた思想で、何物をも恐れず、信ぜず、絶對の自由をモットーとし、一時はロシアの上下を震憾せしめた。

日本共產黨
第三インタナショナル日本支部としての秘密結社であつて、第一次の組織は大正十一年十一月頃堺利彦、山川均、近藤榮藏、佐野學、猪俣津南雄、高津正道、田所輝明、中曾根源和、渡邊政之輔、荒畑勝三、德田球

一等の社會主義者等が組織したものであるが、翌十二年五月、早大の軍事研究團と文化同盟との衝突から發覺し、十二年六月三十餘名が治安警察法違反として檢擧せられ、こゝに第一次日本共產黨が瓦解した。大正十三年に入り再組織運動起り、潛行運動をつゞけ遂に大正十五年十二月、山形縣五色温泉に於いて極秘裡に創立大會を開き、立黨宣言、綱領、規約を決議し全國的に多數の黨員を獲得するに至つたが、昭和三年三月十五日全國一齊の大檢擧により第二次日本共產黨は潰滅した、その後これらの檢擧に洩れたものは更らに黨の再建、同志の糾合を講策し、潛行運動を初めたが昭和四年四月十六日、殘黨の一齊檢擧により齏餅に歸した。併し尚ほこれら數次の峻烈な檢擧から逃れた少數幹部間には昭和四年五月、早くも三度日本共產黨の再建を企て、六月には中央部を組織し、五年一月十四日和歌山縣二里ヶ濱で擴大中央委員會を開き、七月その綱領を定め、こゝに日本共產黨が正式に確立した。これより先黨の結成をみるや、一擧に黨を擴大せんとし、五年二月突如大阪で行動隊のビラ撒きをトップに積極的運動に出た。この行動隊の檢擧から大陰謀發覺し爾來一年餘に亘つて大檢擧をつゞけた結果、全國に於いて千五百名を檢擧し、うち四百六十名が起訴された。三・一五事件以來起訴されたもの、累計千三百二十五名に達する。

日本フエビアン協會
大正十三年安部磯雄、石川三四郎氏等が大同團結して社會思想の普及、宣傳並びにその主義實行の諸施設を檢討し、社會主義の合理化を圖らんとして設立したものである。フエビアン協會の項參照。

日本プロレタリヤ藝術團體協議會
日本プロレタリア文藝聯盟として、大正十四年十二月組織された無產者藝術運動團體で、黎明期の無產階級文化の樹立、支配階級文化との鬪爭を標榜して立つたが、内部のアナ系、ボル系との思想的對立となり、遂にプロレタリア文學理論は、共產主義的立場に於いてのみ徹底するとの主張が勝利を占めて、日本プロレタリア藝術聯盟と改稱され、昭和三年四月前衛藝術同盟と合併して、全日本無產者藝術聯盟を組織した。

日本勞働組合全國協議會

略して全協といひ、我が國最左翼の勞働組合である。

日本勞働組合評議會が共產黨と關聯ありとの理由の下に、昭和三年四月解散を命ぜられたので、同年十二月「一般左翼團體の全國的鬪爭主體たる基礎團體を結成する」といふ計畫の下に「全國組合代表者會議」を開催し、現在の全協を組織した、組合員は五千人とも、一萬人ともいはれてゐるが正確な所は判らない。

日本勞働クラブ

日本海員組合の提唱によつて、昭和六年六月二十五日に成立した右翼及び中間派の主要勞働團體の聯盟であつて、加盟してゐる主な團體は

一、右翼—日本勞働總同盟、關東勞働總同盟、海軍勞働組合聯盟、海員協會、日本海員組合、官業勞働總同盟、造船聯盟

一、中間—全國勞働組合聯盟、勞働組合總聯合、日本勞働總聯盟

組合員二十五萬人と註せられ、その指導精神は共產主義、無政府主義を排し、穩健な勞働組合主義をとつてゐる。將來の右翼大結成の前提として注目されてゐる。

二枚羽織

二つ以上の名譽職を兼ねてゐるものに對する一種の嘲稱、普通に一人で代議士と市會議員、府縣會議員と市會議員とを兼ねてゐる樣な人を指す。

ネオ・マルサス主義

新マルサス主義のこと、マルサス主義の項參照

罷業

組合に參加しない者、ストライキに參加せぬ者、又變節漢、裏切者のこと。罵は倒れんとする家を去るの習性をもつて居るので起つた言葉。

罷工場

勞働組合のない工場。

ネップ (Nep)

New Economic Policy の頭文字をとつたもので一九二一年からロシアで行はれてゐる新經濟政策のこと。その項參照。

ネップ・マン (露)

ロシアの資本家。勞働せずに暮してゐるもの、ネップから作られた言葉で、新經濟政策の結果生じた成金のことであるが、近時は重稅と政府事業の統制化とにより、漸次消滅の途をたどつてゐるとのことである。

ノスケ (Noske, Gustav 1868—) ドイツ人

一九一八年ドイツ革命後假政府に軍部大臣として入閣し、反對派に對し彈壓政策をとり、一九一九年ベルリンを中心にスパルタカス團の反亂起るや軍隊、憲兵を指揮してリープクネヒト、ルクセンブルグ等の首魁を殺害した、め、共產黨員から仇敵視されてゐた。

ノーベル賞 (Nobel Prize)

スエーデン人アルフレッド・バーナード・ノーベル(1833—1896)は火藥、爆發物の發見等で得た巨萬の富を、死後全世界の學術奬勵金に當てることに遺言したので、毎年彼の遺產千五百萬磅の利子を、世界人類の平和のために貢獻した人々に表彰金として頒つことになつた。

O

オーエン (Owen, Robert 1771—1858) イギリス人

有名な空想的社會主義者。もとはロンドンで奉公生活をしてゐたが、後紡績事業を初めて成功し巨富を得た、一八一七年頃から社會主義者となり、一八二五年には巨額の私財を投じて模範的自治共產村を作り、大規模な社會主義的實驗をなし、他方歐米各地に遊說して社會改革の必要を說いた。

オー・ケー (O·K)

Okey の略で、Okey はアメリカの土語である。ウイルソンは書類にサインをして側にこの記號をよく書きそへたといふ、又All Correct の頭文字をとりO·Kにおき換へたものだといふ人もある、何れにしても從來のオーライ(All Right)に同じで「宜敷い」といふこと。

大御所

長老、總裁、勢力家、權威者、大家等の意。德川家康が秀忠に將軍職を讓り駿府に隱居した、世人これを大御所と尊稱したに初る。

オスボーン判決

英國勞働組合が、政治運動に組合員の會費を流用してゐたのに對して起つた裁判事件の判決である。

英國勞働黨には、勞働組合が團體加入してゐたが、永く政治意識が放棄されてゐた結果、組合員のうちには

自由黨に投票したり、又その黨員になつたりするものもあつた、處が自由黨所屬の組合員は、自分等の納めた會費が勞働黨のために使用されてゐるのに不滿を抱き、一九〇九年鐵道從業員組合の一員、オスボーンがこれを告發し、その裁判の結果オスボーンは勝つたが、一九一三年組合法改正に際し、勞働黨は奮鬪の末この判決を破棄せしめた。

王正廷

浙江の人、日本に留學しついでアメリカのエール大學に學んだ、第一革命の後南方の代表者の一人となつて南北和議に參加した、一九年パリの講和會議には、中國全權として顧維均と共に大いに活躍し、二二年山東引渡しには全權として日支交涉の衝に當り、ついで外交總長となり、露支國交の恢復に力をいたし、二八年國民政府の外交部長となり現在に及んでゐる。

小樽事件

大正十四年十月、小樽高等商業學校で擧行された野外演習の際、軍事教官鈴木少佐が興へた想定が世の物議を起した事件である。この事件のため反軍教熱あがり一時は大變不評判であつた。

横斷組合

工場又は地域の別なく橫斷的に、職業別又は產業別に組織する勞働組合をいふ。橫斷組合は資本家階級に對する對抗力つよく、從つて現時の戰鬪的な勞働組合は殆んど總て橫斷組合である。

汪兆銘

廣東の人、我が國の中央大學の出身で、在日中から革命黨に加盟しており、辛亥革命の元勳である。第二革命後はフランスに亡命し、一九一六年に歸國して勞農大衆を國民黨に結びつけ、國民黨を改革して長く廣東政府の主席執行委員となり左派を代表してゐた。孫文の死後は國民政府を改組して黨の基礎を確立し、國民革命の進展に非常な努力を致した。二六年蔣介石がクーデターを演じたのでフランスに去り、二七年一時武漢政府の主席として活動してゐたが間もなく勞働者と別れ歐洲に赴いた。昭和六年五月二十八日、孫科、唐紹儀等の反蔣巨頭連を糾合して、所謂廣東新政府を正式に組織し蔣介石に下野勸告をした。中國人の間に「不思議な程の聲望」があるといはれてゐる。

オートクラシー（Autocracy）

デモクラシーに對する政治形態で、專制主義のこと、即ち特定の專橫者による獨裁政治のこと。

オナー・システム（Honour System）

無監視制。試驗官をおかない試驗。

オーバラツプ（Overlap）

二重撮影、映畫によく用ひられる。

オー・ピー（O·P）

Organization, Propaganda の略で、組織宣傳のこと。

オブライエン（O'Brien, James Bronterre, 1805—1864）イギリス人

初め法律家を志してロンドンに在つたが、間もなくチヤーチスト運動に參加した、數多いチヤーチストの中にあつて殊に學殖ふかく、文筆を以つて運動を援け、チヤーチストの先生と呼ばれてゐた。チヤーチスト運動の末期に至つてオーコンナーと意見を異にしたが、その理想は枉げることなく、死に至るまで熱心に活動をつゞけた。

オブラート演說

人に敎へられた思想を鵜呑みにしてそのまゝを演說すること。

オープン・ショップ（Open Shop）

クローズト・ショップの反對で、工場の勞働者が組合員でない工場、又は組合員と然らざるものとが混合してゐる工場である。故に組合員のみを雇傭するといふ組合との團體契約のない工場である。

大部屋

劇團の幹部を除く一般の名稱である、樂屋では一つの大きな部屋で、大勢が扮裝したりする所からこの名が出來たものである。その待遇がよくないといふので最近團結して待遇改善を叫び世の耳目を聳てゐる。

オポジシヨン（Opposition）

反對、對抗の意。

オポチユニズム（Opportunism）

日和見主義、または機會主義と譯してゐる。日和見主義の項參照。

親方

ボスの項參照。

おらが內閣

田中首相は自分のことを「おらが」といつてゐたので、田中內閣のことをおらが內閣といひ、首相官邸のこと

をその樣式から見てカフエー・オラガ等と呼ぶものがある。

オルガナイザー（Organizer）
組織者。未組織の大衆を組織立て、薄弱な團體の組織を充實し、强固にし、統制のない運動を組織化するものをいふ。左翼運動に於いてはオルガナイザーの任務が最も困難、且つ枢要なものとされており、概して幹部自らがこれに當つてゐる。

オルグ
オルガナイザーの略。

オール・スター・キヤスト（All-Star-Cast）
映畫用語で、人氣俳優總出演の意。

温情主義
家族間の情愛を勞資間にあてはめんとする主義、即ち お互に情誼を重んじ、資本家は勞働者を勞り、勞働者は資本家を懐ふて爭議とか、組合とか、勞働條件の確立とかいふ樣な水臭いやり方を斥け、萬事温情を旨としてゆかうといふ主義である。

オン・パレード（On Parade）
人目を惹くやうな行列のこと。

P

パリアメンタリズム（Parliamentarism）
議會主義。勞働者の利害を代表する代議士を選出して、合法的手段によつて漸次勞働者階級の利益を增進せんとする主義。

パリ・インタナショナル（Paris International）
第二インタナショナルの別稱である、創立大會がパリで擧行されたのでこの名がある。その項參照。

パリ・コムミユーン（Paris Commun）
一八七一年三月十八日から同年五月二十七日に亘つてフランスのパリに起つた内亂及びその間の勞働者政府―世界最初のもの―を併稱する。

パルチザン（Partisan）
ソヴイエト・ロシアが反革命軍や、外國の軍隊を擊破するために編成した決死隊のことであるが。後轉じて

弘く一般に暴力團の意に用ひられてゐる。

ハン
中華民國の組合、結社の事。

バンカースト（Pankhurst, Christabel Sylvia, 1880―）
イギリス人
有名な女權擴張論者で且つ急進的な共産主義者、一九〇三年直接行動をとつて暴行し、ために投獄されたとき斷食同盟を以つて對抗した、これが斷食同盟の起りである、彼女の母も有名な女權擴張論者であつた。

ピー・エヌ（P・N）
無產者新聞、Proletarian News の頭文字をとつたもの。

ピオニール（露）
勞働少年隊、赤色少年團。他日黨員、組合員として必要な種々の訓練をさづけるのである。我が國では昭和六年一月、大阪で最初の勞働少年隊が組織され日本勞働組合總聯合に屬してゐる。

ピオネル・オツリヤード（露）
少年共產黨員、十五才以下の者は青年黨員となる前提として各種の訓練をうける。

ピケ
ピケッチングの略稱。

ピケツチング（Picketing）
ストライキの時に罷業破りが仕事に入込まんとするを監視又は防止し、他方罷業參加の勸誘をなすこと。

ピース・ウオーク（Piece-work）
請負仕事、勞働賃銀の出來高拂制。

ピー・デイー（P・D）
無產者獨裁、Proletarian Dictatorship の頭文字をとつたもの、プロレタリア獨裁の項參照。

ピー・ピー（P・P）
Proletarian-Peasant Party の頭文字で勞農黨の略稱。

プチブル
プチブルジョアの略。

プチ・ブルジヨア（Petit Bourgeois）
小ブルジョア、中間階級のこと。

白丁（ピヤクチヤン）（鮮）
朝鮮社會の最下層民である。衡平運動の項參照。

ピヤタレチカ（露）
五ヶ年計畫のこと、その項參照。

ピヤチスネーフカ（露）

ソヴイエト・ロシアで一九二九年十月から初めた一週五日制、即ち四日働き一日休むといふ新しい暦制、連續生産制の項參照。

プラウダ（露）
諸義は眞理の意、モスコーで發行されてゐる共産黨（B・K・P）の機關新聞でロシア三大新聞の一つ、一九二一年の創刊である。

プラットフォーム（Platform）
團體の政策、政綱のこと、綱領のほかに掲げる諸政策をいふ。

プルードン（Proudhon, Pierre Joseph 1809—1865）
フランス人
無政府主義者の祖と稱せられ、「財産は盜品なり」として經濟的革命を主張し、個人的自由を高唱した。

プレシヂユーム（露）
常任中央執行委員會のこと、ロシアのU・S・S・Rの大會は中央執行委員を任命し、中央執行委員會は常任中央執行委員（常任理事ともいふ）を選任する。法文上はU・S・S・R大會が最高機關であり、その閉會中は中央執行委員會が、更らにその閉會中は常任中央執行委員會が最高機關といふことになつて居るが、前二者は開會されること度少なく期間も短いので、實權はこの常任中央執行委員會にある。

プレハノフ（Plechanow, Gregory Valentinovitch. 1857—1918）ロシア人
世界的に傑出したマルクス主義者であり、ロシアではマルクス主義の父と呼ばれてゐた。夙に革命運動に投じロシア社會民主黨を組織したが、一九〇三年の黨分裂後はメンシェヴイキーの指導者となつた。

プレヌム（露）
評議會、役員會、擴大中央委員會のこと。

プロキノ
日本プロレタリア映畫同盟、主として十六ミリ映畫で、主義の宣傳に努めてゐる、「進め！」「戰旗」「土地」「メーデー實寫」「耕作」等の作品がある。

プログラム（Programm）
綱領のこと。

プロット
左翼劇場、新築地劇團等を中心とする日本プロレタリア劇場同盟の略稱。

プロテスト（Protest）
抗議や異議を申立てること。

プロ・ピー・シー（プロB・C）
産兒制限無産者同盟の略稱で、昭和六年五月大阪の無産婦人等が、階級的産兒制限運動を起したのが初りで、全無産階級の生活擁護の一運動として大衆的に活動すること、なつた。本部を東京においてゐる。

プロフイル（Profile）
横顏、側面、輪廓。

プロフインテルン（プロフインタン）（Profintern）
Professional Internationalの縮語で、赤色勞働組合インタナショナル（Red International of Lobour Unions）のこと。その項參照。

プロポリカルト（Propolicult）
Proletarian Political Cultureの縮語で無產者政治教育のこと。

プロレタリア（Proletariat）
自ら生產機關を所有せず、生活のために自己の勞働力そのものを賣却するより外に、生活の途なき賃銀勞働者の階級である。

プロレタリア獨裁
資本主義社會から共產主義社會への過渡期には、プロレタリアの獨裁が行はれるとマルクスはいつた。レニンによればプロレタリアの獨裁とは共產主義社會實現のための一時的なプロレタリアの專政支配を意味すると。

プロレツトカルト（Proletcult）
Proletarian Cultureの縮語で、無產者教育のこと、更らに縮めてプロカルト（Procult）ともいふ。

ポリカルト（Policult）
Political Cultureの縮語で、政治教育のこと。

ポリシー（Policy）
政策、政略のこと。

ポリバー（露）
鬪爭のこと。

R

ライト・ウイング（Right-Wing）
右翼、右翼分子、レフト・ウイングの項參照。

ラサール（Lassalle, Ferdinand, 1825—1864）ドイツ人
伯林大學で哲學を專攻し、ヘーゲル學派に屬してゐた、一八四五年頃から勞働運動に從ひ、一八六三年全ドイツ勞働者協會を組織して會長となりドイツ社會民主黨の礎をきづき。漸次工業地帶に勢力を扶植し、遂にビスマルクもこれが懷柔に努めた。學究的な而も熱情的な實行家であつたが愛人のことで一八六四年の夏、ゼネバ郊外で決鬪をして重傷し、三日後死去した。

ラシヨナリズム（Rationalism）
合理主義。純然たる理性の立場から哲學宗教などを解釋する主義をいふ。

ラツテイング（Ratting）
サボタージュの一種で、ストライキに參加しないもの や非組合員の衣服、用具等に損傷を加へること。

ラット（Rat）
鼠、その項參照。

ラット工場
鼠工場のこと、その項參照。

ラヂイカリズム（Radicalism）
急進主義、過激主義、この主義を奉ずるものをラヂイカリスト（Radicalist）といふ。

ラファルグ（Lafargue, Paul, 1842—1911）フランス人
學生時代からすでに社會主義運動に參加し、一八六九年にマルクスの次女ローラと結婚した。科學者であり同時に又社會主義者であつて、フランスに於けるマルクス主義の普及宣傳に、貢獻する所が大であつた。

ラブコル（露）
勞働通信の略稱。

ランク・アンド・ファイル運動
ランク・アンド・ファイルとは本來兵卒の意であるが、平會員、平部員、一般黨員等の意に用ひられてゐる。組合又は政黨等に於いて幹部が官僚的になつたり、又は妥協的になつたりした場合、これに對し一般組合員、

黨員が起す反抗運動をランク・アンド・ファイル運動といふ。例へば幹部の統制をうけず同盟罷業を敢行するが如きをいふ。

リアリズム（Realism）
現實主義、その項參照

釐金稅（中）
中華民國內で行はれてゐる通過貨物に課する一種の關稅である。

リーフレット（Leaflet）
一枚刷の宣傳用文書のこと。

李大釗
直隸の人、陳獨秀と共に中國共產黨の元老であつた。早稻田大學文科の出身である。蔡元培が北京大學の總長となるや招かれて教授となり、中國文學革命の上に大勳を樹てた、一九二六年張作霖軍の入京と共にロシア大使館に避難したが、翌年四月奉天軍がロシア大使館兵營の强制捜索を行ふや捕へられて銃殺された時に四十歲、天才的の事務家で理論家としてよりも實務家として秀で專ら內部にあつて組織事務を司つてゐた。

率勢米價
米價指數と一般物價指數とを比較すると米が割高に在るのを常例としてゐる。そこで米價の基準を定めるに當つて、明治三十三年以降各年の前年度までの一般物價指數總平均に對する割合を米價率とし、これを基礎として當該年度の趨勢價を直線式最小自乘法で算出する。かくして得た米價率の趨勢値を以つて、當該年度初めの十一月の一般物價指數總平均に乘じ、これに又基礎年月の米價を乘じたものを率勢米價といひ、この率勢米價を中心として米價の基準を設けんとするのである。

リープクネヒト（Liebknecht, Karl August Ferdinand, 1871—1919）ドイツ人
社會民主黨の父といはれるウイルヘルム・リープクネヒトの子、辯護士出身である。熱心な反軍國主義運動者で、一九一二年社會民主黨の代議士として議會に入り、最急進的な鬪士として重きをなした。大戰の勃發するや唯一人戰時豫算に反對し、一九一八年十月革命が起つた時は、その徹底的遂行により、無產者の獨裁と、その解放とを全うせんとして、スパルタカス團を率いて蹶起したが、一敗地に塗れ一九年の一月、ローザと共に反對派ノスケのために虐殺された。

リベラリズム（Liberalism）
自由主義、最大可能の限度内で自由を實現せんとする社會思想をいふ。

リヤザノフ（Riazanov, D. B. 1870—）ロシア人
十五才頃から社會運動に參加し、また社會科學の研究に耽つた。一九〇五年の革命にはオデッサ、ペテルスブルグで活躍したが遂に失敗して外國に亡命し、獨・英各國で研究に沒頭してゐた。一七年の三月革命の際に歸國してボルシェヴィズムの宣傳に大いにつとめた、二〇年勞農政府がモスコーにマルクス・エンゲルス研究所を建設するやその所長となり、文獻の蒐集、內容の充實に盡した。一九三一年二月の委員會に於いて反ソヴィエト同盟運動を支持援助したとの理由で、除名處分をうけ、アドラッキーが後任所長に任命された。

閻（リヤン）**瑭**（ハン）
朝鮮では王は別として兩班、中人、常民、賤民の四階級がある。兩班は特權階級ともいふ可く、名門にして家系正しく、文武の大官を世襲してゐる。中人は門地、教育兩班につき常民とは農工商を業とするもの、賤民は最下層の階級に屬するものである。

綠色組合
ドイツ、イタリーのカトリック教徒の勞働組合。

廖仲愷
廣東の人、法政大學の出身である、汪兆銘等と共に孫文を輔け國民黨の發展に努力した、第一革命後廣東都督府の參議となり、第二革命後我が國に亡命してゐた、二三年ヨッフェとひそかに協議して國民黨の組織の改革を企て、勞農ロシヤとの接近聯合をはかり、終に一九二五年革命的な廣東政府の樹立に成功したが、反動派の者から敵視さるゝこと甚しく、廣東政府樹立の翌月反對派のものに暗殺された。

理論鬪爭
勞働運動上では勞働者階級の意識を高めるために行ふ一切の思想、運動に對する批判的檢討の議論をいふ。

リング・リーダー（Ringleader）
謀反人、暴動、革命等の張本人。

ルイコフ（Rykov, Alexis I. 1881—）ロシア人
農夫の子で一九〇〇年頃から革命運動に關係し、一九〇五年にはレニンの推擧で中央委員となり、一九一七年の革命には大いに活躍し、一八年には政府の內務委

員長となり、二一年人民委員會の副議長、二四年レニンの死後はその跡を襲ふて人民委員會の議長となつた。有名な新經濟政策の主張者であつてルイコフの新經濟政策といはれてゐる位である。後ブハーリン等と共に右翼ブロックを形成し、スターリンの農民政策に反對してゐたが、一九三一年遂に失脚するに至つた。

ルクセンブルグ（Luxemburg, Rosa. 1871—1919）
ドイツ人
ドイツ社會民主黨の左翼指導者で、戰鬪的な男まさりの女であつた。露領ポーランドのワルソーに生れたが結婚によりドイツの國籍を得た。十八才の頃からポーランドの獨立運動に參加してゐたが、後無產階級の解放運動に從ひ極左派に屬してベルンシュタインやヒルファーディングの修正派を痛擊した。大戰中は戰爭反對運動を指導し、一七年革命の勃發に際しては、その徹底的な遂行を企圖し、スパルタカス團を率いて種々策動する所あつたが、一九一九年一月リープクネヒトと共に捕へられ、護送の途中殺害された。その著「資本蓄積論」はマルクス主義の名著とされてゐる。

ルナチャルスキー（Lunacharsky, A. V. 1876—）
ロシア人
ロシア共產黨の鬪士で現に人民委員である、共產黨の機關誌「農婦」（Krestyanskaya）を發刊してゐる。

ルンペン
ルンペン・プロレタリアートの略。

ルンペン・インテリゲンチア
收入不定の放浪的智識階級の意。

ルンペン・プロレタリアート（Lumpenproletariat）
浮浪人、乞食、即ち勞働する意志も、能力もない貧民群である。近時は財界の不況と智識階級、中間階級のルンペン化と相俟つて益々增大の傾向がある。

レヴイジヨニスト（Revisionist）
修正派社會主義者、修正派社會主義の項參照。

レヂデント（Resident）
セツルメントに住み込んで指導する者。

レッド・プレス（Red Press）
ロシアの赤色新聞のこと。

レニニズム（Leninism）
レニン主義。レニンによつて帝國主義時代に適應する樣に發展されたマルクス主義で、無產者革命、無產階級獨裁政治の理論と戰術とである。

レニン (Lenin, Nikolai. 1870—1924) ロシア人本名はウラジミル・イリッチ・ウリアノフ (Wladimir Iljitsch Uljanov) といふ。貴族の稱號を許されてゐる地方の名望家に生れた、兄はアレキサンダー三世暗殺事件に連坐して死刑になつた。

カザン大學に學んだが社會主義者の故を以つて放校され、ペテルスブルグ大學の法科を卒業した、在學中から革命運動に深く關係してゐた、爾來官憲の捕追と亡命とをくりかへしながら、文書により又は實際運動の指導者として革命の速成に努め、一七年三月革命起るや歸國して無條件講和をとなへたが、却つて政府のために壓迫されフインランドに逃れ機の到るを待つてゐた、十月初め「政權をソヴイエトに」の標語をかゝげて政府に肉迫し、十一月革命に成功した、ついで人民委員會議長に就任し翌年ドイツと講和した。一九年三月、第三インタナショナルを創立し、二一年新經濟政策を施行し、ソヴイエト・ロシヤ建設のために努力してゐたが、二四年一月腦溢血のため死去した、彼は理論においても實踐の方面においても共に傑出した指導者であつた、その著書も甚だ多く各國語に譯されてゐる。

レニン研究所

一九二六年モスコーに創立されたレニン主義の研究所である。圖書館、文庫、陳列場の三部からなつてゐる。

レニン・コーナー (Lenin Corner)

レニン記念室、ロシアの各學校に設けられてある。

レフアレンダム (Referendum)

一般投票と譯されてゐる、國民の直接投票によつて國民の意見を發表させるのである。

勞働組合でストライキ等の場合、ストライキをやるかやらぬかを全員に投票せしめて、これを決定するのもレフアレンダムといつてゐる。

レフト

レフト・ウイングの略。

レフト・ウイング Left-Wing

左翼。もとドイツの國會で保守派が右に、急進派が左に席を占めることになつてゐたのがこの語の起りで、左翼とは急進分子を意味する樣になり、更らに勞働運動では戰鬪的革命的な分子を左翼といひ、漸進的改良主義的な分子を右翼といふ樣になつた。

レーボラ (Labourer)

勞働者、人夫のこと。

レボリユーシヨン (Revolution)

革命のこと。

レポ

レポーターの略で、傳令、又は情報通信員のこと。

連續生產制

一九二九年九月ソヴイエト・ロシヤが、所謂五ヶ年計劃促進のため生產能率の增進を目的として制定した制度で、それに依ると

一、工場は一年中休みなしに作業させる

(但し一年を三百六十日とし殘りの五日は革命記念日として一般に休みとしてある)

二、職工は四日働いて一日休ませる。即ち一週五日制である。その代り日曜、祭日などはない。

有制度實施以來工場の能率は著しく昇ると共に、失業者も激減したが、結果に於いては却つて仕事の分量がふへ從業員の過勞を招き、新制度創定の趣旨には副はなかつた樣に傳へられてゐる。

ロシア革命

一、一九〇五年、日露戰爭の負擔と、敗北に激した民衆が叛亂を起し、帝制を倒壞せんとしたが失敗に終つた。

二、つぎは一九一七年三月の革命である、二月露都に起つた食糧暴動に端を發し、ついで勞働者の大罷工となり、兵士これに參加するに及んで帝制が覆り、社會革命黨の領袖ケレンスキーを首班とする聯立政府が樹てられた。

三、は一九一七年十一月の革命である、十一月七日第二回全露ソヴイエト大會の開催を期して「戰爭反對!」「土地の分與!」「一切の政權をソヴイエトに!」を標語として、勞働者と軍隊が立つに及び政府は倒れ、ボルシエヴイキーが勝利を收め間もなくプロレタリアの獨裁が行はれた。

二一年には新經濟政策に移り、二二年にはソヴイエト聯邦(U・S・S・R)が組織され、二五年には新々經濟政策に入つた。二七年秋には反對派のトロツキー、ジノヴイエフ、カメネフ等の除名問題起り、二九年には農民問題に關聯して更にブハーリンの失脚を見た。三〇年には產業黨事件勃發して世の耳目をそばだて、本年に入つてからも諸種の內紛があり、革命の完成は尙遼

遠の感が深いが、將來假にスターリン一派の中心人物が失脚することがあるとしても、革命そのものが逆轉する樣なことはなからうと想像されてゐる。

ロシア革命デー

十一月七日である、即ち一九一七年十一月七日にロシアのボルシェビキーの革命が成立したので、この日を記念し左翼派が諸種の宣傳をする。

ロシア共産黨

一九一七年の革命後ロシア社會民主黨はロシア共産黨（R・K・P）と改稱し、ついで社會主義ソヴイエト共和國聯邦（U・S・S・R）が成立すると共に各聯邦の共産黨は合同して黨を全聯邦共産黨（B・K・P）と改稱した。プラウダ紙はこの黨の機關紙である。

現在では全人口約一億五千萬人のうち、その黨員は約二百萬人で、この中の約七十五萬が實際に活動しており、國家と社會の重要機關を獨占してゐる。而して七十一人の委員と五十人の中央委員とが全國の政治、行政の總てを司つてゐる。この最高の地位に立つてゐるものは共産黨執行委員會書記長スターリン（Stalin）である。新經濟政策の實施以來屢々黨内に波瀾起り、内紛絶えないが、黨の勢力は依然スターリン一派の中間派が握つてゐる。

ロックアウト（Lock-out）

工場閉鎖。勞資間に紛爭が生じた場合、相手方を脅威するために作業を停止することがあるが、勞働者側からこれを宣言した場合はストライキ又はサボタージとなり、資本家側からの場合はロック・アウトとなる。資本家側にはストライキの際ロック・アウトを以つて對戰するか、罷業破りを使用して作業を繼續してゆくかの二途がある。

勞働科學

勞働の條件と勞働の効果、更らに進んでは最上最善の勞働方法を研究する學問である。大正十年七月岡山縣倉敷町に設立された倉敷勞働科學研究所は、これが研究所である

勞働價値說

マルクス經濟學における價値學說で、勞働者のみが物の價値を創り出すものであるから、商品の價値はその生産に費された勞働の量に依つて決定せられなければならないとし、而してこの勞働力も亦一個の商品であ

るから勞働力の價値は、勞働者が勞働力を再生産するに必要な生活資料の價値に相當するものでなければならぬ。即ち勞働者の生存維持に必要な生活資料の價値が勞働力の價値となる、然るに資本家は勞働者から買取つた勞働力を以つて、その支拂つた賃銀以上の價値を有する生産物を作り出す。例へば一日六時間働けば勞働者一日の生活費を得るに十分であるのに事業主は勞働者に十二時間勞働させて、差引六時間の無報酬奉公を强ひてゐる、その結果事業主は勞働による總價値の半分を壟斷することゝなる、剩餘價値の源泉は實にこゝにあるといふのである。

勞働カルテル

勞働組合に對抗して勞働力の需要を調節し、資本家の利益を擁護せんがために案出せられた企業家の團結制度である、加盟企業家は賃銀の協定をしておいて、他日その使用勞働者より賃銀增額、時間短縮の要求、罷業の發生等の場合にはカルテルの中央本部に報告し、一致してこれが阻止鎭壓を講ずるのである。

勞働貴族

勞働者階級中に於いて、一般無自覺の勞働者の費用によつて生活してゐる特權層をいふ。

勞働組合主義

資本主義經濟制度の範圍内で、勞働條件を出來るだけ改善せんとする主義で、資本主義經濟制度そのもの、變革を目的としてゐない、略して組合主義ともいふ。

勞働權

單に勞働する自由といふのみでなく、勞働の能力があり、その意思を有してゐながら仕事のないとき、即ち失業してゐるときには、勞働してゐた場合と同一の生活費を與へよといふ要求である。これが失業保險といふ形式で各無産政黨や、勞働組合の主張又は要求となつて居る。

勞働祭

メーデーのこと。その項參照。

勞働者管理工場

勞働者が勞働に從事すると共に、事業の實際經營に任ずるものをいふ、大戰後イタリーに續發し、注目を惹くに至つた。我が國では大正十四年東京の有隣印刷會社に行はれたものが初であらう、近時は財界不況の副産物として漸次增加の傾がある。

勞働デー
メーデーの米國稱である。

勞働ブローカー
勞資の間に介在して、勞働者の利害を資本家に賣りつけて私利をはかるもの、所謂組合ゴロのこと。

勞働保險
勞働者又はこれと社會上の境遇を等しくする者の、生活の安定を保障せんとする保險で、社會政策上の目的に出づるもので廣義には
一、疾病保險
二、傷害保險
三、廢疾保險
四、失業保險
五、養老保險
等がある、我が國では疾病、負傷、死亡、分娩の四ッの事故について行はれる健康保險法が實施されてゐる、

勞兵會
一九一七年のロシア革命の當時活躍した赤衛軍の前身。

ロボツト (Robot)
人造人間、無貨の勞働者、悪い意味では蓄音器式人間、デクノ棒、繰り人形等の意、チエツク人、チヤペツクの脚本「ロツサムのロボット」—略してR・U・R—が一九二〇年に公にされてから初まつた語。

ローマンテイシズ (Romanticism)
浪漫主義、形式的、古典尊重的な傳統に反抗し、個性尊重、因襲打破を主張し、主觀又は情熱を重んじ、自由奔放にして、空想、幽奇的傾向のある主張。

S

最惠國條款
機會均等を主義とする條約。締盟國の一方がその相手國に對し、第三國に與へつゝある權利、利益及び將來

與ふべき權利、利益を與ふることを約定する條款である。十四・五世紀頃の條約中にも既に現れてゐるが、純粹の意味の最惠國條款は、十七世紀の終り頃に結ばれた諸條約中に見出される。

蔡元培
浙江の人、儒者の家に生れ、進士の出身である、國民黨の元老であり、教育界の元勳である。一九〇〇年頃から民主革命の宣傳を行ひ、のち日獨に留學してゐたが、臨時政府成るに及び教育總長となり、ついで唐紹儀内閣の教育總長となる、一九一六年來北京大學總長となり陳獨秀、胡適、李大釗等の新進を招聘し文化の大衆化をはかり、近代思想の普及に非常な功績をあげ、北京大學をして遂に中國における學界、政界の光明たるにいたらしめた。五院制實施さるゝに及び監察院々長となつた。彼が中國文學革命の上に致した事績については特筆大書する價値がある。

最小抵抗線
勞働運動上用ひられるときは勞働者の要求を資本家が承認するであらうと認めらるゝ、最少限度のこと。

最低賃銀法
勞働賃銀の最低額を規定しておいて、勞働者の極端な貧窮化を救濟し、一面勞資間の賃銀闘爭を緩和せんとする社會政策的立法である。

細胞
本來は生物學上の用語で生命の源泉たる動植物の構成單位をいふ。
思想運動においては黨員又は組合員が五人とか、十人とかの一定數を以つて、工場内又はある地域に於いて組織してゐるものである。黨又は組合の構成單位たるべきもので、黨本部との通信連絡、大衆への宣傳、煽動等に當るのである。

細胞組織
第三インタナショナルの綱領に基づいて工夫された軍隊的組織方法である。生物學の細胞の名に因んでつけられたものである。

再掠奪
資本家の資本、財産は勞働者の勞働力を搾取、掠奪したもの、集積であるから、勞働者がこれをとるのは自己

の物を單に取り戻すに過ぎないといふのである。

舎音（サオン）　朝鮮の地主と小作人との間に介在する土地の差配人。

搾取團　利潤第一主義をとり、ひたすら搾取にふけり、從業員の立場を少しも顧慮せぬ事業家をいふ。アジ・ビラ等にはよく用ひられてゐる。

サボ　サボタージュの略。

サボタージュ（Sabotage）　怠業と譯してゐる。同盟罷工と共に勞働者の有力な闘爭方法である。サボ（木靴）を拿いた人、のろまな人の意から來たものである、カカンニの項參照。

本來は工場、機械等に故意に損傷を加へて生產過程を混亂に陷れたり、故意に不良品を製造したり等して積極的行動に出るが、我が國では就業せずに只うろ〳〵してをり、腕組ストライキ等といはれてゐる消極的なものがよく行はれてゐる。

左翼小兒病　レニンが大衆の意志に立脚せず、現實を忘れ、一躍理想に突進せんとする非現實的急進前衞分子に向けた攻擊的言葉である。のち弘く共產主義運動における極左翼運動の喩稱に使用する樣になつた。レーニンの著書「左翼共產主義小兒病」で有名となつた語であるが又融通性のない頑固な人や、變屈者やそれ等の行爲を指して「小兒病」といふ場合もある。

サラリー・メンス・ユニオン（Salarymen's Union）　俸給生活者組合のこと。

三・一運動記念日　大正八年三月一日「朝鮮獨立」を叫んで全土の朝鮮人が騷いだ事件を三・一事件といひ、不逞鮮人は每年この日を記念日としてゐる。

三・一五事件　昭和三年三月十五日の日本共產黨第二次大檢擧をいふ。日本共產黨、共產黨事件の項參照。

三會主義

企業利潤を資本家、事務家、勞働者に三分する主義。

三A・B・C（三エー・ビー・シー）　大戰前一時高唱されてゐた英、米、獨の鐵道建設計畫である、即ちアメリカの America, Alaska, Asia. ドイツの Berlin, Byzantium, Bagdad. イギリスの Cairo, Calcutta, Cape に至る鐵道である、就中ドイツの三B政策は諸國の危惧の的となつてゐた。

三M政策（3M）　三MはMan（人間）、Money（金）、Munition（軍需品）を指し、國家富强の三要素としてこれ等の圓滿な發達を期すべしとする政策。

三角同盟　イギリスの炭坑夫、鐵道從業員、運輸勞働者の三組合が結んだ攻守同盟である。一九一四年に成立し、一九二一年四月に瓦解した。

三月革命　一九一七年三月、ロシアのロマノフ王朝引退し、民主共和制が成立した革命をいふ。ロシア曆では二月に當るので二月革命ともいつてゐる。ロシア革命の項參照。

產業革命　十八世紀の末葉から十九世紀の初頭にかけてイギリスに行はれた急激な產業界の大變化をいふ。

この革命の第一波を上げたものはジエームス・ワットの蒸氣機關である。この蒸氣機關が紡績業に應用されたので、從來の家內工業的手工業は一變して、大規模の工場工業となり、又交通機關に應用せられて汽車、汽船の出現となり、生產物の運送は容易となり、ひいて大規模商工業の勃興を見るに至つた。

產業組合　近世の資本主義經濟組織によつて生ずる弊害を矯め、經濟上の弱者が資本家の脅威から免れんがために作られた組合で、加入組合員の小額な出資を以つて企業を營み、生計を補はんとするのがその主眼である。我が國產業組合法の認むる組合には左の四種がある。

一　信用組合　　二　販賣組合
三　購買組合　　四　利用組合

產業自治　勞働者を奴隸的境遇から開放するには賃銀制度を廢止して、勞働を己が仕事として爲さしむること、即ち勞働者を一面資本家とすることが必要であるとの主張。

産業軍事件
ソヴイエト政府の顚覆を圖る反革命の大陰謀で、一九三〇年ゲエ・ペー・ウーに摘發された事件をいふ。即ちソヴイエト組織を破壞して民主主義共和國を樹立し、土地、產業を前の所有者に返し、再び資本主義經濟制度をロシヤ內に復活せんとする組織的な大規模の計畫で、一九三〇年實行に着手する豫定であつたが、一九三一初頭に延期しその中に總檢擧をうけた。十二月八日首領ラムジン以下五名は十ケ年の禁錮に處せられて、同事件は落着した。

產業の合理化
企業經營の內外に存する一切の不合理を產業から排除することである、即ちこれを工場に就いていへば、非能率的、因襲的な作業工程を改めて、生產能率の增進をはかり、科學的管理法を採用して生產速度を高める樣にすることである。
資本家本位の產業合理化は動もすると失業者を出す恐があるので勞働者はこれに反對してゐる。

產業別組合
職業別、工場別、地域別の組合に對し職業、工場、地域の如何を問はず總ての同一產業系統の勞働者を包含する勞働組合で、日本海員組合の樣なものである。

產業別國際聯合 (Industrial Trade Secretary)
アムステルダム・インタナショナルと提携してゐる產業別の國際的勞働組合聯合で、加盟員千三百萬に及ぶといはれてゐる。

產業民主主義
勞働者をも產業の管理、統制に與らしめ、資本家と同樣の權利を有せしめんとする主張、產業自治ともいふ。

產業豫備軍
社會における過剩の勞働者群、失業者をいふ。マルクスが與へた名稱で、資本家は自由にこの豫備軍から勞働者を召集し、不要になれば又この中に入れることが出來るので、資本家的生產にはこの豫備軍が必要であるといつて居る。

三 ケ ー (3K)
クー・クラックス・クランの略、その項參照。

サンケイ報告
一九一九年にイギリス坑夫組合聯合會は、政府に炭坑

の國有、その他待遇改善の要求書を提出した。そこで時の宰相ロイド・ジョージは大審院判事サンケーを議長とし、坑主及び勞働者代表各三名、炭坑業に關係のない者六名とからなる石炭產業調查委員會を開いた。弘く一般にこの委員會をサンケイ委員會、その報告をサンケイ報告といつてゐる。その報告の要旨は、一炭坑の國有、二勞働者の經營參與、三石炭配給の管理、統制等である。

撒 撒
アジ、プロのビラをバラまくこと。

サン・シモン (Saint-Simon, Claude-Henri de Rouvray Comte de. 1760—1825) フランス人
フランス初期の社會主義者。貴族の出身で長じて軍隊に入り、アメリカの獨立戰爭に參加し歸來軍事的、政治的活躍に半生をすごしたが、四十三歲のとき社會主義者となつた。その說は所謂空想的社會主義といはれ、社會惡の本源を資本の私有にありとするも、階級鬪爭による革命を主張せず、人間性の中にある社會的正義觀念の喚起による社會惡の改善を理想としてゐた。

三制整理
行政、財政、稅制の三制度の整理改善を意味する語である、現民政黨內閣はこれを一大政綱として掲げ目下調查會で整理案を研究してゐる。

サンヂカリズム (Syndicalisme)
二十世紀の初めフランスに生じた革命的な勞働組合で、政治行動殊に議會主義を否認し、罷工、怠業等の經濟的、直接行動に訴へて社會革命を行はんとするものである。

三 ぱ ん
選擧用語である、即ち地盤、看板(宣傳)、鞄(金)で選擧には不可缺の要素といはれてゐる。

三八主義
一日の時間の割當に關する勞働者の理想である。即ち八時間の勞働、八時間の休養、八時間の睡眠。

撒 罫 (中)
宣傳ビラのこと。

三民主義
孫文の創說にかゝる中國國民黨の綱領で、民族主義、民權主義、民生主義を總稱し、中國國民黨の綱領、政策等一切の根本方針となつてゐる。

民族主義とは支那現在の民族を以つて大中華民國を構成し、民族的國家を實現せんとする主義。

民權主義とは君主制を廢し、共和制を確立し、男女平等の全民權政治を實現せんとする主義

民生主義とは勞資間の不平等を改め、全人民の資力を以つて富源の開發を圖らんとする主義である。

三ロ主義

エロ、グロ、テロの三主義。

シオン運動 (Zionism)

ユダヤ人の國權回復運動である。十六世紀末に始まり、現在世界各地に約三十萬の會員を擁してゐる。シオンとはエレサレム城内にある丘陵の名でユダヤ人はこゝを神聖な場所としてゐる。

シー・ジー・テイー (C・G・T)

フランス勞働總同盟(Confederation Generale du Travail)の略稱サンヂカリズムを奉ずるフランスの大勞働組合であつたが、戰後ロシヤ革命の成功に刺戟された左派は一九二二年に分裂してC・G・T・Uを組織した、その後C・G・Tも漸次革命化して來た。一方C・G・T・Uは一九二二年赤色勞働組合インタナショナルに加盟したが、内部には種々の潮流がある樣である。

シー・ジー・テイー・ユー (C・G・T・U)

Confederation Generale de Travail Unitaire の略、シー・ジー・テイーの項參照。

システム (System)

組織、體系。

自然生長性

目的意識性に對立する語で、努力して意識的に起るのではなく、自然的に發生成長することで、無產階級の解放運動も、資本家、地主の搾取に刺戟されて自然的に發生進展したものであるとしてゐる。

思想エー・ビー・シー (A・B・C)

Aはアナキズム、Bはボルシエビズム、Cはコンミュニズム。

シーソー・ゲーム (Seesaw Game)

追ひつ追はれつの大接戰、スポーツ用語である。

下からの攻撃

内からの攻撃のこと、その項參照。

シナリオ (Scenario)

映畫の筋書のこと。

四八主義

八時間の勞働、八時間の休養、八時間の睡眠、八志の日給を要求するイギリス勞働者の一理想である。

シー・ピー (C・P)

共產黨、Communist Party を略したもの。

資本家インタナショナル

國際職盟を共產主義者が嘲稱した語。

市民層

近時「階級」といふ語の用法が大變堅苦しくなつて來たので、これに代るものとして「層」といふ語が出來、知識層、社會層等と盛に用ひられる樣になつた。

シャイデマン (Scheidemann, Philipp 1865—)ドイツ人

ドイツの社會主義者、一九〇三年代議士となり、一九一八年には副大統領となり、バーデン内閣には内務大臣となつた。ついで一九一九年二月共和制第一次の大統領に擧げられた。ベルサイユ條約に强く反對したが、政府の多數が止むなくこれに署名せんとするや潔く辭職した。

社會革命

社會の全般的變革をいふ、マルクスは社會革命は社會の物質的生產力が或る段階に達すると、その社會の生產事情と矛盾を來し、かつては生產力の發達を助成したものが一變して障害物となる。茲に社會革命が初るのである。即ち經濟的基礎の變化に伴ふて上部構造たる法律、政治等社會事情の全部も亦變革されることになるといつてゐる。

社會契約說

フランス人ルソーが大成した理論で、近世社會思想に大きな影響を及ぼした。人類は自然の狀態において獨立し自由のものであるが、その存在、繁榮を全ふするために契約して社會を形成し、國家を作り、政府を認めたものであるから國家主權は人民にある、故に國家權力に服從するのは人民各自の自由を保全し、權利を擁護せんがためであるといふのがその主張の根本であるが、十七、八世紀を全盛とし、今日では思想的影響を失つてゐる。

社會組織

社會を形成する所の連帶性事情である、社會の成員はこれを結び付くる事情によつて一つの社會を形成するものである、例へば血緣とか、一定地域における居住

とか、利害の共通とかは皆一つの社會紐帶である。

社會政策

社會の改良を目的とする國家、公共團體の政策で、理論よりも主として現實的な對應策を指してゐる。

社會民主主義

民主的政治形態の下に社會主義を行はんとするものでドイツの社會民主黨はこの主義を高唱してゐる。即ち生産機關の公有、分配の平等一切の特權の廢止等を目的とし、これが手段として政權の獲得を必要とするも、革命及び無產者獨裁政治に反對し、議會主義を採り、漸進的にその目的を達成せんとするもので、第二インタナショナルはこの主義に基づく。

借區料

日本は日露條約によつてカムチャッカ沿岸で漁業を營む權利を認められてゐる。この漁業を營む漁區は毎年入札により、落札した漁區に對し一定の漁區借料を支拂ふのである、これを借區料といふ。

從來日本は朝鮮銀行浦鹽支店で露貨を安く手に入れ、これで借區料を支拂つてゐたが、今年から露貨は公定市價によること、なつたので、こゝにルーブルの邦貨換算率について日露の間に紛議が起り、結局本年の借區料は一ルーブル、三十二錢五厘換といふ事で妥協した。

上海假政府

大戰後上海佛租界にあつた秘密結社である、かねて日韓合併に不滿を抱いてゐた一部の朝鮮人はウイルソンが民族自決主義を唱導するやこれにいたく刺戟され、李承晩を國務院大統領、李東輝を國務總理とする假政府なるものを作り、一時は世人の耳目を聳たしむるものがあつたが後內訌起り、經濟上にも行詰りを來し何時とはなしに自然消滅した。

集產主義

生產機關を國家社會の公有とし凡ての產業を國家に集中し、生產並びに分配の管理を國家の中央權力を以つて爲さんとし、ある程度の財產私有即ち生活資料の如きは個人的に自由なる處分をなさしめんとする主義をいふ、財產の私有を許す點に於いて共產主義と異つてゐる。

集成財

一國、一社會の上から見て財貨と看做されるもの即ち道路、公園の如きものをいふ。

修正派社會主義

ベルンシュタインを主唱者とし、マルクス說の修正を唱ふる一派の社會主義學說である。正統マルクス主義が辯證法により資本主義社會の否定によつて社會主義社會を肯定し、その過程に革命を必要とするに反し、資本主義社會の肯定によつて社會主義社會を肯定し、革命を無用とし、恐らくは議會主義の普及によつて新社會が到來するであらうと主張して居る。

東派主義

宗教の信仰の如く獨斷的に一黨一派に偏倚する主義で、一般大衆的でないものをいふ。

東派的分裂主義

所謂眞本イズムを第三インタナショナルが批評した語で、その行動の方法が大衆的でなくその政策が凡て分裂を意圖するか、または分裂の結果に立至る一派であるといふ意。

止揚

ドイツ語アウフヘーベンの譯語で、又揚棄とも譯されてゐる。アウフヘーベンの項參照。

シヨウ (Shaw, George Bernard. 1856—) イギリス人十八歲のとき新聞記者を志してロンドンに來り、一八八四年フェビアン協會に加つて創業の難事に當り、他方平和運動、社會主義の普及、勞働運動等に參與し就中そのCommonsence about the Warと題する册子は當時の社會に大きな感銘を與へた。

蔣介石

明治二十一年支那浙江省に生れ、我が國の士官學校に學んだ、明治四十四年支那の第一革命と共に歸國して、革命軍に投じて轉戰し、第二革命後孫文の秘書となる、一九二三年モスコーに赴き、歸國と共に黃埔軍官學校の校長となり、二六年中央執行委員となつた、これより國民黨の幹部として畫策する處多く、二七年南京を克服して南京政府を樹立し、三度北伐して遂に成功し、國民政府主席として總統の地位にある。

職場

工場內の一作業過程を司る仕事場をいふ、職場は鬪爭單位として大衆の指導、煽動をなす基礎的舞臺とされてゐる。

小兒病
極端な急進主義をいふ。轉じて融通性のないもの、罵稱にも用ひらる。左翼小兒病の項參照。

小兒病インタナショナル、
第四インタナショナルの別稱、その項參照。

少數派運動
ある思想團體が他の團體の內部にフラクションを組織して同化に努める運動のことである。

證票契約
組合證票を有力な武器としてゐる勞働組合がこれに關聯して資本家と結ぶ契約をいふ、即ち資本家は組合員のみを雇ふこと、工場閉鎖を行はないこと、爭議は調停にかけること等を認め組合側は證票貨物を購入すること、ストライキをしないこと等を約するのである、か、る工場を證票工場、か、る組合を證票組合といふ。

シヨービニズ (Chauvinism)
愛國社會主義。平素は帝國主義に反對の社會主義者も、國家が危急存亡の岐路に立つと祖國のため戰爭に參加するもので、第二インタナショナルはこの例である。

小ブルジヨア
中產階級のこと、その經濟的地位は無產者的であるが生活樣式は有產者と無產者との中間的なものである。

シー・ワイ (C・Y)
Communist Youth の頭文字を取つたもので、共產青年又は共產青年同盟の略稱。

新組合主義
職業別に熟練工のみで組織してゐる組合に反對し、不熟練勞働者をも包含する產業別組合を組織せんとする主張。トム・マン、ジヨン・バーンス等が主唱者であつた、一八八九年ロンドンのドック・ストライキに勝利を收めて以來この新組合主義が盛んになつた。

新經濟政策 (New Economic Policy)
一九二一年ソヴイエト・ロシアが所謂戰時共產主義政策を改め、農民からの穀物徵發制を廢止して現物稅を以つてこれに代へ、殘餘は市場で自由に賣買せしめ、又利權政策によつて外國資本を引き入れ、國有工場の一部を私人に貸下げて特定範圍の個人企業、營利を目的とする營業及び私有制度を復活した。故にこの限界內において資本主義が復活したこと、なるが彼等はこれを以つて戰時共產主義から共產主義社會建設への進展と稱してゐるが、他方では共產主義が資本主義に降伏したものだと見て居る者もある。

新々經濟政策 (Neu-Ökonomische Politik)
ロシアで一九二一年に行はれた新經濟政策に對し、一九二五年に行はれた經濟政策を新々經濟政策といふ、前の政策よりも個人企業の自由を更らに擴大してゐる。

新人會
大正七年十一月東京帝大に創立された社會思想研究團體で吉野作造博士指導の下に、國民の經濟的政治的解放問題の研究を目的としてゐたが、漸次實際運動に入り高等學校、專門學校に學生社會科學研究會を設立し、全國學生聯合會を組織し積極的な活動をなすに至つたが、第二次日本共產黨事件に多數のものが連座し、現在はあまり振はない。

眞正マルクス主義
レニンがマルクス主義及びその革命的精神を繼承したものはボルシエヴイズムであると、自任してゐた所から出た語である。

滲透政策
直接鬪爭の渦中に入らず、社會主義の主張を無產團體その他社會の各層に滲透せしめることによつて、社會主義の目的を達せんとする方策である、かつてファビアン協會はこの方法をよく用ひた。

シンパ
シンパサイザーの略。

シンパサイザー (Sympathizer)
同情者、後援者。又正式の黨員ではないが黨のためにその運動を援助し、資金を寄附する等黨の發展を援助する者をいふ。インテリ階級のものが多い。

新マルサス主義
マルサスが唱へた晩婚、制欲等によつては到底人口數制限の目的を達することは出來ない、故にそれよりも一層自然的であり、又健康に害のない避姙の方法を以つて產兒を制限する方がよいとなす說でミル父子が強調した。近時はこれに優生學が加味せられ重要な問題となつてゐる。

水平社運動
少數部落民の自主的解放運動である。
明治四年政府は差別賤稱の停止を布告したが世人の賤視觀念は依然として革らなかつた、然るに偶々世界大

戰によつて誘發された勞働者階級の活潑な解放運動は、少數部落民にも自覺と奮起を促し、大正十年奈良縣の柏原に先づ起り、遂に水平社なる團體を結成し全國的の運動を開展するに至つた。今日では無產運動の有力な一翼となつてゐる。

罷業銀行
再起不能の休業銀行。

スウエティング・システム (Sweating System)
搾血制度、スウエター(企業の下請人)による請負制度の意で、企業家と勞働者との間に請負人、下受人等の仲間者があつて、勞働者を二重、三重に搾取する一種の勞働者酷使制度である。

スキャブ (Scab)
罷業破り、裏切者のこと。

スターリン (Stalin, J. W. 1879—) ロシア人
ロシア政府(U·S·S·R)の中心人物であり、共產黨執行委員會の書記長である。鄕里の神學校で學んでゐた が危險思想の故を以つて除名され、一八九八年社會民主黨に入黨し革命運動に參加した。一九〇〇年にはレニン等が組織してゐた「イスクラ團」に參加して活躍し以來逮捕、流刑、逃亡を繰り返してゐたが一九一七年三月革命後レニン等と相謀り猛烈な革命戰を起し遂に十一月革命を成就した。
レニン主義を遵守し新經濟政策を實行して國狀の安定をはかり、第二のレニンと稱されてゐる。ながく黨の書記長をしてをり黨內に確固たる勢力を持つてゐる、政府要路の更迭がある度毎にスターリン派は躍進をつづけ、最近ルイコフ等を追ふに至つて國政の最高機關は今や完全にその一派の掌中に歸した。

スチエ·ンガゼータ (露)
壁新聞、その項參照。

ストツページ (Stoppage)
作業停止。資本家の不法行爲抗議のため工場もしくは職場の作業を一時停止する部分的のストライキ。

ストライキ (Strike)
同盟罷業のこと、その項參照。水夫の用語ストライキングから來た語である。

ストライキ·ブリーカー (Strike Breaker)
罷業破り。

ストライキマン (Strikeman)

罷工騎士と譯してゐる、ストライキ等の場合に勇敢な者。または經濟鬪爭のみを知つて政治鬪爭を知らぬ組合主義者のこと。

ストラテージ (Strategy)
戰略、鬪爭全期間に亘る戰略をいふ。戰術は戰略の部分であつて戰略の達成に努める計畫である。

スナツプ·シヨツト (Snapshot)
早取寫眞、即興的なスケッチ風の寫眞のこと。

スノーデン (Snowden, Philip. 1864—) イギリス人
青年のとき重傷を負ひそれから跛者となつた、一八九四年勞働黨に入黨し、一九〇六年に代議士に當選し間もなく領袖の一人となり、一九二四年勞働黨內閣には大藏大臣として入閣した。財政、外交方面で有名である、又夫人と共に熱心な女權擴張論者である。

スパイ (Spy.)
間諜、探偵、高等係の刑事、又は內應者のこと。

スパルゴー (Spargo, John 1876—) イギリス人
ボア戰爭に反對して當局の忌諱にふれアメリカに去り「カムレード」を創刊して社會主義の宣傳を初めた、彼の輕妙な文章は多くの社會運動家を惹きつけたちまちにしてその名聲が全米にとゞろいた。反ボルシェヴィキーの立場を持してゐたが後愛國社會主義者となり、ついで反動的の色彩を帶びて來た。その著作の多いことは稱にみる所であるが文獻として價値のあるものは割合に少ないといはれてゐる。

スパルタクス團 (Spartacus Bund)
一九一八年のドイツ革命に際し極左翼の立場を持して活動した革命團である。一八年十二月のスパルタクス大會で革命的共產勞働黨の創立を決議し革命政府の實權を勞兵會に移さんとして各地に叛亂を起し、凡ゆる手段を以つて新政府の破壞運動を試みたが遂に失敗に了り、間もなく指導者カール·リープクネヒト、ローザ·ルクセンブルグはノスケ麾下の兵士に暗殺され、一時不振に陷つたが後社會民主黨の左翼派と合體してドイツ共產黨を組織した、ドイツ共產黨の項參照。

スペエツ (露)
專門家のこと。

スペンス (Spence, Thomas, 1750—1814) イギリス人
英國土地國有論の創始者、「怠け者による土地の收奪が勞働大衆の悲慘の根源である、土地を公有にして萬

人にこの福利を平等に享有せしめねばならぬ」と主張した、土地改革論者の先驅者と認められてゐる。

スポーツ・インタナショナル（Sport International）
第三インタナショナル系に屬し、スポーツ愛好者を通じて共產主義の宣傳、普及を期せんとする國際團體。

スポーツインテルン（Sportintern）
スポーツ・インタナショナルの略、その項參照。

スミス（Smith, Adam. 1723—1790）イギリス人グラスゴー大學の教授となり後エヂンバラ大學の總長となつた、有名な「富國論」の著者で資本主義經濟學の祖と稱されてゐる。

スミチカ（露）
結合、協力のこと。「農民と勞働者の結合」が目下ロシアでは一大標語となつてゐる。

スラム街
貧民街のこと。大阪の釜ヶ崎は大變有名なスラム街の一つになつてゐる。

スローガン（Slogan）
合言葉、鬪爭標識、政黨や團體等のかゝげる標語。

スワラジー運動
インドの獨立運動、一九〇五—一九一〇年頃が最も盛んであつた、現在は英貨排斥運動と併合してゐる、スワラジーとは自治を意味するインド語である。

坐り込み
勞働爭議等の際爭議團が行ふ示威的戰術の一つで、社長、重役等の私邸を訪問し、不在と稱して面會せぬときは面會するまで坐り込んで待つてゐる方法である。

清算
反對思想や運動の克服整理の意に轉用されてゐる。

清算派
合法的行動のみを強調し、非合法的手段の清算を奬勵する一部のものを清算派といふ。一九〇七年頃ロシアのメンシェヴィキー內に生じた一派を清算派といつたに初まる。

清黨
無產政黨では黨內の不純、不良分子を除名することを清黨といつてゐる。

青踏派
十八世紀以降イギリスに起つた婦人參政權運動者の異

稱である、青色の靴下を用ひてゐたのでこの名がある我が國では雜誌「青鞜」の同人平塚雷鳥、伊藤野枝等の女流作家をいふ。又轉じて新しい女の意にも用ひらる。

正統派社會主義
マルクスの學說を忠實に遵奉するマルクス派社會主義で、マルクス主義を修正せんとする修正派社會主義に對立するものである。

青年共產インタナショナル（Kommunistische Jugend Internationale）
第三インタナショナルに加盟してゐる青年勞働者インタナショナルのこと。一九一九年十一月ベルリン大會で第三インタナショナルに加盟の決議をし青年共產インタナショナルとなつた。

セカンド・ハンド（Second Hand）
中古品、古手、轉じて再婚の女。

赤衛軍
ロシアに於いて革命の遂行と擁護を目的とし臨時的に組織された勞働者の軍隊で、ケレンスキー政府に反對しボルシェヴイキーに屬し、一九一七年六月頃には既に數千人に上つてゐた、多くは不充分な訓練しか受けてはゐなかつたが十一月革命のときには反政府の軍隊と協力して相當活躍した。ソヴイエト政府成立の後廢止され赤軍がこれに代つた。赤衛軍に對して革命に反對した軍隊を白衛軍といふ。

赤軍
ソヴイエト・ロシアの正規軍、十一月革命が一段落ついた後赤衛軍に代つて設置されたものである。當初は義勇兵制度で一時は五百三十萬の多きに上つたが、國狀の安定と共に漸次減ぜられ國民皆兵制の採用さるゝや激減し現在では約五十六萬程である。然し動員力は千萬人を超えてゐるだらうと想像されてゐる。

赤色救援會事件
解放運動犧牲者救援會の項參照。

赤色支會事件
ジノヴイエフ書簡事件の項參照。

赤色勞働組合インタナショナル（Red Labour Unions International）
略してプロフインテルン、（Profintern）又は本部所在地の名に因みモスコー派等ともいふ。一九二一年七月モスコーで創立された共產主義系勞働組合の國際的聯合である。第三インタナショナルと協力して、革命手

段によつて勞働階級解放の目的を達成せんとし有傾的なアムステルダム・インタナショナル派と徹底的な闘爭を行はんとしてゐる。我が國では「全協」がこれに加盟してゐる由である。

世紀末

極端なる懷疑に陷り厭世的傾向のある思想を指す。

セクシヨン (Section)

支部、分派のこと。

セクト (Sect)

宗派。朋黨、フラクションと異り概ね悪い意味、例へば私黨を組むといふ様な場合に用ひられる。

セコハン

セカンド・ハンドの略その項參照。

セツルメント (Settlement)

細民地區に宿泊所、食堂、圖書館等を設置し、近隣人の精神的、物質的生活の向上を圖る所の社會事業をいふ。

セミ・プロレタリア (Semi-proletaria)

半プロレタリアの意でプロレタリアに準ず可きものをいふ。

赤化運動

從來一般には社會主義運動、時としては反資本主義運動を漫然と指稱したが近時では共產主義的革命運動を指す場合が多い樣である。この意味の赤化運動は現代の社會制度を積極的に否定し、プロレタリアートの完全な覺醒の獲得を目的とする世界革命運動である。

赤化防止團

大正十一年十一月社會主義思想の防止、富豪の自戒反省、勞働運動と社會主義との分離を高唱して組織された反動的な思想團體である。團長米村嘉一郎が無政府主義者高尾平兵衛を射殺して以來有名となつた。

戰　旗

前は全日本無產者藝術聯盟の機關誌で片岡鐵兵、江馬修等が主宰してゐたが、今は戰旗社から出てゐる。

戰線異狀なし

ルマルクの著「Im Westen Nichts Neues」(秦豊吉譯「西部戰線異狀なし」)から流行しだした語で、事態に別段の變化のない場合に「……戰線異狀なし」など、よく用ひられてゐる。

戰鬪的組合

鬪爭的組合ともいふ、階級鬪爭主義を原則とする組合、鬪爭主義の項參照。

セントラリスト (Centralist)

中央集權主義をとる人又はこれを主張するもの。

セントラリゼーション (Centralization)

中央集權のこと。

相愛會

內鮮の融和並びに相愛、相互扶助を目的とする親睦團體で東京、京都、大阪、名古屋に支部がある。

ソヴイエト (Soviet)

語義は委員會、協議會に當るが一般にはロシアの議會のことをいふ。ロシアでは選擧人、被選擧人は十八才以上の生產的又は有用勞働に從事してゐる者に限り、又立法のみでなく執行委員によつてソヴイエト自ら行政の衝に當つてゐる點もがその特質である。

選擧は村ソヴイエト及市ソヴイエトに限つて直接行はれ、それ以上は間接選擧による、即ち村ソヴイエトの代表者によつて郡ソヴイエト會議、郡ソヴイエト會議の代表者と市ソヴイエト代表者によつて縣ソヴイエト大會が成立し、縣ソヴイエト大會と市ソヴイエトの代表者とが全露ソヴイエト大會を構成し、こゝで選ばれた中央執行委員會が人民委員會—他國の內閣に相當する—を選任する、レニンはこの人民委員會の議長であつた。人民委員會の項參照。

ソヴナルコム (露)

Sovnarkom で Soviet Narodnikh Kommissarov の縮語である、人民委員と譯す、その項參照。

側面結婚

夫が戰時出征中妻を一時他の男子に配し、小兒をあぐるに及んで結婚を解除するといふ方法で、大戰中ドイツの採つた人口增殖法である。

總工會

中華民國では勞働組合のことを工會といひ、組合の結合せる上級機關を總工會といふ。

相互扶助

ロシアの無政府主義者クロポトキンがその名著「相互扶助論」に於いて高調した主張である。

人間は元來社會的動物であつて相互扶助の精神は本能的感情である、他人の逆境を救はんとする衝動に駈ら

れるは單なる同情に非ずして過去何萬年間の社會生活によつて培はれた人類の共同心乃至社會心の發露である、文明の進歩は人々の協力の累積であつて一個人では一物と雖も作り出された物はない、相互扶助こそ人類社會進化の要素であると斷定してゐる。

ソシアル・エデユケーション（Social Education）
社會教育、廣く社會一般の風潮を改善せんとする一切の施設で學校教育、家庭教育に相對するものである。

ソシアル・ソリダリテイー（Social Solidarity）
社會連帶。社會は結成員たる各個人の相互協力によつて成立するを以つて各個人は社會の眞否に對し連帶的の責任を負ふてゐる、從つて社會も亦各個人に平等の權利を與ふる等その責任を果さねばならぬ、然るに富や利益の分配等について甚しい不公平が存するから、これ等は須く社會的正義に基づいて是正さねばならぬと言ふのである。

ソシアル・デモクラシー（Social Democracy）
社會民主主義、その項參照。

請式組合
棺桶組合に同じ。保守的勞働組合の罵稱。

組織勞働者
勞働組合に加盟して居る勞働者をいふ。

蘇 兆 徵
廣東の人、水夫出身である、中國の共產黨、勞働運動界の元老である。早くから孫文の下にあつて革命運動に參加してゐた。一九二二年の香港の對英ストライキ、一九二五年の香港勞働者のゼネ・ストを初めとし數次の記錄的な大ストライキに於いて彼は常に卓越した統率力を示し一糸亂れぬ指揮振りをみせた。一九二九年三月死去した。彼の創設した中華全國海員總工會は中國最初の全國的產業別組織の組合で中國勞働組合運動の中心となつてゐる。

外からの攻撃
無產運動の戰術の一つで、保守團體に對抗する團體を組織して外部から攻撃すること、または保守團體の左翼分子が脫退して母體團體に對抗する場合をいふ。

ソフホーズ（露）
ロシアの國營農場。三十萬エーカー（十二萬町歩）に及ぶものがある。「五ケ年計畫」では約百五十ケ所に國營農場を創設する豫定になつてゐる。

總勝合運動
資本の攻勢に對し勞働組合は總聯合して協同戰線を張るべしといふ運動、大正十年頃から高唱されだした。

孫　文（1865—1925）
廣東に生れ、國民黨の創立者である。一八八五年香港醫學校を卒業し厦門で醫業のかたはら革命思想を鼓吹し、一九一一年支那の動亂に際して南京に臨時政府を樹立し一九一二年臨時大總統となつたが、後に袁世凱に讓つた。爾來國民黨を率いて廣東を中心に支那統一を企て種々畫策し、多大の辛酸を嘗めたが遂に未だ成らずして北京に客死した、併しその主張にかゝる三民主義、五權憲法、建國方略、建國大綱、地方自治、外交政策等は凡て國民黨の黨是となつて漸次實現されてゐる。

T

大衆派
左翼中の極左派に對立する一派で、我が國資本主義は未だ沒落の過程に達しないから先づ經濟鬪爭によつて無產大衆の團結を計つた上、合法的政治鬪爭を以つて最後の目的に進まんとするもの。

大衆パン
大衆黨の大阪府聯合會事業部が合資會社灘萬食料品工場を繼承して昭和六年三月中旬から賣り初めたパンにつけた名稱である。

對　盾　的
正反對の意。

對立分離主義

所謂福本イズムの精髓とせられてゐる。「結合する前に分離し」左翼を左翼として結唱し昂揚するといふ主張で、レーニンの「發展は對立物の闘爭である」といふ言葉から、結合する前に分離して對立せしめこれが闘爭し合つて初めて發展があるといふ信條であつた。この理論が是認されたゝめ、我が國無産團體の間に幾多の分裂が起つた。福本イズムの項參照。

タクチカ（露）
戰術、ストラテージの項參照。

タクチツク（Tactic）
戰術、ストラテージの項參照。

蛸配當
略して蛸配ともいふ、利益金がないのに拘ず無理算段して配當するをいふ、蛸は食物がなくなると自分の手足をも食べるといふ所から出た語。

立入禁止
小作人に對し、地主が土地明渡しを求むる前に、裁判所の判決又は決定に基づき、執達史に委任して小作人が小作地に立入る事を禁止する權利保全處分である、小作爭議が急增して以來現はれた現象で、大體大正八・九年頃から頻發した。

立　禁
立入禁止の縮語、その項參照。

立毛差押
農耕者に對し地主、その他の債權者が裁判所の判決又は決定に基づき執達史に委任して、その農耕者の稻、麥その他現に生育してゐる農産物を差押へること。

タツクル（Tackle）
蹴球において敵の攻擊を肉彈を以つて防禦する競技上のテクニツクであるが、これより捨身の防禦、肉彈戰等の意に轉用されてゐる。

タツス通信社
モスコーに本部を有するソヴイエト聯邦通信社で、各國に支部をおき所在國の産業、教育、思想、軍事、外交等各般に亘り情報を蒐集報告せしめてゐる、ロスタ通信社はこの社の前身で一九二五年現在の如く改造せられた。

棚上げ
供給過剩で市價が暴落した時に、これが對策として出荷量を制限し、以つて市場價格の上騰を圖らんとする

商策のこと、

ターニング・ポイント（Turning Point）
轉換期。回歸點のこと。

種蒔き社
プロレタリヤ文藝運動の先驅をなしたもので、大正十年末、村松正俊、小牧匠江、金子洋文、佐々孝丸氏等によつて組織され、機關誌「種蒔く人」を發行してゐたが大震災で潰滅した、その後この同人が中心となつて「文藝戰線」を復興した。

タワリシチ（露）
同志、同僚の意、親しみと平等とを表す語。

譚平山
廣東の人、陳獨秀、李大釗と共に中國共産黨の三元老と稱せられてゐる。北京大學の出身であるが、共産黨創設以來實際運動にたづさわり、組織事務には卓越した才幹を有し黨の基礎的組織の建設、これが改組、共産黨と國民黨との合併等皆彼の努力した所である、孫文の死後廣東政府の樹立が企てられるやその基礎を組成し大いに畫策する所あつたが蔣氏との折合よくなく種々の曲折を經て、二七年七月中國分裂後、日和見主義的な主張をなした故を以つて除名された、その後左派の人達と第三黨を組織し青年、インテリの間に大きなセンセーションを起してゐる。

ツアーリズム（露）
帝政ロシアの皇帝主義、君權萬能主義、專制主義。

ツンフト（Zunft）
第十三、四世紀頃ドイツ諸州に普及した手工業者の組合で、イギリスのギルドと同樣の組織で親方はその職人達の生活を保障し、營業を壟斷してゐた、即ち嚴重な組合規約や年期制度を作り、新に親方となるには長期間の徒弟から旅稼ぎを經て莫大な顏つなぎの費用を要するといふ仕組で遂に世襲的特權化するに至つたが工場工業の發達により崩壞した。

ツンフト的
ツンフト制度的な即ち自己の利益保全にのみ汲々としてゐる反社會的、非階級闘爭的な意味に用ひらる。

低回趣味
人生を眞拗、悲觀、壓世的に見ずに餘裕ある氣分で呑氣に眺め樣とする傾向である。

帝國主義

本來からいふと政治上の術語で、母國の境界を超えて國家勢力圏の擴延を圖る主義であるが、共產主義者の說く所によれば高度に發展した資本主義の現段階を帝國主義といつてゐる。

レニンの定義する所によれば帝國主義とは獨占及び金融資本が支配的勢力を得、海外投資が非常な重要性を帶び、國際的トラストが世界市場の分割を始め、地球上の全領土が最大の資本主義國間に分割され終つた所の發展段階にある資本主義を指稱する歷史的概念であつて、帝政を主張する主義でもなく、又資本が行ふ武斷的、侵略的政策でもなく、高度資本主義その物に外ならぬものであると。

テーゼ（These）

槪要、方針、運動方針の意味で部分的運動に關する方針の要領書である。全體的運動の基礎は綱領といふ。

テロ

テロリスムの略。

テロリズム（Terrorism）

恐怖主義、直接行動主義。最近では暴力行爲を指すことゝなつた。本來は政治的不安に伴つて生起する過渡的なものである。

古來革命の際にはその混亂狀態の秩序恢復と、革命の完成を速かならしむるために殆ど必須的にテロリズムが行はれてゐる。テロリズムには宗教的、白色、赤色テロリズムの各種がある。

テロル（露）

テロリズムのこと、その項參照。

豚鼠（テンヂクネズミ）

名義だけ貸して報酬をうけてゐる會社の重役の嘲稱。

テンポ（Tempo）

拍子、速度。元來音樂上の術語であるが、近時廣く用ひられてゐる。

鬪爭主義

階級鬪爭主義のことで即ち階級對立と、階級の利害不一致を自覺し、勞働者の地位の向上と、解放を勞働者の獨立した立場から要求し、階級鬪爭によつてこれを獲得せんとする主義である。

突變說

オランダ人デ・フリーが唱へた進化論であるが、一般にはこれを社會進化にあてはめたものをいふ。即ち量

の變化は一定の段階に達すると質の變化を起す、社會も緩漫な變化即進化にはよらず、突變即ち革命によつて順次高級な社會へ進展してゆくものだといふ說。

トムスキー（Tomski, Michail, 1880—）ロシア人

小學校を了ると直ちに勞働に從事し、一九〇五年頃から革命運動をつゞけ逮捕と脫走とを繰返し、その生涯は恰もロシア革命の縮圖たる感がある。一九一九年以來ロシア共產黨の中央委員をつとめ、勞働組合運動の最大の指導者の一人であつたがブハーリン、ルイコフ等と右翼ブロックを形成しスターリンと相容れない樣になつた。

トラスト（Trust）

自由競爭を廢止して市場を獨占し、以つて價格を釣上げ利潤の增大を圖る目的の下に、諸企業が合併して一つの組織になつたものをいふ。

カルテルとは大へんよく似てゐるがたゞ參加諸企業が各々その獨立性を失ふ點がカルテルと異つてゐる。カルテルの項參照。

虎ノ門事件

大正十二年末、議會開院式の日東京虎の門附近で山口縣人難波大助が 攝政宮殿下の鹵簿を狙撃し奉りて大逆を敢てしたる事件。

トルグラム

他國に亡命して居る白系の舊ロシア資本家等が組織してゐる商工委員會のこと。

トロツキー（Trotzki, Leo, 1878—）ロシア人

ロシア革命の大立物。一八九八年逮捕せられてからは革命運動と追放との連續をなしてゐる。一九一七年の十一月の革命にはレニンと共に活躍して革命政府を樹立した。彼は軍事上のことに就いて獨特の手腕を有し赤衞軍の組織訓練は彼に負ふ所甚大である。一九二三年頃からトロツキズムを主張してレニン等と意見合はず、更らにレニンの沒後、ジノヴイエフ等と共に新反對派の團體を作つた。二七年にはスターリン等のために共產黨から除名され、トルキスタン地方に流されついでトルコに移された。

トンネル會社

ある會社の利益を隱すために姉妹會社を作り、その會社と只形式上の物品の賣買をなし、利潤の行方をくらます組織の會社。

U

ウヰーン・インタナショナル
第二牛インタナショナルの創立大會がウヰーンで開催されたのでこの名がある。第二牛インタナショナルの項參照。

ウエツブ（Webb, Sidney, 1859—）イギリス人
官吏生活を續けて居たが、後ロンドン大學の教授となつた頃から社會主義を信奉するに至り、フエビアン協會を組織した。一九二二年代議士となり、二四年の勞働內閣では商務院總裁となつた。

ヴ・カ・ペ（B・K・P）（露）
全露共產黨の略稱。

薄皮り
取引所が定めてゐる證據金を出さず、秘密に不正取引をする一種の賭博相場で、これを業とするものを薄張呑屋といふ。

內からの攻撃
喰下り、喰込み等ともいふ、左翼の者が右翼團體に潛入しその內部において各種の策動をなして幹部を失脚せしめその指導權を握らんとする左翼戰術の一つ。

ウツイク（露）
全露中央執行委員會の略、平常主權を實際に行使する機關でロシア最高の立法機關であり又執行機關である。

馬なき人
馬を資拂つた農民、即ち貧農のこと。

ウルトラ派
極左派、極端な急進的の鬪爭方法をとる左翼一派のこと。

ウルトラ・リンケン（Ultra Linken）
極左翼のこと。

W

ワイ・シー・アイ（Y・C・I）
Young Communist International の略、青年國際共產黨。

ワンサ・ガール
側役を勤める活動女優のこと。

ワンパス・ガール（Wanpagirl）
ワンパス（Wampas）は Western Association of Motion Pictures の頭文字をもぢつてつけたもので映畫會社の宣傳部員、映畫記者等によつて組織されてゐるクラブである。このクラブでは一九二六年から年一回新進花形女優を選定するのである、この選定にパスした女優をワンパス・ガールといひ所謂ワンサ・ガールから浮び上つたこと、なるのである。

Y

ヤカペ（露）
日本共產黨の略稱。

ヤチエイカ（露）
共產黨細胞、黨組織の單位たるべきもので黨員四、五名で組織されてゐる。

雇止め
海員の解任のことを雇止のといつてゐる。雇止めの事由として海商法では雇入契約の終了、船長の雇止め、海員の雇止め請求の三を規定してゐる。

山宣追悼記念日
三月六日である。昭和三年勞農黨所屬代議士山本宣治が七生義團員黑田保久治に刺殺された日である。

闇の金曜日
一九二一年四月十五日（金曜日）はイギリスの鐵道、運輸、炭坑勞働組合の三角同盟が取消された日で勞働者はその悲慘の日を記念し、名付けて「闇の金曜日」といつてゐる。

ヤンキー（Yankee）
北米合衆國の東北に住む者を呼んだ言葉であるが現在ではアメリカ人の喇稱に轉用されてゐる。

ヤング案（Young Plan）
ドース案の改正案である。一九二四年に出來たドース案は四國の事情のため改正の止むなきに至り、一九二九年八月ヘーグに賠償會議を開き新たにドイツ賠償支拂案を作つた、この專門家委員會の委員長オーエン・ヤング、―アメリカ人―の名に因んでこれをヤング案といふ。確定賠償現在額三百六十五億マルクを毎年二十億五千萬マルク宛五十八ヶ年間に支拂ひ、この案を遂行するために國際決濟銀行を設けるといふのである。

唯物史觀
マルクス主義の根底をなす學說の一つで、人間社會の進化及社會制度の進化は人の思想が變化した結果ではなく物質的條件の發達した、めである。物質的條件が社會の根底をなしてゐるのであつて諸種の文物制度はそれに適應すべく變化してゆくが、その中でも殊に經濟的條件が社會進步の根本動力であつてその人種、地理、氣候等の物理的要素は歷史の進化には大した影響を與へるものではない、社會の凡ての制度はその社會に於いて如何なる物が如何なる方法で生產せられ、その生產物が如何にして交換せらる、かによつて定るものであるとし、社會變遷の原因は此生產關係即ち經濟條件の變化にあると說いて居る。

唯物的辯證法
マルクス主義の物の考へ方の根本をなすものである。ヘーゲルの辯證法からその觀念的部分を除き去つてその代りにフオイエルバツハの唯物論を取り入れ、凡ゆるものを現實的物質的なるもの、辨證法的過程から理解せんとするものである。

唯物論
唯心論は精神的要素に重きをおくが、唯物論は物質的要素に重きをおき精神現象を以つて物質の一作用とみる考へ方である。

ユー・エス・エス・アール（U・S・S・R）
社會主義ソヴイエット共和國聯盟（Union of Socialist Soviet Republics.）の略稱で現在ロシヤの正式な呼稱である。一九二三年六月ウクライナ外四聯邦とロシア聯邦とが總聯盟をなし（U・S・S・R）が成立した。

もとより勞農ロシアといへば現在この聯盟の一つなるロシア・ソヴイエット聯邦社會主義共和國（Russian Socialist Federation of Soviet Republics 略して R・S・F・S・R）を呼んでゐるのである。

有閑階級
資本家階級のうちその意識、生活樣式が極めて遊戲的な特色を有する利子寄食者、株券所有者の階級をいふ。

ユースメンバー（Youth Member）
青年同盟員、青年黨員をいふ。

ユートピアン・ソシアリズム（Utopian Socialism）
空想的社會主義。その項參照。

ユニオン・レーベルム（Union Label）
組合票。勞働組合の一戰術で、組合員を使用してゐる工場製品に組合票を貼つて非組合員や不熟練勞働者使用の工場製品と區別し、これを良品として販路の擴張に努め以つて勞働條件の維持改善を計り又同盟罷工の際組合票を逆用してストライキ工場の資本家を苦しめ罷業團を應援するのである。

揚　案
アウファヘーベンの譯語、その項參照。

四・一〇事件
日本共產黨事件の餘震をうけ昭和三年四月十日勞働農民黨、日本勞働組合評議會、全日本無產青年同盟の左翼三團體が解散を命ぜられた事件いをふ。

ヨ　ロ　ケ
鑛山勞働者の職業病である、慢性の呼吸器病で歩くとヨロケルからかくいふ名がついたもの。

Z

ザツコ・ヴアンゼツチ事件
（Case of Sacco and Vanzetti）
イタリーの無政府主義者、ザツコ及びヴアンゼツチの二人がアメリカ、マサチユーセツ州で流轉しつ、働いてゐた時、强盜事件の被疑者として逮捕され、一九二

七年遂に死刑を宣告さるるや、無辜の勞働者を救へとの叫びが世界各地の無政府主義者の間に起り、我が國でもアナーキスト系の諸團體が主になつて、死刑執行反對演說會を開いたり決議文をアメリカ大使に送つたりした。

暫定綱領
大會の決議によつて正式に決定されない場合に假りに暫定的に定める綱領である。

ゼ ツ コ（露）
細胞寄託。

ゼネスト
ゼネラル・ストライキの略。

ゼネバ・インタナショナル（Geneva Internationa）
第一インタナショナルのこと、その項參照。
一八六六年スキスのゼネバでその第一回大會が開催されたのでこの名がある。

前 衛
本來は軍隊にて先陣を引受ける人、部隊、または艦船を意味する語であるが、轉じて階級戰の先鋒として鬪爭の尖端に立つ分子又は指導團體を指稱し、一般大衆または本隊たる團體に對して用ふる語で、通常共產黨を指す、即ちプロレタリアの前衛といふ意味である。又共產黨のことを前衛黨ともいふ。ヴアンガードの項參照。

全 協
日本勞働組合全國協議會の略、その項參照。

全協不安
全協系分子の策動のため組合內部に各種の問題を惹き起すこと。

全日本無產者藝術團體協議會
昭和三年四月日本プロレタリア藝術聯盟と前衛藝術家聯盟とが合同して全日本無產者藝術聯盟（La Nippona Artista Proleto Federacio 頭文字をとりナップ Nap. と略稱する）を結成し「戰旗」を機關誌としてゐた。次いで昭和三年十二月改組して全日本無產者藝術團體協議會（矢張りナップと略稱する）となし、作家同盟、劇場同盟（プロット）、美術家同盟（P・P）音樂家同盟（P・M）映畫同盟（プロキノ）の協議機關とした、昭和五年九月機關誌「ナップ」を創刊し「戰旗」は戰旗社から別に出すこと、なつた。本部を東京に置き大阪、京都、

愛知その他主な都市に支部を置きナップ移動美術展覽會、藝術講演會の開催等相當活躍してゐる。

全露人民委員會
全露ソヴィエト大會及び中央執行委員會に屬しその監督の下に國政を司る機關で、他國の內閣に相當し現在議長と人民經濟・農務・食糧・財務・內務・勞働・司法・教育・保健・社會保安・民族・勞農監督の十二の人民委員會に分れてゐる。人民委員會の項參照。

象牙の塔
近代の物質萬能の現實生活を逃れ、詩美と歡樂に浸る官能的生活を樂しむ自分だけの天地の意で、詩人などの隱家をいふ。

ゾ ー ン（Zone）
地區、地帶等一定の地域といふ意味で、組合又は黨を作る場合の單位となる。

ゾンバルト（Sombart, Werner. 1863—）
ベルリン高等商業學校の教授で現在ドイツ有數の經濟學者で、社會主義の研究家として有名である、「社會主義及社會運動」及び「高度資本主義論」その他の名著書が多い。

追加

朝顔文士
一寸有名になつても朝顔がしぼむ様に直ぐ評判が消えてしまふ文士の冷稱。

アナ
アナウンサーの略、普通ラジオの送話者をいふ。

部分的闘爭
經濟闘爭のこと、その項參照。

ブルジョア革命
封建勢力に對するブルジョアの政權奪取の革命をいふ。一七八九年のフランス革命、一九〇五年、一九一七年三月のロシア革命、一九三一年のスペイン革命はこの例である。
ブルジョア革命の完成により封建勢力が驅逐されてブルジョア支配が確立し、資本主義的發展の前提をなすのである。

第三期
一九二八年コミンテルンの第六回大會において、大戰後の危機（第一期）、その後の安定（第二期）を經た現在の資本主義の革命的昂揚の時期を第三期と規定した。この第三期の重な特徴として帝國主義戰爭勃發の危機、革命的昂揚の成熟の二つがあげられてゐる。

第三史觀
唯物史觀でもなく、唯心史觀でもなく、物心兩者が社會の歷史的發展を制規すると觀る解釋である。

打倒帝國主義
中國に於ける帝國主義列強からの民族解放運動であり、軍閥討伐運動、中國統一運動で同時に中國の無產階級運動であり、更らに國際帝國主義の一片を斷ち切る點において國際無產階級運動の一翼でもある。大正十二年七月十三日北京で反帝國主義大聯盟が組織され、その後中國共產黨、中國國民黨の指導により「打倒帝國主義」が全國的に行はれる樣になつた。

永小作
世襲小作ともいふ。小作人の農地の使用・收益の權利が普通の小作の場合よりも強く、その年限も非常に永く小作人はその小作權を自由に相續・賣買又は他人に貸付けることが出來るのである。我が國では近時大變

少なくなつた。

エス・オー・エス（S・O・S）
Save Our Soul の頭文字をとつたもので船舶の海難救援信號であるが、これより窮急救濟を要する場合にも轉用されてゐる。

ゴンパース主義
協調主義のこと。アメリカのA・F・Lの會長ゴンパースが有名な協調主義者であつたのでこの名がある。

八・一デー闘爭
國際反戰デーの項參照。

反宗教運動
無產大衆をあらゆる型態の宗教的觀念から解放して、これにマルクス、レニン主義的世界觀を注入するをその目的とし、「あらゆる型態の宗教を撲滅しろ」「宗教的奉財寄附を徹底的に拒絕しろ」「加持祈禱を撲滅しろ」等をスローガンとしてかゝげてゐる。

ハンスト
ハンガー・ストライキの略稱、その項參照。

反戰カンパニア
帝國主義戰爭反對闘爭のこと。國際反戰デーの項參照。

反ソ戰線
ソヴイエト・ロシアを壓迫するためにフランスの帝國主義者等を中心とする幾多の政治的、軍事的同盟が企てられた、即ちバルチック沿岸諸國を結ぶソヴイエト包圍線、歐洲聯盟案等がこれであり、また產業黨事件、宗教十字軍或は最近のロシアのダンピング、強制勞働の逆宣傳等はその一翼であると言つてゐる。

法廷指合
公判廷において答辨に名を藉りて指令めいた言動をなし傍聽者を通じてその效果を收めんとすること。

統帥上奏權
參謀本部、海軍軍令部は國防用兵に關しては內閣の外にあつて、天皇に直屬し、獨立して計畫、上奏しうる權利をいふ。從つて軍部は國防、用兵—作戰計畫、外國への軍隊派遣、動員、軍隊の配置等—に關しては責任を政府にも議會にも負はないのである。

意識闘爭
理論闘爭と同じ、その項參照。

從業員組合主義
產業別組合組織の一變型で、事業主の資本系統に捉ふ

て全從業員を一組合に組織せんとするものである。

壁小說　壁新聞と同類であつて、勞働者の集會所、食堂、控所等に貼付して多數の閱讀に供する短篇小說である。從つて勞働者農民が從事してゐる生產點において直ちに消化され、勞働者農民の血となり肉となる文學であり、その內容も單純なものが多い。

官許デモ　メーデー等の場合は集合場所、人員、通行道筋等を豫め屆出で、官憲の許可をうくる必要がある。かく當局の諒解の下に行ふ運動、ひいては右翼系の手ぬるい運動を極左分子が冷評したものである。

關稅政策　勞働運動上用ひられるときは帝國主義時代の關稅政策のことである。即ち高率な輸入稅を設けて自國市場から外國商品を驅逐してその獨占を企ふし、同時にそれを利用して商品價格をつり上げ自國民から多額の剩餘利潤を搾出し、以つて外國市場獲得のために行ふダンピングの原動力を得んとする政策であつて、それは必然に關稅領域の擴大を企圖するが故に帝國主義戰爭を誘發し易いといはれてゐる。

共同耕作　小作爭議の一戰術である。即ち地主が立入禁止を行はんとする情勢があつた場合小作人は共同耕作、共同植付けを以つてこれに對抗し、又立毛差押のときには共同刈取をなし、大衆的示威を兼ねた防衛の鬪爭を行ふのである。

クレスト・インテルン（Kresintern）　モスコーの國際赤色農民組合同盟のこと、一九二三年八月農民インタナショナル創立の議が起り、同年十月第一回國際農民大會が開かれ二十ケ國の參加があつた。貧農組織、戰爭反對、ファシズム排擊、農民と勞働者の結合、協同組合運動をその主な綱領としてゐる。

經濟的危機　最近の深刻な世界的の不況を左翼的にいひ表したもので、資本主義諸國における經濟恐慌の尖銳化、生產の減退、失業者の增大、原料品・農產物の値下り、株式指數の低下、破產數の增大等の全般的不況の傾向を總稱したものである。

經濟的基礎

政治的基礎に對する語、勞働者と資本家、小作人と地主との搾取關係を具體的事實によつて暴露し、勞働者や農民を覺醒せしめてこれを組織化し、經濟鬪爭に進展せしめんとするのである。

經濟鬪爭　勞働者農民の日常經濟的利益確保のために直接に資本家、地主に對して行はれる鬪爭で政治鬪爭に對する語、又部分的鬪爭、日常鬪爭等ともいふ。勞農組合は經濟鬪爭を主な目的として組織された無產階級の機關である。

建國大綱　孫文が民國十三年四月發表したもので三民主義の實行方法を確定したもので全文二十條よりなり、その內容は先づ革命の主義、主張を述べ、次ぎにその實行方法をあげてゐる。

建國方略　孫文が國民黨に遺した遺訓の一つである。即ち革命は非常な破壞運動であるから非常の努力を以つて建て直すべきであるといふ根據から心理建設、物質建設、社會建設の三部門に亘つてその方略をさづけてゐる。

國際赤色デー　國際反戰デーのこと、その項參照。

國際無產青年デー　一九一五年ベルンに各國の社會主義者が會合し、毎年九月の第一日曜日を反帝國主義の國際的鬪爭デーと決議したに初り、漸次盛に行はれてゐる。

國際反戰デー　一九一四年八月一日に世界大戰の火蓋がきられたので、一九二八年のコミンテルン第六回大會に於いてこの日を帝國主義戰爭反對、ソヴイエト・ロシア同盟の擁護の國際的鬪爭日ときめた、我が國では潛行的に行はれてゐる。帝國主義戰爭の項參照。

國際勞働會議　ベルサイユ條約により國際聯盟が設置した國際勞働機關の一つで、勞働問題に關する假條約や、勸告の草案を作るをその職分としてゐる。

國際勞働事務局　國際聯盟の下にあつて國際勞働會議とならぶ國際勞働機關で、科學部と外交部とに別れ、前者は國際勞働事情の調査報告書の整理、出版等をその任務とし、後者

は各國政府との通信、各國勞働機關との聯絡を司つて居り國際勞資協調機關の一つである。

耕地返還

もとは小作人の要求が容れられなかつた場合に小作人が小作契約を破棄し、耕地を地主に返して地主を手古摺らしたのであるが、現今では小作契約につき紛議が起つた場合地主が任意解約して耕地返還の要求をなし、その假處分として立入禁止を行ふのである。

公判鬪爭

昭和六年七月共產黨事件の東京における公判の際彼告、左翼分子等によつて行はれたもので「日本共產黨・全協の組織活動の自由」「裁判の絕體統一公開」「共產黨被告その他一切の階級的政治犯人の即時釋放」等のスローガンをかゝげて宣傳、運動を行つた。

コント（Conte）

小話、短篇小說等の意。

マス・ストライキ（Mass Strike）

大衆罷業のこと、總同盟罷業はその例、その項參照。

無產階級革命

プロレタリア革命のこと、その項參照。

無產者モラトリアム

無產大衆の借金支拂猶豫、借金元利棒引要求のこと。

メツセージ（Message）

挨拶狀、親辭のこと。

桃色インタナショナル

第二牛インタナショナルのこと、その項參照。その主義綱領が中間的で不徹底なのでこの別稱が出來た。

日常鬪爭

經濟鬪爭のこと、その項參照。

態度

去就不鮮明なる態度のこと、一種の機會主義的態度である。もとは猿、虎、蛇合悅の異獸の名である。

大立物

斯界の多數の人々からあがめられてゐる人をいふ。もとは芝居でその一座中技倆の最も優れた代表的役者のことを意味してゐた。

オール（All）

皆、凡ての意であるが、あの工場はオールだといへば「あの工場は締付工場だ」といふ意。

オールマイテイ（Allmighty）

何事でも出來ぬことのない、全智全能といふ意。

ピー・ピー（P・P）

日本プロレタリア美術家同盟の略稱で、全日本無產者藝術家團體協議會に屬してゐる。その項參照。

プロレタリア革命

無產階級革命のこと、社會主義政策を實現するためにプロレタリアがブルジョアの手から政權を奪取する革命をいふ。一九一七年十一月のロシア革命がこの實例である。このプロレタリア革命の完成には精神的革命、政治的革命、經濟的革命、技術的革命の四段階を通過するものであるといはれてゐる。

プロレタリア・ヘロイズム

左翼の小說・演劇等で前衛鬪士の姿を描く場合にはブルジョア個人主義的な英雄としてゞはなく、プロレタリア大衆の指導者としての姿を描くべしとなす理論である。

綠色インタナショナル

スラブ系の農民組合、農民黨によつて組織されてゐる。これはブルガリアの農民同盟の首領で世界最初の農民黨政府の首相アレキサンダー・スタンブリスキーの指導の下にあり、その目的は農村からブルジョア勞働者の勢力を驅逐して中小農民の手に政權を獲得せんとするにある。

勞藝

勞農藝術家聯盟の略稱、プロレタリア藝術聯盟から昭和二年六月脫退したもので「文藝戰線」―昭和六年に入つて「文戰」と改名―を機關誌としてゐる。

勞働の攻勢

無產運動が發展し、勞働者が種々の經濟的要求を着々と獲得し、資本家が受動的にこれを喰止めること、大戰中及び大戰直後は勞働攻勢の時代であつた。尙資本の攻勢の項參照。

勞働者農民の政府

プロレタリアの獨裁と同じ意味である。その項參照。

勞農■結

勞働者階級と農民階級とが各々の解放運動のために無產階級として團結せよといふのである。目下ロシアで高唱されてゐる「スミチカ」はこの團結を意味してゐる。レニンは「勞働者階級の解放は農民の支持なくしては不可能であり、農民の解放は都市勞働者の指導なくし

ては不可能である」といつてゐる。

サンジカリスト・インタナショナル
第四インタナショナルのこと、その項参照。

資本主義の一般的危機
世界大戦後における資本主義経済組織の動揺、即ち社會主義經濟組織を採つてゐるソヴイエト・ロシアと資本主義諸國との對立、ロシアの發展的建設、資本主義諸國の内部における矛盾の發展・擴大等の傾向を總稱して資本主義の一般的危機といつてゐる。

資本の攻勢
財界の恐慌期によく行はれるもので、即ち經濟的には勞銀の引下げ、勞働時間の延長、解雇等により、政治的には種々の反動的な立法を制定して勞働者の團結・運動を抑壓するといふのである。
資本攻勢のときは勞働守勢のときで勞働者は一歩前進するよりもその陣營の防禦、受動的鬪爭に力を集中するときである。

社會ファシスト
左翼の見解によれば、社會民主主義は漸次右傾化して最近においてはブルジョアの主要な社會的支柱の一つとなつてゐる、この一派のもの即ち最右翼のものを社會ファシストと指稱してゐる。イタリーのファシストから轉用された語。

社會民主主義
二義がある、即ち歐洲大戰前の社會民主主義とは眞正マルクス主義と同一の意味であつて、それには右翼と左翼の兩者を包藏してゐたが、大戰後二分して右翼は議會主義に、左翼は無產革命主義となつた。而して大戰後はこの右翼を社會民主主義と呼び、左翼を共產主義といふ樣になつた。この廣意味と新意味とは明確に區別されねばならぬ。

宗教十字軍
一九三〇年ローマ法皇レオ十三世がロシアに於けるキリスト教徒の迫害を高唱し、諸國の宗教家を叫合して反ソ戰線の一翼たらしめんとしたこと。

職業的革命家
革命運動のために生活を犧牲にしてゐるもので專門的革命家である。革命運動によつて生活費を得てゐるものは商賣的革命家といふ。

新共產黨宣言

一九一九年三月モスコーにおいて開かれた第三インタナショナルの創立大會において發表された宣言の別稱で、レニン主義をその指導原理としてゐる。

侵略社會主義
受國社會主義のこと。ショビニズムの項參照。

ステートメント (Statement)
聲明書、宣言書、趣意摘要文のこと。

政治的危機
一般的には内閣の危機の意味にも用ひられてゐるが左翼分子のいふところによれば、大戰後各國におけるプロレタリヤ運動の昂揚、その結果必然的に生ずるブルジョア支配權の動搖、革命的情勢の切迫等政治上の全般的情勢を指稱してゐる。

政治的罷業
直接勞資の關係に關する罷業ではなく政治的、社會的要求を強制するを目的とする罷業である。例へば鑛山及び鐵道等の國有、最低賃銀制、八時間勞働制等の要求のために行ふ罷業のことである。これ等はその根本においては經濟的であるが、その行動が直接に事業主に向つてなされてゐるのではなく、政府又は當局になされてゐるのが常である。

政治鬪爭
經濟鬪爭が個々の資本家、地主に向けられてゐるに對し、政治鬪爭とは一つの制度、政治的權力に對する無產階級の鬪爭で、全體鬪爭ともいふ。無產階級は先づ經濟鬪爭に入り階級意識が高まるにつれて政治鬪爭をひき起すに至るものである。無產政黨はこの政治鬪爭を主として指導する無產階級の機關である。

赤色自衛團
無產者が白色テロル防衛のために組織する自衛團。

赤色スポーツ
赤色スポーツは形態は在來のスポーツと何等異るところはないが、その精神が全然變つて居る、即ち後者が精力的に競技本位であるに反し、前者は階級的集團行動の訓練をその目的としてゐる。最近左翼分子は工場にこれを確立せんと努力して居る。

總同盟罷業 (General Strike)
一國又は一地方の全主要產業勞働者の罷業の意味であるが、普通一地方又は全國の一產業の全勞働者の罷業の意味にも用ひられてゐる。從つてある一つの工場に

おける勞働者全員の罷業の場合等に總同盟罷業といふのは妥當でない。

帝國主義戰爭

左翼分子は帝國主義的政策の必然的結果として目下三つの型の戰爭の危機が醸されつゝあるといつてゐる。即ち世界市場再分割のための帝國主義國相互間の戰爭、對ソヴイエト干涉戰爭、殖民地・半殖民地の獨立運動を壓迫する戰爭がそれである。無產階級はこれ等の戰爭に對し絶對反對の意を表明し「敵は自國の中にあり」「プロレタリアの祖國ソヴイエト・ロシアを守れ」「殖民地の獨立運動を支持せよ」等のスローガンを掲げて反戰運動をしてゐる。

八月一日は第一次帝國主義戰爭（世界大戰）の宣戰布告日に當るといふので左翼分子はこの日を以つて反戰デーとなし、種々の反戰運動を行つてゐる。

敵本主義

ある目的を達するために別の手段を恰も目的らしく見せること、即ちある手段に僞裝して實際上の目的を達するやり方をいふ。明智光秀の「敵は本能寺にあり」から來た語である。

特權階級

歷史的な特權によつて大なる政治的權力を有する階級を指す。

トラ

ウルトラの略稱である。デマ・トラとは逆宣傳を飛ばすウルトラといふ意。又スパ・トラ（スパイ・ウルトラ）といふのもある。

吉合世界主義

立場、意見の相違を度外視し、先づ組合と組合とが合同して然る後にその意見を合致せしめんとするもので主義、主張を抜きにして戰線の統一を主張する主義、二重組合主義に對する語である。

前衞

昭和二年十一月農勞藝術家聯盟から脫退した藤森成吉、林房雄氏一派の前衞藝術家同盟の略稱で「前衞」はこの機關誌であつた。翌三年四月プロレタリア藝術聯盟と合同して全日本無產者藝術聯盟を結成した。全日本無產者藝術團體協議會の項參照。

前線

昭和六年五月勞農藝術家聯盟から脫退した第二文戰打

倒同盟の機關誌である。

全體的鬪爭

政治鬪爭のこと、その項參照。

全協內劉新同盟

昭和五年二月異分子の除名問題にからんで「幹部の宗派主義、日和見主義、敗北主義と徹底的に鬪爭し、全協を強化する」を目的として反幹部派が全協內部に結成したものであるが、同年八月プロフインテルンの第五回大會において痛烈な批判を受け、昭和六年三月兩派合同し劉新同盟も漸く消滅するに至つたが、一時は兩派互に縞をけづり合ひ、當時苦境にあつた全協を更らに不振ならしめた。

主要無産政黨・労働組合一覧表

（昭和六・七・二〇日現在　協調會大阪支部調査）

東京市芝區田村町六六荒木ビル内
昭和六年七月五日創立

中央執行委員長　鉄　久
書記長　麻生壽壯
勞働組合對策部長　三輪密
國際部長　阿部茂夫
農民組合對策部長　田所輝明
選擧部長　淺沼稻次郎
調査部長　宮崎龍介
事業部長　鈴木茂三郎
議會對策部長　平野學
青年部長　中村高一
婦人部長　田部井健次
宣傳部長　山崎劍二
教育部長　石原美行
財政部長　森田喜一郎
顧問　堺利彥
　高野岩三郎
　杉山元治郎
　松谷與二郎
　山崎今朝彌

（表一）

神奈川自治黨

橫濱市中區橋通三丁目三
昭和二年八月創立
書記長　山下義一
主要支持團體　日本造船勞働聯盟（一部）

淡路無產黨

兵庫縣州本町
昭和五年十一月創立
執行委員長　中村貞夫

統一無產黨

神戸市御崎本町三ノ八四
昭和五年三月創立
執行委員長　青柿善一郎
主要支持團體　神戸合同勞働組合

社會民衆黨

東京市芝區南佐久間町一ノ五五
大正十五年十二月五日創立

中央執行委員長　安部磯雄
書記長　赤松克麿
調査部長　松永義雄
組織部長　赤松克麿
宣傳部長　龜井貫一郎
選擧部長　小池四郎
機關紙部長　赤松克麿
事業部長　龜田一郎
教育部長　原彪
青年部長　佐藤吉熊
婦人部長　松永義雄
國際部長　龜井貫一郎
出版部長　龜田一郎
會計　龜田造作
顧問　吉野作造
　　馬場恒吾
　　鈴木文治
　　白柳秀湖
　　今井嘉幸
　　田國太郎

主要支持團體

日本勞働總同盟
官業勞働總同盟
日本海員組合
海員協會
海軍勞働組合聯盟
日本製鐵勞働組合聯合會
芝浦同志聯盟
八幡職夫勞働組合
日本港灣從業員組合聯盟
全日本自動車從業員組合
日本農民組合
日本造船勞働聯盟（一部）
全國俥給者協會
工友同志會
東京交通勞働組合（有志）
社會民衆婦人同盟
日本借家人組合
橫濱仲仕共濟會（一部）
東京映畫說明者向上會
社會青年同盟
全國勞働組合同盟
日本勞働組合總聯合
窯業勞働總同盟
東京市從業員組合
日本勞働組合（一部）
總評議會
橫濱市從業員組合
大阪市電自助會（一部）
大阪市電愛友會
神戸市電從業員組合
東京出版勞働組合
中央一般勞働組合
東京協働會
神戸市從業員組合
東京瓦斯工組合
東電從業員組合
東京交通勞働組合（一部）
東京郊外電鐵從業員友會（一部）
橫濱市電共和會（一部）
蒲田勞友會（一部）
全國農民組合（一部）
栃木農民組合
山形縣農民組合
山梨農民組合東部聯盟
高知農民組合
長崎縣農民組合
南甕農民組合
知多農民組合
全國サラリーマン組合
關東俥給生活者組合
全國借家人同盟
借家人組合全國同盟
全國水平社（一部）
借家人組合總聯合
無產婦人同盟

（表一）

全國勞農大衆黨

東京市芝區田村町六六荒木ビル內
昭和六年七月五日創立

中央執行委員長　鈸
書記長　麻生久
勞働組合對策部長　三輪壽壯
機關紙部長　河野密
國際部長　阿部茂夫
農民組合對策部長　田所輝明
組織部長　淺沼稻次郎
選擧部長　宮崎龍介
調査情報部長　鈴木茂三郎
事業部對策部長　平野學
議會部長　中村高一
青年部長　田部井健次
教育部長　山崎劍二
宣傳部長　石原美行
婦人部長　高信
財政部長　森田喜一郎
顧問　堺利彥
　　室伏高信
　　山崎今朝彌
　　杉山元治郎
　　松谷與二郎
　　高野岩三郎

地方政黨

關西民衆黨

大阪市北區相生町六三
大正十五年一月創立
執行委員長　八木信一
主要支持團體　日本勞働總聯盟

神奈川自治黨

橫濱市中區橋通三丁目三
昭和二年八月創立
書記長　山下義一
主要支持團體　日本造船勞働聯盟（一部）

淡路無產黨

兵庫縣州本町
昭和五年十一月創立
執行委員長　中村貞夫

統一無產黨

神戸市御崎本町三ノ八四
昭和五年三月創立
執行委員長　青柿善一郎
主要支持團體　神戸合同勞働組合

（表二）

調査部長 齋藤健一
教育出版部長 重廣虎雄
婦人部長 三木治朗
社會部長 福岡金次郎
中央爭議部長 松岡駒吉

- 關西勞働同盟會
  - 東京鐵工組合
  - 東京革工組合
  - 東京自動車勞働組合
  - 東京水道同志會
- 中四聯合會
  - 福山勞働組合
  - 因島勞働組合
  - 廣島勞働組合
  - 中國紡織勞働組合
  - 三原合同勞働組合
  - 向島造船勞働組合
- 九州聯合會
  - 長崎勞働組合
  - 小倉仲仕勞働組合
  - 下關運輸勞働組合
  - 日本石炭坑夫組合
  - 粕屋勞働組合
  - 門司印刷工組合
  - 關彥金屬勞働組合
- 愛知縣聯合會
  - 刈谷勞働組合
  - 名古屋陶畵工組合
  - 新川勞働組合
- 岐阜縣聯合會
  - 中部紡織勞働組合
  - 美濃電鐵從業員組合
- 地方部
  - 新宮共愛會
  - 金澤合同勞働組合
  - 敦賀勞働組合
  - 製綱勞働組合
  - セメント勞働組合

本部直屬

日本勞働總同盟

東京市芝區三田四國町
大正元年八月創立

會長　鈴木文治
主事兼會計　松岡駒吉
中央委員　原虎一　齋藤健一　德永正報　中濱藤次　三木治朗　當清　土井直作　西尾末廣　金正米吉　塚本重藏　今津菊松　金光平　伊藤卯四郎

政治部長　西尾末廣
法律部長　片山哲
國際部長　赤松克麿
組織部長　原虎一
調査部長　齋藤健一
教育出版部長　重廣虎雄
婦人部長　三木治朗
社會部長　福岡金次郎
中央爭議部長　松岡駒吉

關東勞働同盟會

東京聯合會

- 東京鐵工組合
- 東京革工組合
- 東京清掃同志會
- 中央硝子工組合
- 運輸勞働組合
- 遞友同志會
- 日本縫工組合
- 東京自動車勞働組合
- 東京水道同志會
- 八王子勞働組合
- 中央合同勞働組合
- 出版印刷勞働組合
- 紡織勞働組合

神奈川聯合會

- 神奈川合同勞働組合
- 神奈川石油勞働組合
- 神奈川電氣勞働組合
- 神奈川鐵工組合
- 神奈川製材勞働組合
- 染色勞働組合

地方部

- 札幌勞働組合
- 秋田樽丸工組合
- 岩手合同勞働組合
- 群馬交通勞働組合
- 關東釀造勞働組合
- 秋田製材勞働組合
- 常盤炭鑛夫組合
- 埼玉勞働組合
- 前橋勞働組合

關西勞働同盟會

大阪聯合會

- 大阪金屬勞働組合
- 大阪印刷出版勞働組合
- 大阪紡織勞働組合
- 關西運輸勞働組合
- 泉南地方協議會
- 大阪合同勞働組合
- 大阪陶業勞働組合
- 大阪製鋼勞働組合
- 電線工組合

京都聯合會

- 京都運輸勞働組合
- 京都紡織勞働組合
- 陶工組合
- 京都合同勞働組合
- 日本人絹勞働組合

兵庫縣聯合會

- 尼崎金屬勞働組合
- 尼崎硝子工組合
- 尼崎紡織勞働組合
- 灘運輸竹工組合
- 灘紡織勞働組合
- 尼崎合同勞働組合
- 尼崎木管工組合
- 灘製樽工組合
- 灘合同勞働組合

中四聯合會

- 福山勞働組合
- 因島勞働組合
- 廣島勞働組合
- 中國紡織勞働組合
- 三原合同勞働組合
- 向島造船勞働組合

九州聯合會

- 長崎勞働組合
- 小倉仲仕勞働組合
- 下關運輸勞働組合
- 日本石炭坑夫組合
- 箱屋勞働組合
- 門司印刷工組合
- 關彥金屬勞働組合

愛知縣聯合會

- 刈谷勞働組合
- 名古屋陶藝工組合
- 新川勞働組合

岐阜縣聯合會

- 中部紡織勞働組合
- 美濃電鐵從業員組合

地方部

- 新宮共愛會
- 金澤合同勞働組合
- 敦賀勞働組合
- 製綱勞働組合
- セメント勞働組合

本部直屬

地方部

（表二）

出版部長　內田佐郎
法律部長　三輪壽壯
政治部長　大矢省三
國際部長　山內鐵吉
婦人部長　茅野眞好
顧　問　高橋岩三郎
　　棚橋小虎

- 東京地方聯合會
  - 關東合同勞働組合
  - 關東金屬產業勞働組合
  - 東京地方自由勞働組合
  - 日本遞友聯盟
  - 關東木材產業勞働組合
  - 關東硝子產業勞働組合
  - 關東新聞從業員組合
  - 日本運輸勞働組合
  - 關東革技工組合
  - 東京乘合自動車現業員會
  - 全國印刷勞働組合
- 播州地方聯合會
  - 高砂製紙勞働組合工友會
  - 播州合同勞働組合
  - 高砂合同勞働組合
- 中國聯合會
  - 福山勞働組合
  - 廣島自由勞働組合
  - 福山合同勞働組合
  - 中國紡織勞働組合
  - 廣島合同勞働組合
  - 關彥鐵工勞働組合
- 高知縣聯合會
  - 高知合同勞働組合
  - 高知海上勞働組合
  - 高知印刷出版勞働組合
  - 海南合同勞働組合
  - 高知製紙勞働組合
  - 土佐電氣勞働組合
- 九州聯合會
  - 長崎交通勞働組合
  - 九州合同勞働組合
  - 長崎合同勞働組合
  - 九州海員向上會
  - 諫早一般勞働組合
- 本部直屬
  - 北海道聯合會
  - 西部鑛山勞働組合
  - 日本紡織勞働組合
  - 日本鑛夫組合

（表　三）

全國勞働組合同盟

東京市神田區東福田町二
昭和五年六月一日創立

中央執行委員長 大矢省三
主事兼會計 上條愛一
關西事務局長 山內鐵吉
統制委員長 藤岡文六
統制委員 加藤勘十外五名
中央委員 望月源治 菊川忠雄 石橋憲一 金井芳次 高梨不二夫 茅野眞好 稻森末吉 山口常治郎 中島英信 鈴木悅次郎 高橋松次 今村等 安藝盛

組織部長 望月源治
宣傳部長 山口常次郎
爭議部長 鈴木悅次郎
調査部長 菊川忠雄
教育部長 內田佐郎
出版部長 三輪壽壯
法律部長 大矢省三
政治部長 山內鐵吉
國際部長 茅野眞好
婦人部長 高橋岩三郎
顧問 棚橋小虎

東京地方聯合會

- 關東合同勞働組合
- 關東金屬產業勞働組合
- 東京地方自由勞働組合
- 日本遞友聯盟
- 關東木材產業勞働組合
- 關東硝子產業勞働組合
- 關東新聞從業員組合
- 日本運輸勞働組合
- 關東羊技工組合
- 東京乘合自動車現業員會
- 全國印刷勞働組合

神奈川縣聯合會

- 橫濱港灣勞働組合
- 橫濱運輸勞働組合
- 關東船夫勞働組合
- 川崎合同勞働組合
- 橫濱製材工組合
- 神奈川一般勞働組合
- 關東筏從業員組合
- 內務省土木從業員組合
- 土木建築勞働組合
- 橫濱交通勞働組合
- 神奈川縣家具製作所從業員組合
- 關東染色勞働組合
- 鶴見鐵工組合

地方部

- 東北合同勞働組合
- 郡山勞働組合
- 長岡勞働者向上會
- 本庄自由勞働組合
- 大谷石材勞働組合

大阪聯合會

- 大阪金屬勞働組合
- 大阪出版印刷勞働組合
- 大阪市港灣部從業員組合
- 大阪建築勞働組合
- 大阪合同勞働組合
- 大阪莫大小從業員組合
- 大阪市保健部從業員組合
- 大阪プラシ工組合
- 大阪纖維勞働組合
- 大阪運輸勞働組合
- 大阪電氣從業員組合
- 大阪自働車勞働組合

京都聯合會

- 京都印刷勞働組合
- 京都出版產業勞働組合
- 京都司厨勞働組合
- 全國映畫從業員組合
- 京都一般勞働組合
- 京都更紗工組合
- 西陣貿業者組合
- 京都木材勞働組合
- 京都纖維勞働組合
- 西陣織物勞働組合

滋賀聯合會

- 滋賀人絹勞働組合
- 滋賀合同勞働組合

兵庫縣聯合會

- 尼崎金屬勞働組合
- 尼崎硝子工組合
- 關西金屬勞働組合
- 神戸ゴム工組合
- 淡路合同勞働組合
- 尼崎紡織勞働組合
- 灘合同勞働組合
- 神戸勞働組合
- 屋外勞働組合
- 尼崎合同勞働組合
- 關西合同勞働組合
- 神戸金屬勞働組合
- 硝子工組合

播州地方聯合會

- 高砂製紙勞働組合工友會
- 播州合同勞働組合
- 高砂合同勞働組合

中國聯合會

- 福山勞働組合
- 廣島自由勞働組合
- 福山合同勞働組合
- 中國紡織勞働組合
- 廣島合同勞働組合
- 關彥鐵工勞働組合

高知縣聯合會

- 高知合同勞働組合
- 高知海上勞働組合
- 高知印刷出版勞働組合
- 海南合同勞働組合
- 高知製紙勞働組合
- 土佐電氣勞働組合

九州聯合會

- 長崎交通勞働組合
- 九州合同勞働組合
- 長崎合同勞働組合
- 九州海員向上會
- 諫早一般勞働組合

本部直屬

- 北海道聯合會
- 西部鑛山勞働組合
- 日本紡織勞働組合
- 日本鑛夫組合

日本勞働組合總聯合

昭和六年四月十八日創立

執行委員長　安島高行
執行委員　山崎常吉
山花秀雄
外四名

- 關西地方評議會
  - 大阪地方評議會
    - 大阪金屬者勞働組合
    - 大阪勞働組合聯盟
    - 全大阪紡織勞働組合
    - 關西電氣從業員組合
  - 神戸地方評議會
    - 神戸金屬勞働組合
    - 神戸出版勞働組合
- 本部直屬
  - 青森一般勞働組合
  - 桐生一般勞働組合
  - 西川木材勞働組合
  - 高知縣自動車運轉手組合
- 東京工勞組合
  - 關東染色勞働組合
  - 關東硝子產業勞働組合
  - 關東メリヤス工組合
  - 日本勞技會
  - 日本精技會
  - 京濱勞働技友會
  - 純勞働者組合
- 東京聯合會
  - 全大阪木材勞働組合
  - 大阪化學勞働組合
  - 大阪出版勞働組合
  - 紀和合同勞働組合
  - 神戸化學產業勞働組合
  - 若松新聞配達組合
  - 水戸合同勞働組合
  - 秩父自動車從業員組合
  - 全九州勞働組合
  - 會津一般勞働組合
  - 桐生友禪工組合
  - 埼玉合同勞働組合
  - 下關自由勞働組合

（備考　日本勞働組合總評議會に加盟豫定の組合）

（表　四）

（表　四）

日本勞働組合總聯合

東京市芝區三田四國町一五
大正十五年二月創立

中央執行委員長　坂本孝三郎
中央執行委員　高山久藏
皆川利吉
新井兵太郎
森榮一
佐藤恕
末中勘三郎
橋本定吉
佐野好男
奥平弘之
今井武吉
高橋峯吉
宗垣幸一
高橋亀吉
山崎今朝彌

會計監査
顧問

關東地方聯合會

- 東京聯合會
  - 東京工勞組合
  - 關東硝子產業勞働組合
  - 日本勞技會
  - 京濱勞働技友會
  - 安立電機從業員組合
- 神奈川縣聯合會
  - 横濱製菓工組合
  - 横濱土木勞働組合
  - 横濱一般勞働組合
  - 京濱出版勞働組合
- 大阪聯合會
  - 大阪鐵工組合
  - 大阪硝子工組合
  - 大阪印刷同進會
  - 大阪皮革工組合
  - 全日本紡織勞働組合
  - 泉州一般勞働組合
- 神戸聯合會
  - 神戸造船勞働組合
  - 關西硝子工組合
- 愛知縣聯合會
  - 名古屋硝子工組合
  - 關東染色勞働組合
  - 關東メリヤス工組合
  - 日本精技會
  - 純勞働者組合
  - 荏原地方從業員組合
  - 横濱メリヤス工聯盟
  - 横濱金屬勞働組合
  - 京濱船夫組合
  - 川崎勞働組合
  - 大阪電機技工組合
  - 共愛勞働組合
  - 纖維勞働組合
  - 大阪一般勞働組合
  - 堺鐵工組合
  - 神戸一般勞働組合
  - 名古屋一般勞働組合

日本勞働組合總評議會

昭和六年四月十八日創立

執行委員長　安島高行
執行委員　山崎常吉
山花秀雄
外四名

北海道地方評議會

- 全小樽勞働組合
- 帶廣出版勞働組合
- 札幌一般勞働組合
- 帶廣自由勞働組合
- 帶廣木材勞働組合

關東地方評議會

- 關東勞働者組合
- 神奈川合同勞働組合
- 東京金屬勞働者組合
- 出版產業勞働組合
- 横濱合同勞働組合

中部地方評議會

- 中部金屬勞働組合
- 中部合同勞働組合
- 中部草履工組合
- 中部地方木材勞働組合
- 中部合同勞働組合

關西地方評議會

- 京都地方評議會
  - 京都陶磁器工組合
  - 京都皮革工組合
  - 京都運輸自由勞働組合
- 大阪地方評議會
  - 大阪金屬者勞働組合
  - 大阪勞働組合聯盟
  - 全大阪紡織勞働組合
  - 關西電氣從業員組合
  - 全大阪木材勞働組合
  - 大阪化學勞働組合
  - 大阪出版勞働組合
  - 紀和合同勞働組合
- 神戸地方評議會
  - 神戸金屬勞働組合
  - 神戸出版勞働組合
  - 神戸化學產業勞働組合

本部直屬

- 青森一般勞働組合
- 桐生一般勞働組合
- 西川木材勞働組合
- 高知縣自動車運轉手組合
- 會津一般勞働組合
- 桐生友禪工組合
- 埼玉合同勞働組合
- 下關自由勞働組合
- 若松新聞配達組合
- 水戸合同勞働組合
- 秩父自動車從業員組合
- 全九州勞働組合

（備考　日本勞働組合總評議會に加盟豫定の組合）

日本造船勞働聯盟
横濱中區橋町三ノ六
大正十五年五月創立
中央執行委員長　佐藤幸太郎
主事　永野敏

東京官業勞働組合同盟
浦賀船渠工愛會
石川島自疆組合
南北運輸船夫交友會

東京工廠從業員組合
淀橋煙草勞働組合

（表五）

日本窯業勞働總同盟
名古屋市東區山口町二一
昭和二年五月創立
主事兼會計　荒谷宗治

東濃聯合會
駄和製陶勞働組合
上田陶友會
瑞浜土岐津窯業勞働組合

東春聯合會
瀬戸陶工組合
上品野陶工組合

肥田村製陶勞働組合
土岐津窯業勞働組合

下石町瓦工同業組合
泉町陶瓦工組合

下品野陶工組合

瀬戸硝子工組合

官業勞働總同盟

大阪市東區越中町八六〇
大正十三年二月創立

會長　賀川豊彦
中央委員長　西浦宇吉
主事　川村保太郎

- 東京官業勞働組合同盟會
- 關西同盟會
- 九州同盟會

日本交通勞働總聯盟

東京市麹町區內幸町幸ビル內
大正十三年十一月創立

常任執行委員長　古崎平三郎
常任執行委員　渡邊吾一郎
諸角愛國
竹內昌平

- 東京交通勞働組合
- 中部交通勞働組合
- 神戸市電從業員組合

海軍勞働組合聯盟

吳本町通十二丁目十番ノ五
大正十三年三月創立

常任執行委員　宮崎繁市
加藤勝藏
主事　野村隆

- 橫廠工友會
- 吳海工會
- 佐世保勞愛會

日本造船勞働聯盟

橫濱中區楠町三ノ六
大正十五年五月創立

中央執行委員長　佐藤幸太郎
主事　永野敏

- 浦賀船渠工愛會
- 石川島自疊組合
- 南北運輸船夫交友會

日本窯業勞働總同盟

名古屋市東區山口町二一
昭和二年五月創立

主事兼會計　荒谷宗治

- 東濃聯合會
  - 駄和製陶勞働組合
  - 上田陶友會
  - 瑞泥土岐津窯業勞働組合
- 東春聯合會
  - 瀨戸陶工組合
  - 上品野陶工組合
  - 肥田村製陶勞働組合
  - 土岐津窯業勞働組合
  - 下品野陶工組合
  - 下石町瀨工同業組合
  - 泉町陶瀨工組合
  - 瀨戸硝子工組合

- 東京工廠從業員組合
- 向上會
  - 大阪市從業員組合
  - 名古屋煙草勞働組合
- 八幡同志會
- 淀橋煙草勞働組合
- 大阪煙草勞働組合
- 名古屋向上會
- 小倉革正會
- 橫濱市電共和會
- 大阪市電從業員自助會
- 函館水電從業員交誼會
- 平塚總愛會
- 廣廠工僚會
- 舞鶴共立會
- 德山燃工會

（表五）

大正十五年六月創立

委員 線引邦農人 古川修 大塚貞次郎 伏田六郎

合自由協議會 大阪印刷工組合 大阪琺瑯勞働組合 [illegible]

中國勞働組合自由聯合會 岡山縣紡織勞働組合 岡山一般勞働組合

地方部 和歌山一般勞働組合 岡山一般勞働組合

關東地方自由聯合協議會

東京市外大島町二〇 昭和五年五月創立

東京印刷工聯合會 東京機械工組合 關東一般勞働者組合

東京一般勞働組合

日本勞働組合全國協議會

日本電氣勞働組合 日本印刷出版勞働組合 日本醫務勞働組合

日本交通運輸勞働組合 日本木材勞働組合 日本通信勞働組合

日本纖維勞働組合 日本土木建築勞働組合 日本金屬勞働組合

日本食料勞働組合 日本一般使用人組合 日本化學勞働組合

失業者同盟

（表六）

日本勞働總聯盟

大阪市北區相生町六三
大正十一年十一月創立

會長 八木信一
副會長 片山善三郎
會計 中村鑑之助

- 官業勞働聯合會
  - 大阪官業勞働組合
  - 名古屋官業勞働組合
- 大阪聯合會
  - 大阪官業勞働組合
  - 大阪金屬勞働組合
  - 大阪石工勞働組合
  - 大阪河川勞働組合
  - 大阪合同勞働組合
  - 大阪電氣勞働組合
  - 大阪清掃勞働組合
  - 關西コルク勞働組合
  - 大阪製氷勞働組合
- 京都聯合會
  - 京都電氣勞働組合
  - 京都金屬勞働組合
- 本部直屬
  - 山口山陽無煙炭鑛勞働組合

日本港灣從業員組合聯盟

神戸市海岸通三ノ二六
昭和五年五月創立

會長 濱田國太郎
中央委員 赤崎寅藏
加藤清勝

- 東京海友同志會
- 橫濱海友同志會
- 名港海友同志會
- 大阪海友同志會
- 瀨戸內港灣從業員組合
- 門司海友同志會
- 下關海友同志會
- 戸畑海友同志會
- 長崎海友同志會
- 小樽海友同志會
- 山口縣海友同志會
- 鹿兒島海友同志會

關西勞働組合總聯盟

大阪市濱速區櫻川二丁目一〇八七
昭和五年五月創立

中央委員長 安倍隆一
書記長 椿繁夫
會計 久保田鵜松

- 金屬產業協議會
- 印刷產業協議會
- 化學產業協議會
- 本部直屬
  - 關西演劇映畫從業員組合
  - 大阪俸給生活者組合
  - 奈良合同勞働組合

全國勞働組合自由聯合會

東京市京橋區木挽町三ノ一〇
大正十五年六月創立

委員 綠引邦農人
古川修
大塚貞次郎
伏田六郎

- 關東地方勞働組合自由聯合
  - 東京印刷工聯合會
  - 橫濱地方勞働者聯盟
  - 新潟一般勞働組合
- 關西勞働組合自由協議會
  - 大阪印刷工組合
  - 大阪琺瑯勞働組合
  - 泉南紡織勞働組合
- 中國勞働組合自由聯合會
  - 岡山縣紡織勞働組合
  - 岡山一般勞働組合
- 地方部
  - 和歌山一般勞働組合
  - 岡山一般勞働組合

關東地方自由聯合協議會

東京市外大島町二〇
昭和五年五月創立

- 東京印刷工聯合會
- 東京機械工組合
- 關東一般勞働者組合
- 東京一般勞働組合

日本勞働組合全國協議會

- 日本電氣勞働組合
- 日本印刷出版勞働組合
- 日本醫務勞働組合
- 日本交通運輸勞働組合
- 日本木材勞働組合
- 日本通信勞働組合
- 日本纖維勞働組合
- 日本土木建築勞働組合
- 日本金屬勞働組合
- 日本食料勞働組合
- 日本一般使用人組合
- 日本化學勞働組合
- 失業者同盟

單一主要勞働組合

日本海員組合
神戸市海岸通三ノ二六
大正十五年五月創立
組合長 濱田國太郎
教育出版 米窪滿亮
國際部長
調査部長 那賀源三郎
政治部長 濱田國太郎
組織部長 赤崎寅藏
會計部長 德田五郎

東京瓦斯工組合
東京深川區本村町五四
大正八年七月創立
委員長 平野定藏

東電従業員組合
東京市下谷區豊住町二七
昭和二年十一月創立
執行委員長 佐良土英彦

前田隆一

蒲田勞友會
東京府蒲田町新宿一四二五
大正十二年三月創立
執行委員長 加藤留吉

芝浦勞働組合
東京芝區濱松町三八
大正十年十一月創立
高橋伍助

關西一般勞働組合
大阪西成區栃通一
大正十三年三月創立
西原澄夫

全國出版勞働組合
東京芝區新櫻田町
昭和四年一月創立
黒田壽雄

單一官公業勞働組合

全日本鐵道從業員組合
東京市外千駄ヶ谷六八三
大正十五月二月創立
松延繁治

東京市從業員組合
東京市神田區猿樂町二〇
大正十三年五月創立
執行委員長 小野正造

東京電氣勞働組合
東京市芝區南佐久間町二ノ一八
昭和二年十月創立
委員長 荒木藤一

日本製鐵勞働組合聯盟
八幡市立町三
大正九年九月創立
小野原惣三郎

陸軍勞働組合
大阪市北區相生町一
昭和五年七月一二日創立
執行委員長 塩山源之助

大阪市電愛友會
大阪市港區九條中通一丁目
大正十三年六月創立
奥井清三

神戸市從業員組合
神戸市海岸通六ノ一八
昭和五年五月創立
委員長 近藤孝三郎

大阪市現業員自治會
大阪市西淀川區海老江中通一丁目
昭和五年十一月創立
委員長 福井隆乘

單一主要勞働組合

日本海員組合
神戸市海岸通三ノ二六
大正十五年五月創立
組合長 濵田國太郎
教育出版 米窪滿亮
國際部長 那賀源三郎
調査部長 濵田國太郎
政治部長 赤崎寅藏
組織部長 德田五郎
會計部長

東京瓦斯工組合
東京深川區本村町五四
大正八年七月創立
委員長 平野定藏

東電從業員組合
東京市下谷區豊住町二七
昭和二年十一月創立
執行委員長 佐良土英彦

東京モスリン吾嬬工場從業員組合
東京府吾嬬町四〇
昭和三年八月創立
組合長 園部巖太郎

日本漁業勞働者組合
函館龜田町
昭和四年四月創立
鵜本德太郎

大阪電氣勞働組合
大阪此花區玉川町四ノ五三
大正九年三月創立
組合長 能美要

東電共和會
東京府大井町森下
昭和三年五月創立
勝俣博

大日本美術友禪工組合
大阪市西成區黒崎町一四三三
大正八年十一月創立
組合長 本田幾次郎

横濱市沖仲仕共濟會
横濱市中區壽町三ノ一二七
大正九年四月創立
中谷榮吉

立憲勞働黨
大阪市港區南泉尾町二丁目
大正十年九月創立
後藤田正毅

海員協會
神戸市上山手通八丁目
明治四十年三月創立
金尾治作

足尾銅山鑛職夫組合聯合會
栃木縣足尾町
大正十四年一月創立
前田隆一

蒲田勞友會
東京府蒲田町新宿一四二五
大正十二年三月創立
執行委員長 加藤留吉

芝浦勞働組合
東京芝區濱松町三八
大正十年十一月創立
高橋伍助

關西一般勞働組合
大阪西成區栃通一
大正十三年三月創立
西原澄夫

全國出版勞働組合
東京芝區新櫻田町
昭和四年一月創立
黒田壽雄

昭和　年二月創立　佐藤榮次郎

横濱工信會
横濱市永住町三
大正十三年三月創立　松村磯雄

俸給者組合

全國俸給生活者協會（東京）
昭和四年二月創立

全俸給生活者組合（東京）
昭和四年四月創立

工友同志會（東京）
昭和四年五月創立

關東俸給者組合（東京）
昭和四年七月創立

主要農民組合

全國農民組合
大阪市此花區四貫島元宮町一
大正十一年三月創立
中央執行委員長　杉山元治郎
中央常任委員　吉岡八十一
渡邊潛
宮向國平
山崎劍二
前川正一
統制委員長　小岩井淨

日本農民組合
東京市芝區南佐久間町一ノ五五
昭和二年三月創立
會長　片山哲
主事　稻富稜人
會計　龜田一郎

關東總合勞働組合同盟
東京府荏原町戸越
昭和二年八月創立
坪井專次郎

在日本朝鮮勞働總同盟
東京市戸塚源兵衛町
大正十四年二月創立
金天海

實用自動車從業員協和會
東京市下谷區稻荷町
昭和二年十二月創立
飯山利之助

日書從業員組合
東京市小石川區久堅町
大正十五年四月創立
瀨田竹次郎

京都陶磁器工組合
京都市上京區馬町
大正十一年六月創立
角田喜藏

日本ダンロップ護謨工組合
神戸市筒井町五二
大正十年八月創立
四井專太郎

秀英舍勞働組合
東京市牛込區加賀町
大正十五年一月創立
河村幸造

全日本自動車從業員組合
神戸市海岸通三ノ二六
昭和四年十一月創立
組合長赤崎寅藏

名古屋製陶勞働組合
名古屋市東區赤塚三ノ一四三
昭和五年六月創立
執行委員長山內欣一

瀨戸製陶勞働組合
瀨戸市一九二一
昭和二年二月創立
佐藤榮次郎

橫濱工信會
橫濱市永住町三
大正十三年三月創立
松村磯雄

俸給者組合

全國俸給生活者協會（東京）
昭和四年二月創立

全俸給生活者組合（東京）
昭和四年四月創立

工友同志會（東京）
昭和四年五月創立

關東俸給者組合（東京）
昭和四年七月創立

日本一般使用人組合（東京）
昭和五年三月創立

全國俸給者組合評議會（東京）
昭和五年八月創立

東京映畫說明者向上會（東京）
昭和五年十月創立

關東映畫從業員組合（東京）
昭和五年十二月創立

全國サラリーマン組合（大阪）
昭和五年九月創立

大阪俸給者組合（大阪）
大正十五年十月創立

神戸俸給生活者組合（神戸）
大正十四年六月創立

名古屋俸給者組合（名古屋）
昭和五年九月創立

婦人團體

無產婦人同盟
東京市芝區田村町六六荒木ビル
昭和三年十一月創立
執行委員長岩山とみゑ
書記長堺眞柄

社會民衆婦人同盟
東京市芝區南佐久間町一ノ五五
昭和三年九月創立
執行委員長缺員
書記長赤松明子

主要農民組合

全國農民組合
大阪市此花區四貫島元宮町一
大正十一年三月創立
中央執行委員長 杉山元治郎
中央常任委員 吉岡八十一
渡邊潛
宮向國平
山崎劍二
前川正一
統制委員長 小岩井淨

日本農民組合
東京市芝區南佐久間町一ノ五五
昭和二年三月創立
會長片山哲
主事稻富稜人
會計龜田一郎

昭和六年九月十三日印刷
昭和六年九月十六日發行

大阪市社會部調査課

大阪市西區藏下通壹丁目拾貳番地

印刷者　今資會社　一成舍印刷所

電話土佐堀　一五〇八番
　　五六四八番